

令和4年度  
第1回 葛飾区区民モニター  
アンケート調査  
報告書

- 「葛飾区のSDGsについて」 —
- 「資源とごみについて」 —
- 「里親（養育家庭）について」 —
- 「子どもの権利擁護について」 —

令和4年9月



# 目次

I 調査概要	- 3 -
1 調査の目的	- 3 -
2 調査のテーマ	- 3 -
3 調査の設計	- 3 -
4 調査機関	- 3 -
5 報告書の表記について	- 3 -
II 回答者の属性	- 4 -
(1) 性別	- 4 -
(2) 年齢層	- 4 -
(3) 居住地域（7区分）	- 5 -
(4) 居住地域（28区分）	- 6 -
(5) 職業	- 7 -
(6) 居住地域別（7区分）×性別・年代別	- 7 -
III 調査結果の詳細	- 8 -
1 葛飾区のSDGsについて	- 8 -
(1) SDGsについて	- 8 -
(2) SDGsへの関心	- 9 -
(3) SDGsに関心がない理由	- 11 -
(4) SDGsのPR方法	- 13 -
(5) SDGsを意識した行動	- 17 -
(6) SDGsの17の目標のうち、取り組んでみたいと思う目標	- 19 -
(7) SDGsの実現に向けて実際に取り組んでみたいこと	- 20 -
(8) SDGs実現のために重要なこと	- 21 -
(9) 葛飾区におけるSDGsの取組についてのご意見	- 23 -
2 資源とごみについて	- 24 -
(10) プラマークの分別収集について	- 24 -
(11) 普段のプラマークの分別について	- 26 -
(12) 「燃やすごみの日」「燃やさないごみの日」に出している理由について	- 28 -
(13) ごみ出しの際に参考にするもの	- 30 -
(14) プラマークの資源化について	- 31 -
(15) プラマークの資源化に賛成の理由	- 33 -
(16) プラマークの資源化に反対の理由	- 33 -
(17) 現在の区の資源・ごみの分別について	- 34 -
(18) プラスチック製品の分別について	- 36 -

(19) 区への要望 .....	- 38 -
(20) 資源の分別やごみの出し方などについてのご意見.....	- 39 -
3 里親（養育家庭）について .....	- 41 -
(21) 自分の家庭で生活できない子どもたちが暮らすことのできる生活の場について.....	- 41 -
(22) 里親制度の認知度について .....	- 42 -
(23) 里親制度をどのように知ったか .....	- 44 -
(24) 種類について .....	- 44 -
(25) 登録可能な人について .....	- 45 -
(26) 里親になってみたい気持ちについて .....	- 45 -
(27) 里親になりたい理由について .....	- 47 -
(28) 里親になりたくない理由について .....	- 47 -
(29) 行政の手当や養育サポートの認知度について.....	- 48 -
(30) 普及していない理由について .....	- 50 -
(31) 効果的な広報活動について .....	- 50 -
(32) 里親制度についてのご意見 .....	- 51 -
4 子どもの権利擁護について .....	- 53 -
(33) 子どもの権利条約の認知度について .....	- 53 -
(34) 子どもの権利条約のイメージについて .....	- 55 -
(35) 区が特に力を入れて守っていきべき権利について.....	- 57 -
(36) 権利の尊重について .....	- 59 -
(37) 子どもの権利条約を知っておいてほしい人について.....	- 61 -
(38) 子どもが相談しやすい人について .....	- 63 -
(39) 相談方法について .....	- 65 -
(40) 知っている相談先について .....	- 67 -
(41) 取組推進のために重要なこと .....	- 68 -
(42) 区民向けの効果的な周知方法について .....	- 70 -
(43) 子どもの権利を守ることについてのご意見.....	- 72 -

# I 調査概要

## 1 調査の目的

区が実施している施策や区が発信している情報等について、公募で募った「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るもの。

## 2 調査のテーマ

- (1) 「葛飾区のSDGsについて」
- (2) 「資源とごみについて」
- (3) 「里親（養育家庭）について」
- (4) 「子どもの権利擁護について」

## 3 調査の設計

- |           |                              |
|-----------|------------------------------|
| (1) 調査対象  | 区民モニター200名                   |
| (2) 調査方法  | 郵送での調査の配付・回収（インターネット回答併用）    |
| (3) 調査期間  | 令和4年6月2日（木）～6月24日（金）         |
| (4) 有効回答数 | 190名（郵送回答：99名、インターネット回答：91名） |

## 4 調査機関

株式会社ケー・デー・シー

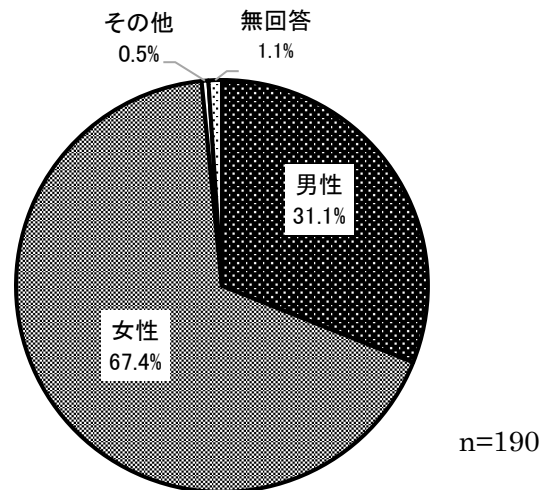
## 5 報告書の表記について

- (1) 比率は全て百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数として、算出している。
- (3) 複数回答の設問では、1人の回答数が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
- (4) 年齢層・年代別の20歳代には、18歳・19歳を含んでいる。

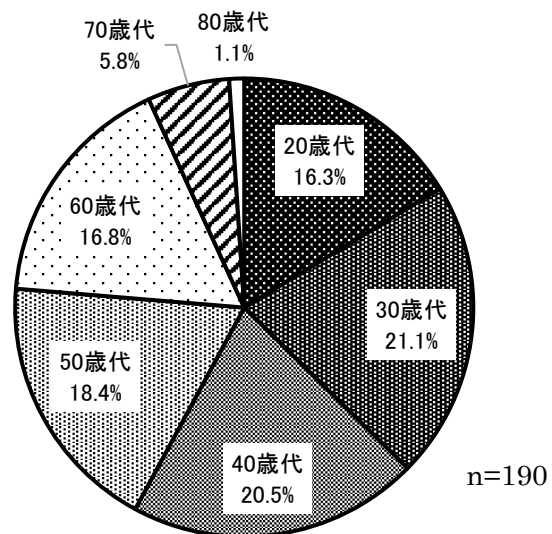
※この報告書は、区公式ホームページ（<http://www.city.katsushika.lg.jp/>）に掲載している。（トップページ>区政情報>統計・調査>調査）

## Ⅱ 回答者の属性

### (1) 性別

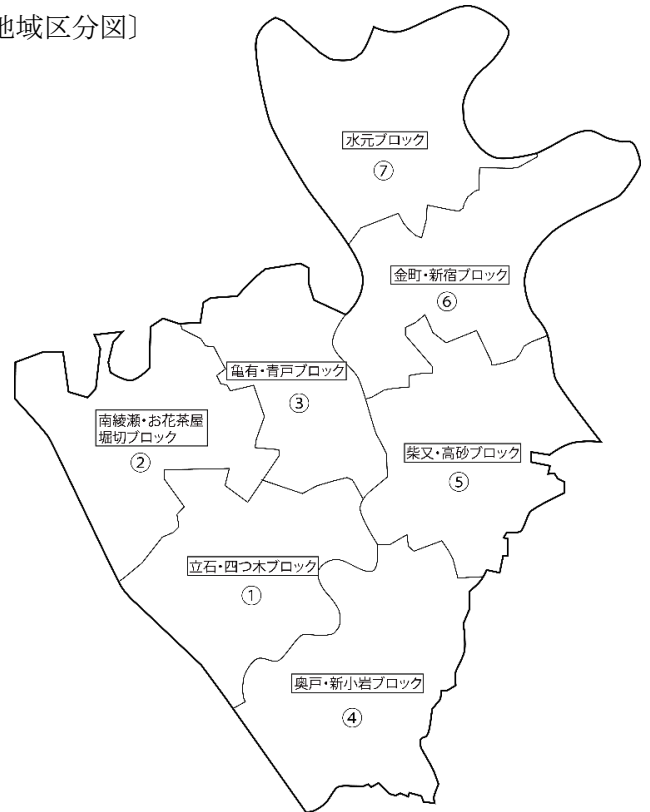
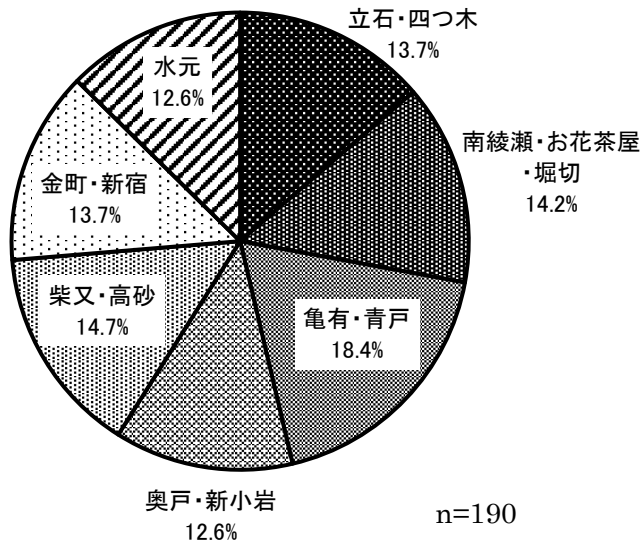


### (2) 年齢層



(3) 居住地域 (7 区分)

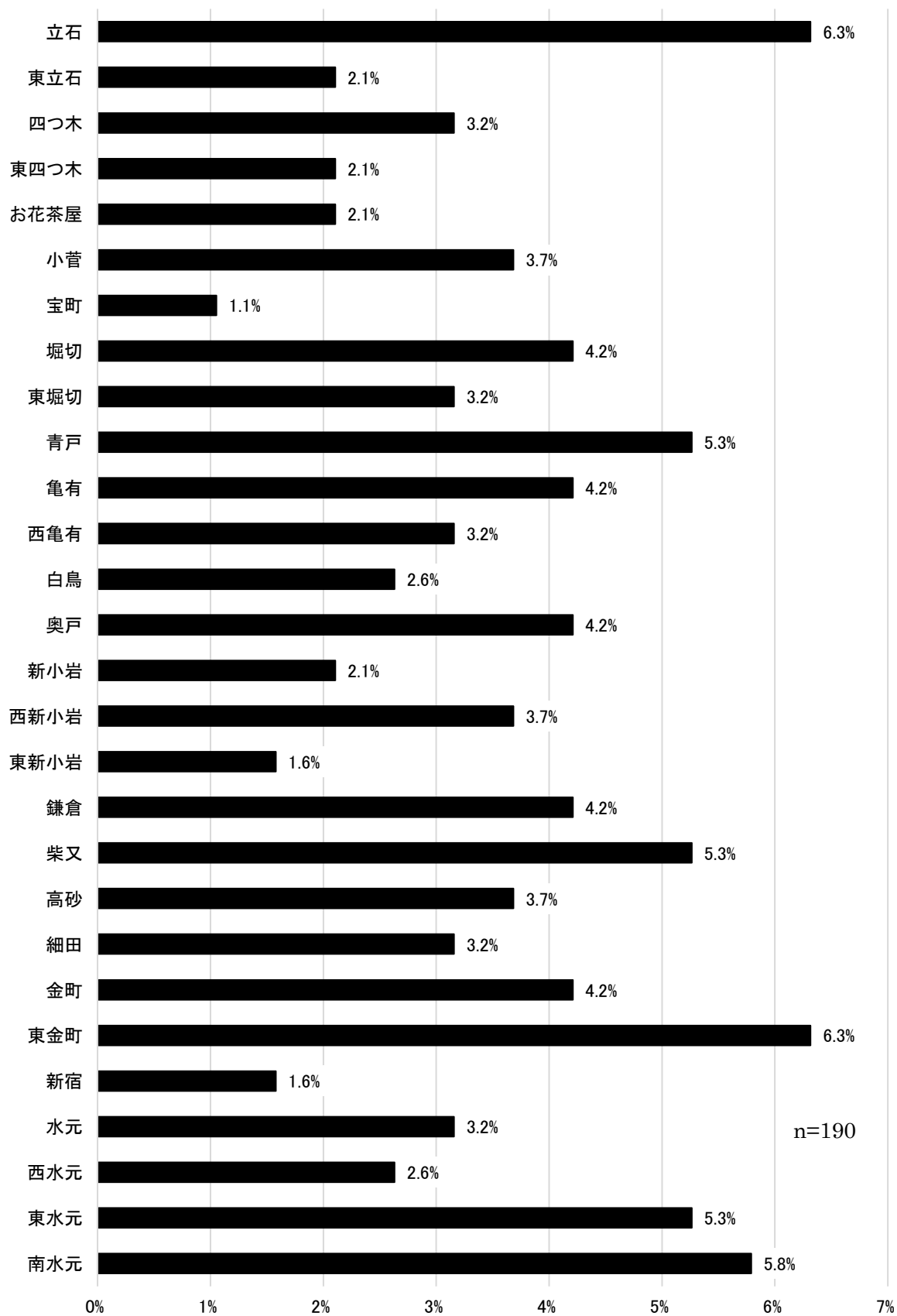
[居住地域区分図]



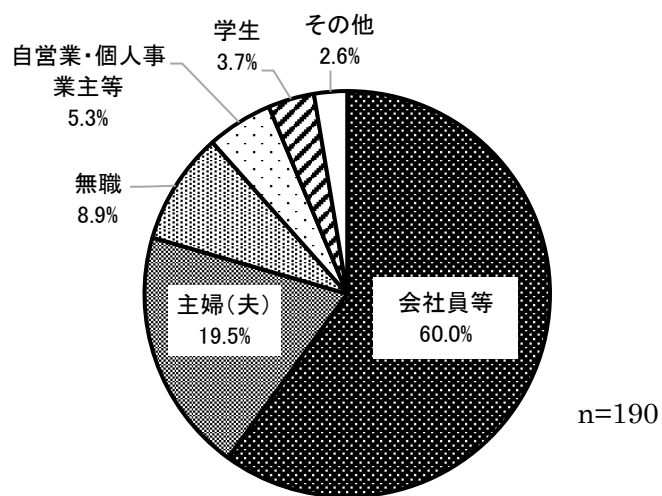
[居住地域区分表]

	ブロック名	町名
1	立石・四つ木ブロック	立石・東立石・四つ木・東四つ木
2	南綾瀬・お花茶屋・堀切ブロック	お花茶屋・小菅・宝町・堀切・東堀切
3	亀有・青戸ブロック	青戸・亀有・西亀有・白鳥
4	奥戸・新小岩ブロック	奥戸・新小岩・西新小岩・東新小岩
5	柴又・高砂ブロック	鎌倉・柴又・高砂・細田
6	金町・新宿ブロック	金町・東金町・新宿
7	水元ブロック	水元・西水元・東水元・南水元

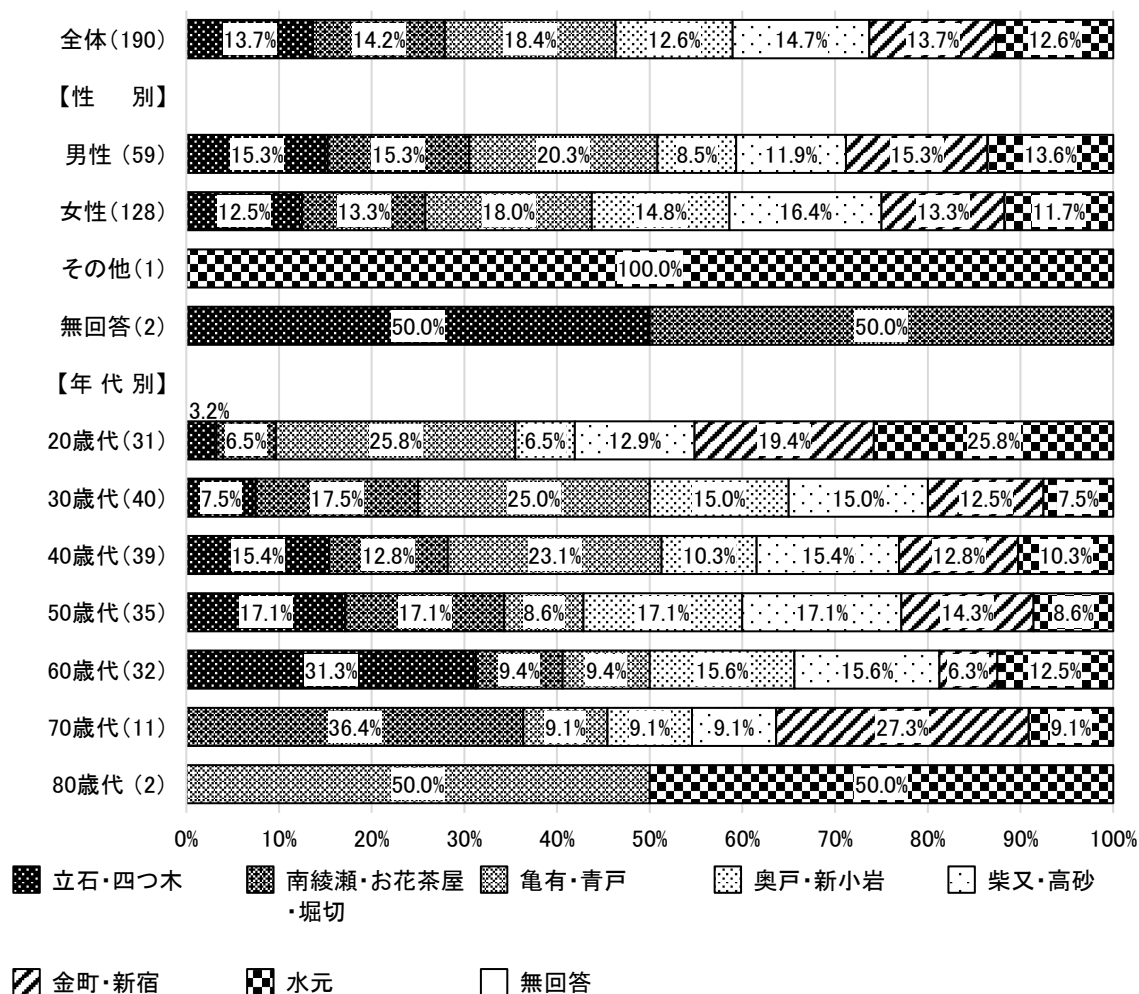
(4) 居住地域 (28 区分)



(5) 職業



(6) 居住地域別 (7区分) × 性別・年代別





### Ⅲ 調査結果の詳細

#### 1 葛飾区のSDGsについて

区では、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向け、「協働の推進」や「健康長寿の実現」、「産業の振興」、「切れ目ない子育て施策の推進」など様々な取組を行っています。

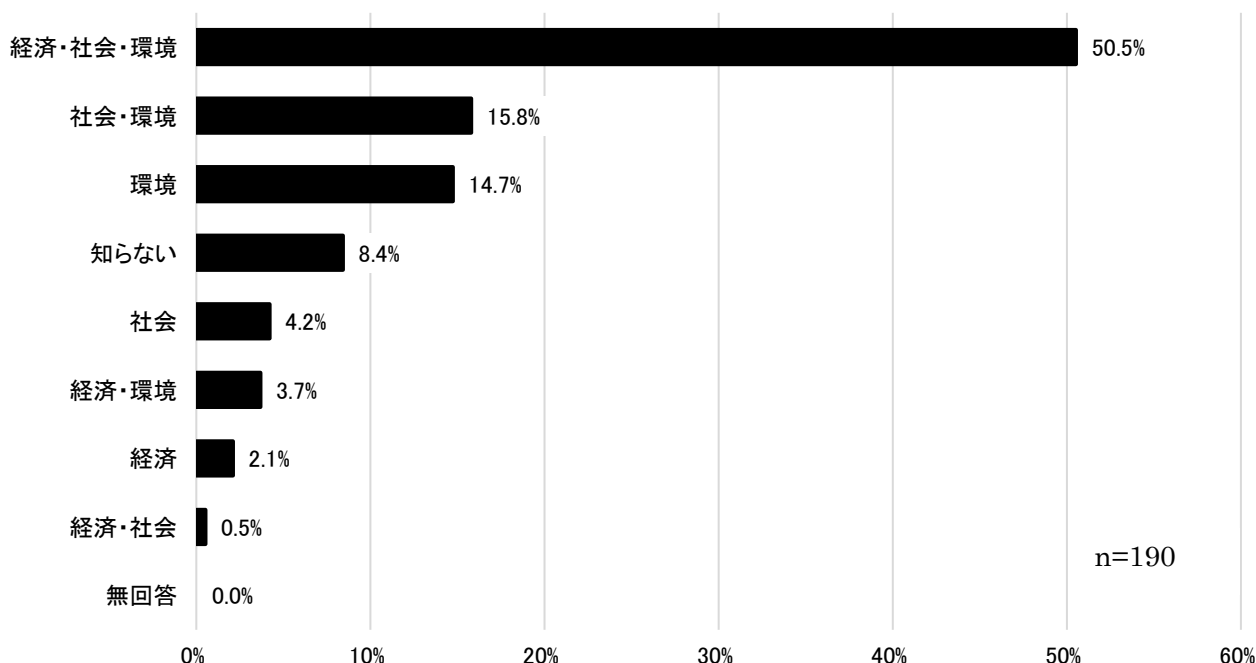
令和4年度には、SDGsの実現に向けた取組を具体的・積極的に推進していくため、「(仮称)葛飾区SDGs推進計画」を策定する予定です。計画策定にあたり、区民モニターの皆様のご意見をお聞きします。

※SDGs…平成27年9月の国連サミットにおいて採択された、令和12（2030）年までに持続可能でよりよい世界の実現を目指す国際目標のことです。貧困や教育、人権や気候変動などの達成すべき17のゴールがあります。

##### (1) SDGsについて

問1 SDGsは、何の発展に関する目標か知っていますか？（〇はいくつでも）

「経済・社会・環境」の3つすべてを選択した方が50.5%で最も高くなっている。次いで「社会・環境」の2つを選択した方が15.8%、「環境」のみを選択した方が14.7%が続いている。

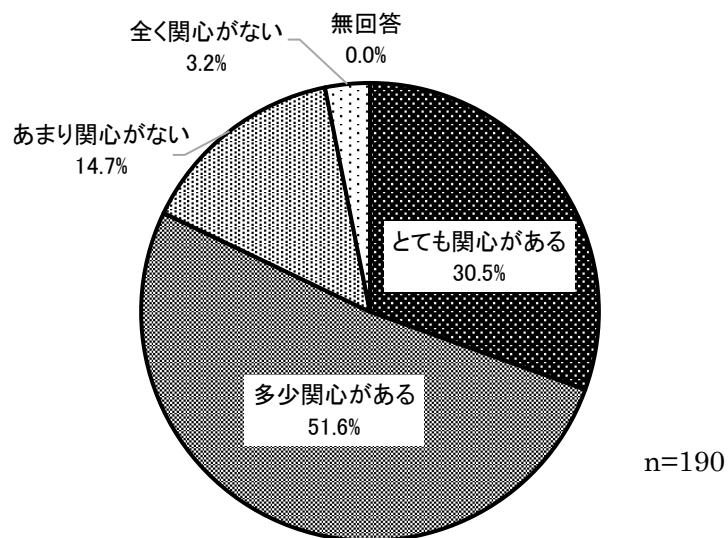


## (2) SDGsへの関心

問2 SDGsについて、どの程度関心がありますか？（〇は1つ）

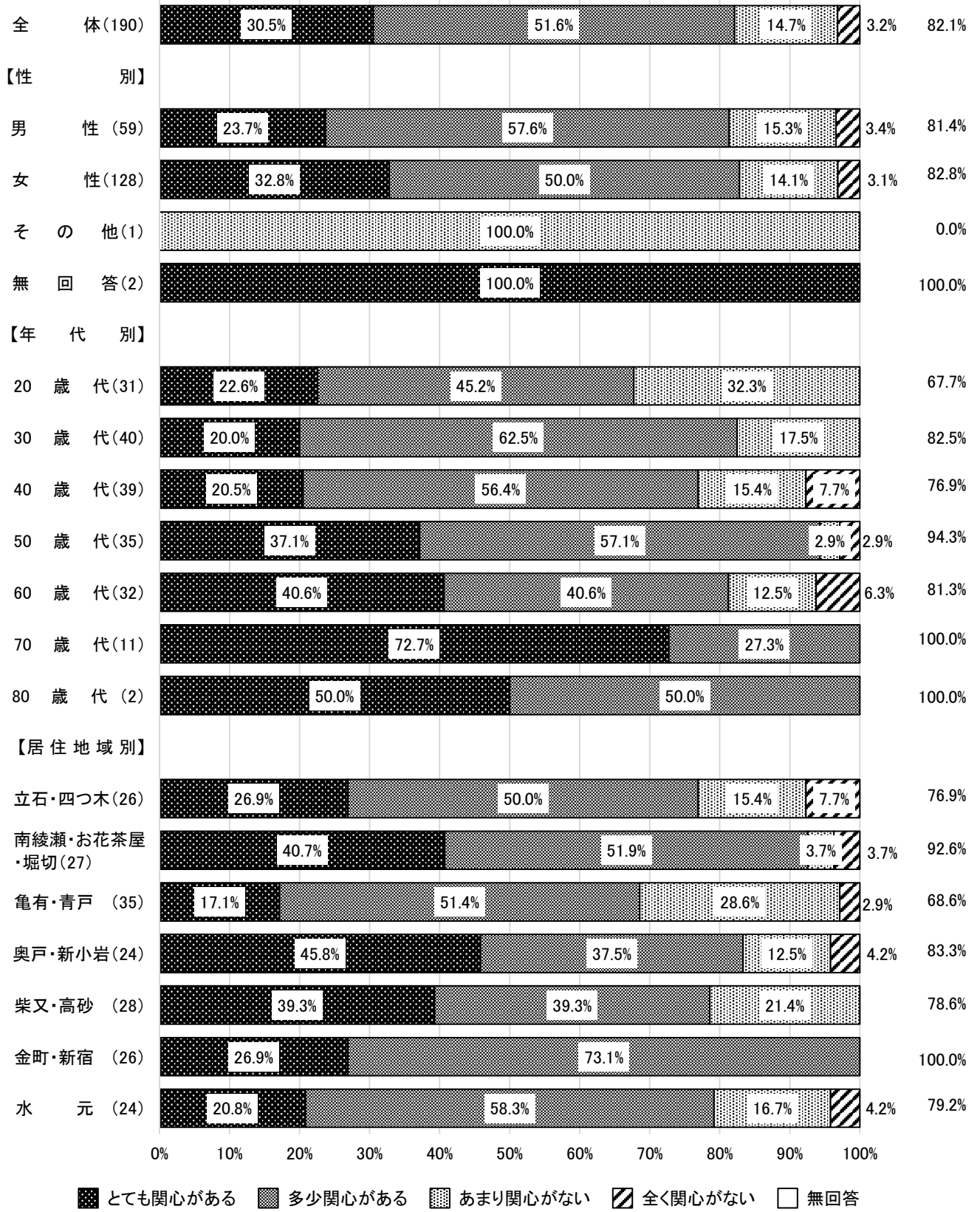
SDGsへの関心について、「多少関心がある」と答えた方が51.6%で最も高くなっている。

年代別で見ると、20歳代から50歳代までは「多少関心がある」が最も高く、60歳代以上では「とても関心がある」が最も高くなっている。「とても関心がある」が最も高い割合となったのは70歳代で72.7%となっている。



問2 SDGsについて、どの程度関心がありますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

関心がある  
 (計)

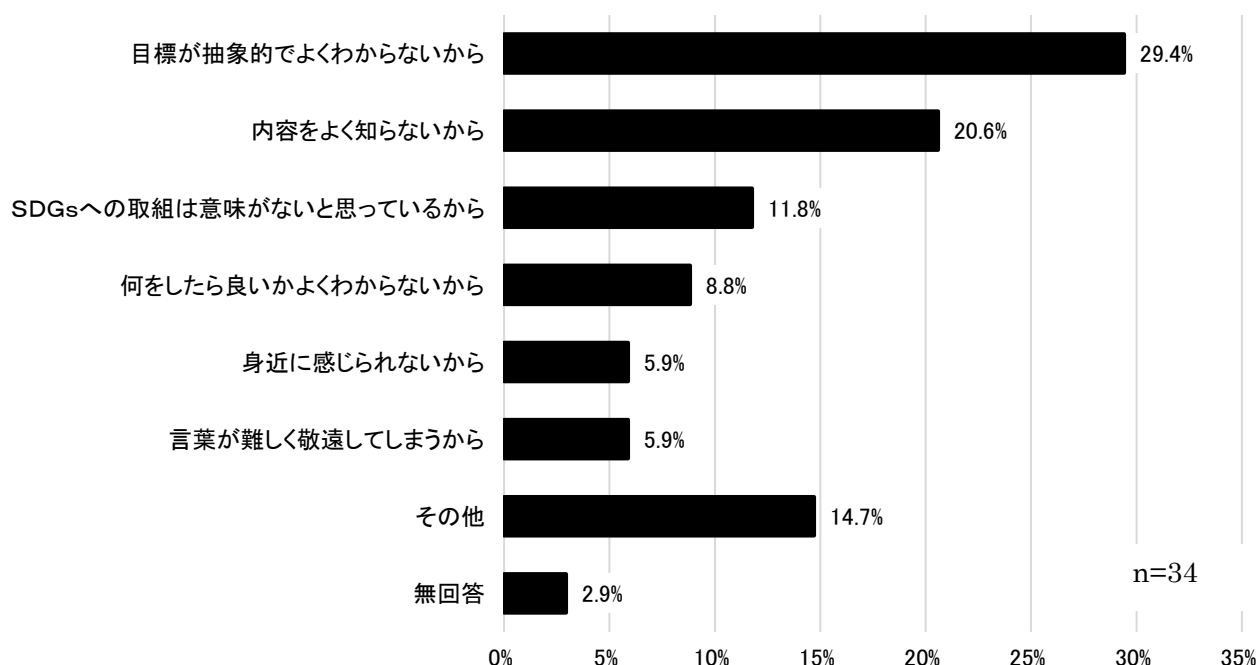


### (3) SDGsに関心がない理由

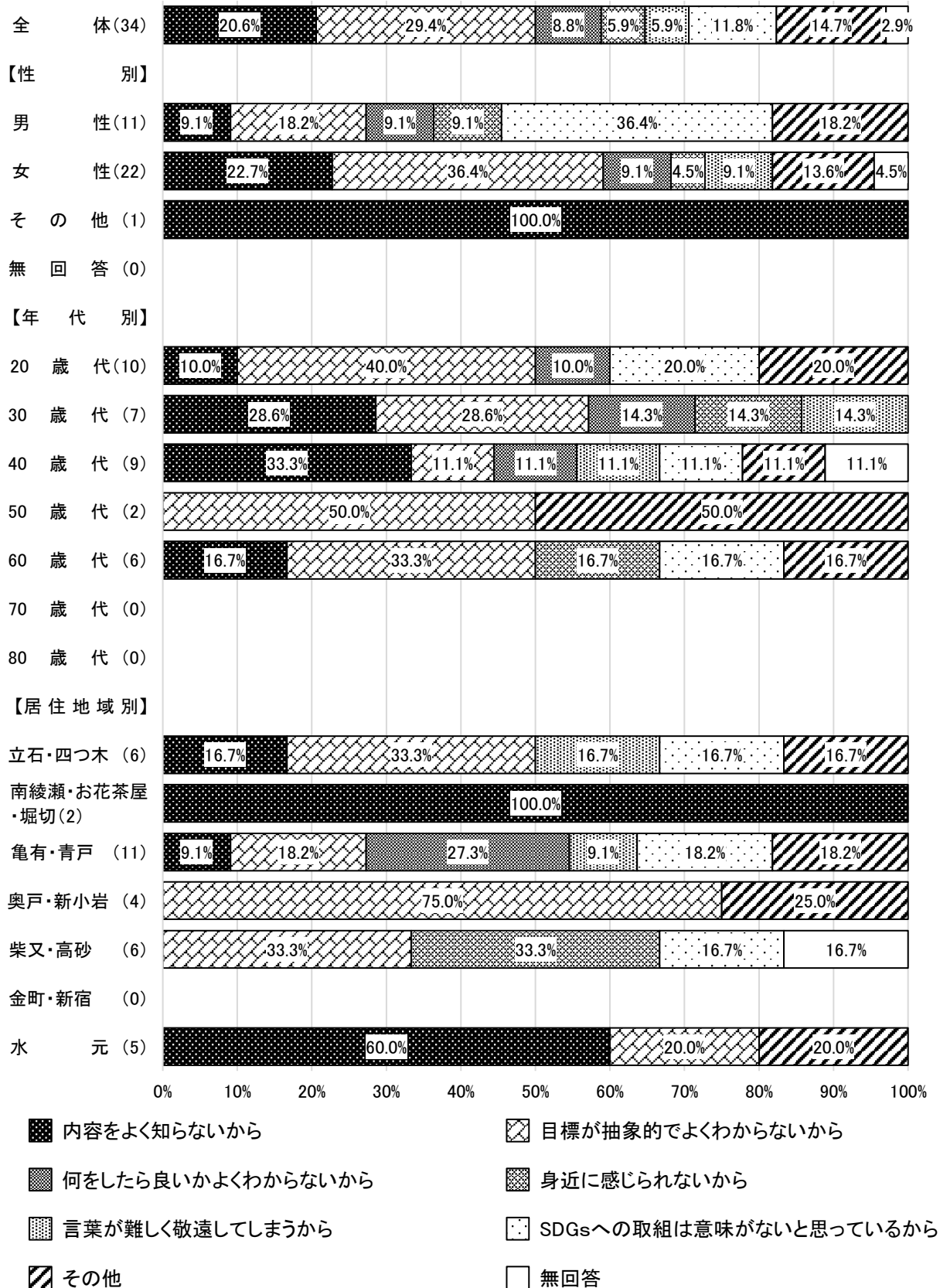
問3 問2で選択肢「3 あまり関心がない」・「4 全く関心がない」を選択した方にお伺いします。関心がない理由を教えてください。(〇は1つ)

SDGsに関心がない理由は「目標が抽象的でよくわからないから」が29.4%で最も高くなっている。年代別でみると、「目標が抽象的でよくわからないから」が最も高くなったのは20歳代の40.0%と60歳代の33.3%となっており、「内容をよく知らないから」が最も高くなったのは40歳代の33.3%であった。また、30歳代では「内容をよく知らないから」と「目標が抽象的でよくわからないから」が28.6%、50歳代では「目標が抽象的でよくわからないから」と「その他」が50.0%でともに最も高い結果となった。70歳代と80歳代の回答はなかった。

「その他」の内容としては、「経済的に余裕が有る立場の人達の自己満足」、「企業がイメージアップの為に使っているが実際は内容が薄いものだったりする」などがある。



問3 問2で選択肢「3あまり関心がない」・「4全く関心がない」を選択した方にお伺いします。関心がない理由を教えてください。  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



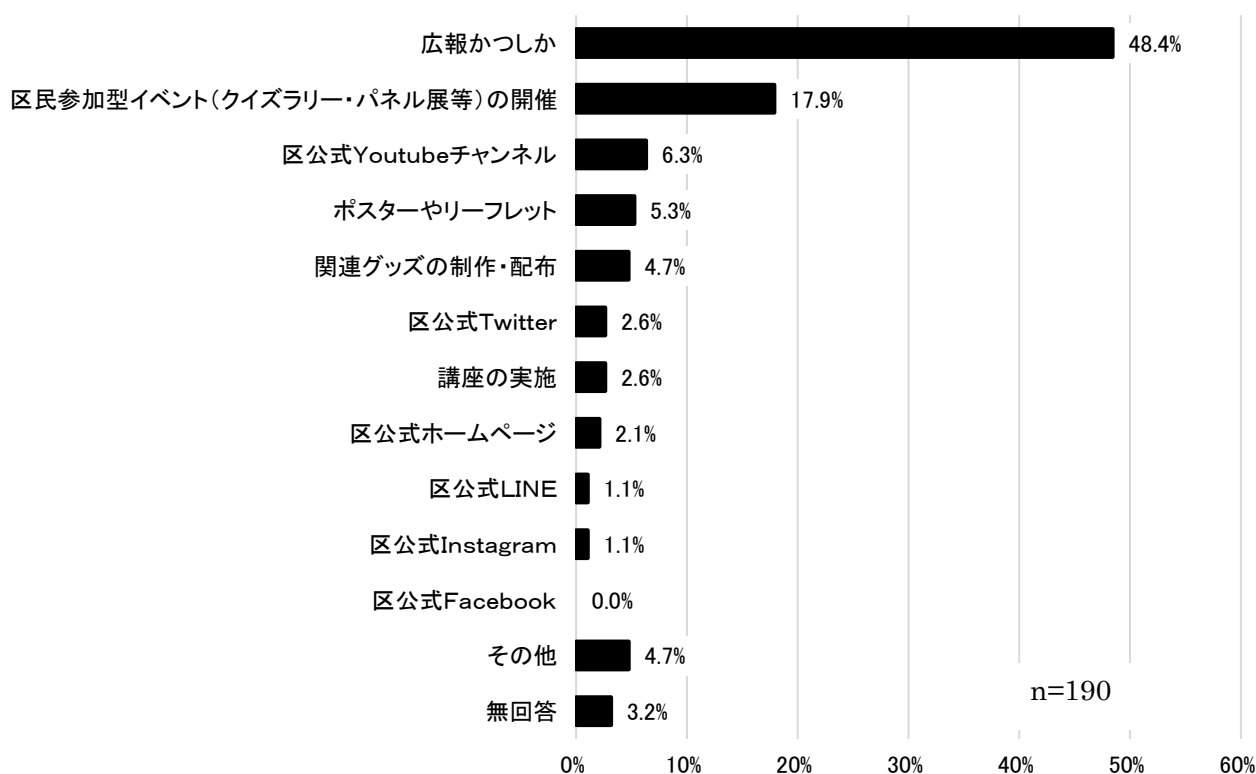
#### (4) SDGsのPR方法

問4 SDGsを知らない方に対して興味を持っていただくためには、区として、今後どのような方法でPRを行っていくことが最も効果的だと思いますか？また、回答の理由や取り上げてほしい内容があれば教えてください。(〇は1つ)

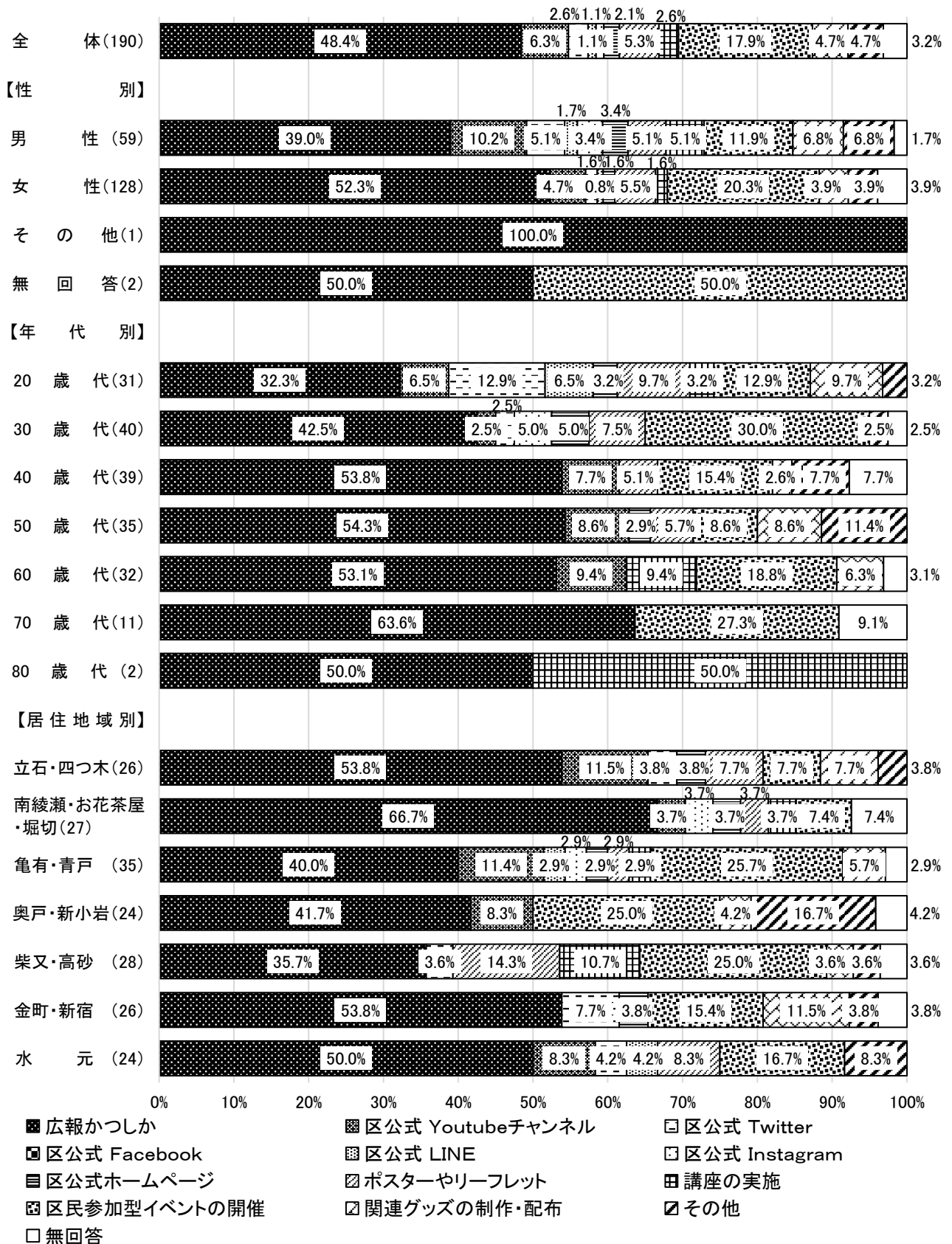
効果的だと思われるPR方法は、「広報かつしか」が48.4%で最も高くなっている。

年代別でも、すべての年代で「広報かつしか」が最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「マンガなどで説明したものを広報かつしかに載せる」、「街中の掲示板に貼る」、「公園や広場でパネル展示やクイズをして、点数により認定証などを配布」などがある。



問4 SDGsを知らない方に対して興味を持っていただくためには、区として、  
今後どのような方法でPRを行っていくことが最も効果的だと思いますか？  
(全体・性別・年齢別・居住地域別)



(主な回答)

<広報かつしかと回答した理由>

- ・ 広報かつしかなら誰でも見ると思うから。(30 歳代/女性)
- ・ 児童、生徒やその保護者は学校教育で知る機会があるので、それ以外の方にPRとなると、紙ベースのPRがよいから。(40 歳代/女性)
- ・ 広報かつしかは区民全世帯に配布されているため、目にしやすいから。(50 歳代/女性)
- ・ 区の情報を知るのに1番きっかけとなるのが広報かつしかだから。(20 歳代/女性)
- ・ お年寄りや知らない人には文字で読むものが効果的だと考えるから。(30 歳代/女性)

など

<区公式YouTubeチャンネルと回答した理由>

- ・ YouTubeはおすすめ動画が表示されるので、興味のなかった人の目にふれる可能性が高いから。(50 歳代/女性)
- ・ 次世代の方に理解していただくことがキーポイントだから。(50 歳代/男性)
- ・ SDGsに関心があるのはどちらかと言うとネット利用者が多いから。(40 歳代/男性)
- ・ 1番宣伝効果が高い媒体だと思うから。(30 歳代/男性)

など

<区公式Twitterと回答した理由>

- ・ SNSの方がニュースよりも目に入るから。(20 歳代/男性)
- ・ Twitterなら回ってくれば見るから。(20 歳代/女性)

<区公式ホームページと回答した理由>

- ・ TwitterやInstagramだと使用している人が偏っていたり、老人などは分からないだろうから。(30 歳代/男性)

<ポスターやリーフレットと回答した理由>

- ・ 街中の掲示板に貼ってあれば、忙しい社会人でも通りすがりに目を向けることがあるかもしれないから。(30 歳代/女性)
- ・ 自然に目に触れるような方法の方が、より情報に触れる機会が増え、意識してもらえと思うから。(20 歳代/女性)
- ・ SNSのユーザーは興味のない内容に関して全く目を向けないことの方が多いと感じるから。(20 歳代/男性)



### <講座の実施と回答した理由>

- ・資料だけでは頭に入らないので、言葉で説明を受ければ、重要点が分かると思うから。(60 歳代/女性)
- ・葛飾区はどちらかと言うと若者は少なく高齢者が多い土地であり、インターネットを利用する方法はあまり効果的では無いように思うから。(20 歳代/男性)

### <区民参加型イベントと回答した理由>

- ・子どもが興味を抱きやすく、楽しみながら学ぶことができるから。(30 歳代/女性)
  - ・インターネット、広報などより体験して楽しみながら知ってもらえることができるから。(60 歳代/女性)
  - ・区の学校で、SDGsについて体験型のイベント等をして取り組めたら子どもを通して社会に興味が出ると思うから。(30 歳代/女性)
  - ・インターネットを使わない世代にも、文字を読むのが苦手な世代にも分かりやすいと思うから。
  - ・参加型が一番興味をもちやすいと思ったから。(30 歳代/女性)
  - ・SDGsに興味がなくとも感覚的にどういうものかということを知り得ることができるから。(40 歳代/女性)
- など

### <関連グッズの制作・配布と回答した理由>

- ・見る・聞くだけではなかなか伝わらないので手にしてもらうのがよいと思うから。(50 歳代/女性)
- ・目新しく感じるから。(60 歳代/男性)

### <取り上げてほしい内容>

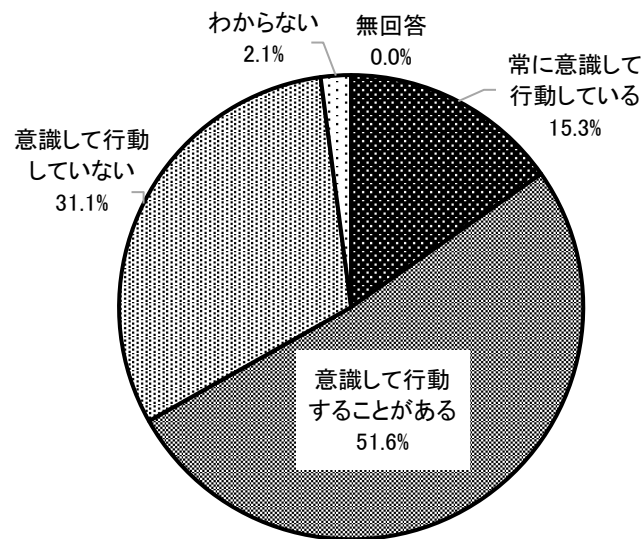
- ・「身近な問題、『つくる責任・つかう責任』」
- ・「安心・安全で住み続けられるまちづくり」
- ・「SDGs 実現のために私たちができること」
- ・「実際に行われている区の取組とその効果」
- ・「SDGs に関する取組を行わなかった場合に起こり得る問題」
- ・「環境保持をし、今後も継続できること」
- ・「気候変動の具体的な対策と現状に対してどうすべきか」
- ・「葛飾区内のSDGsの取組紹介」
- ・「リサイクル用品の活用と展開」
- ・「途上国へのリサイクル品の提供を介した支援」

など

(5) SDGsを意識した行動

問5 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、SDGsを意識して行動をしていますか？  
(〇は1つ)

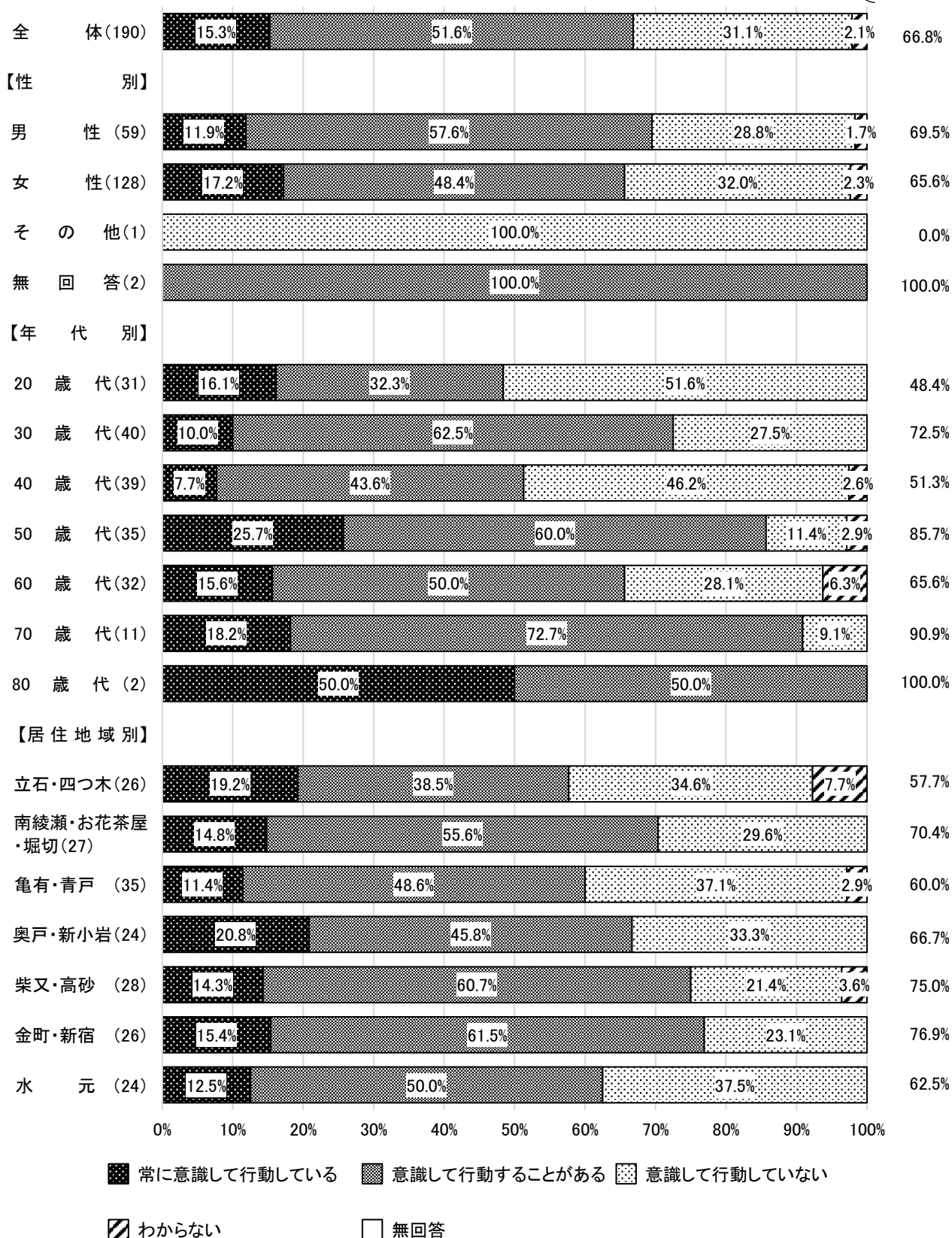
SDGsを意識した行動について、「意識して行動することがある」が51.6%で最も高くなっている。年代別で見ると、「常に意識して行動している」と「意識して行動することがある」を合わせた「行動している」と回答した割合は、20歳代では48.4%と5割を下回っているが、30歳代では72.5%、40歳代では51.3%、50歳代では85.7%、60歳代では65.6%、70歳代では90.9%、80歳代では100.0%となっている。



n=190

問5 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、  
SDGsを意識して行動をしていますか？  
(全体・性別・年齢別・居住地域別)

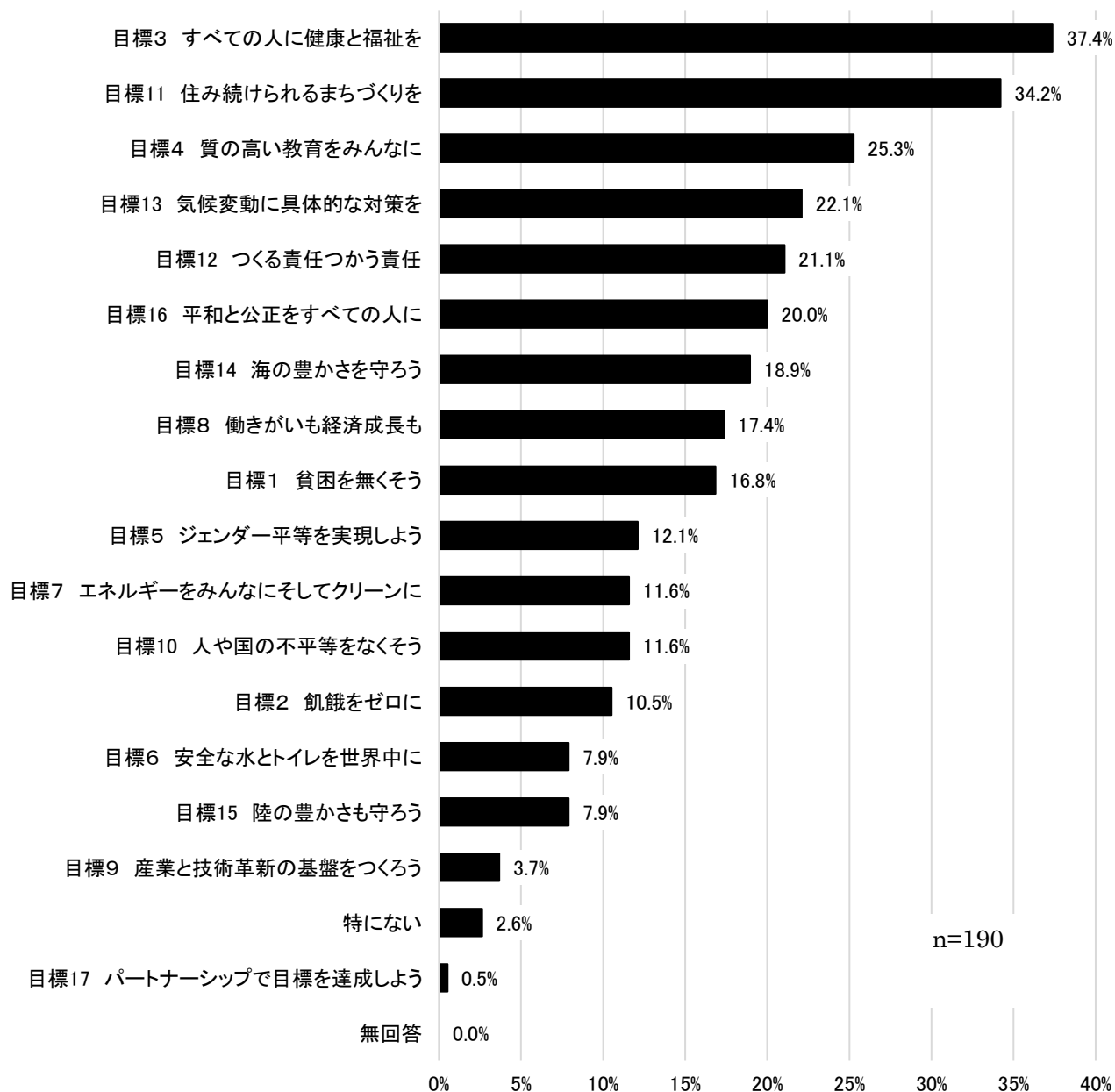
意識して  
行動している  
(計)



(6) SDGsの17の目標のうち、取り組んでみたいと思う目標

問6 SDGsの17の目標のうち、あなたがSDGs実現のため、取り組んでみたいと思う目標は何ですか？（〇は3つまで）

取り組んでみたい目標について、最も高くなったのは「目標3 すべての人に健康と福祉を」で37.4%であった。次いで「目標11 住み続けられるまちづくりを」が34.2%、「目標4 質の高い教育をみんなに」が25.3%で続いている。

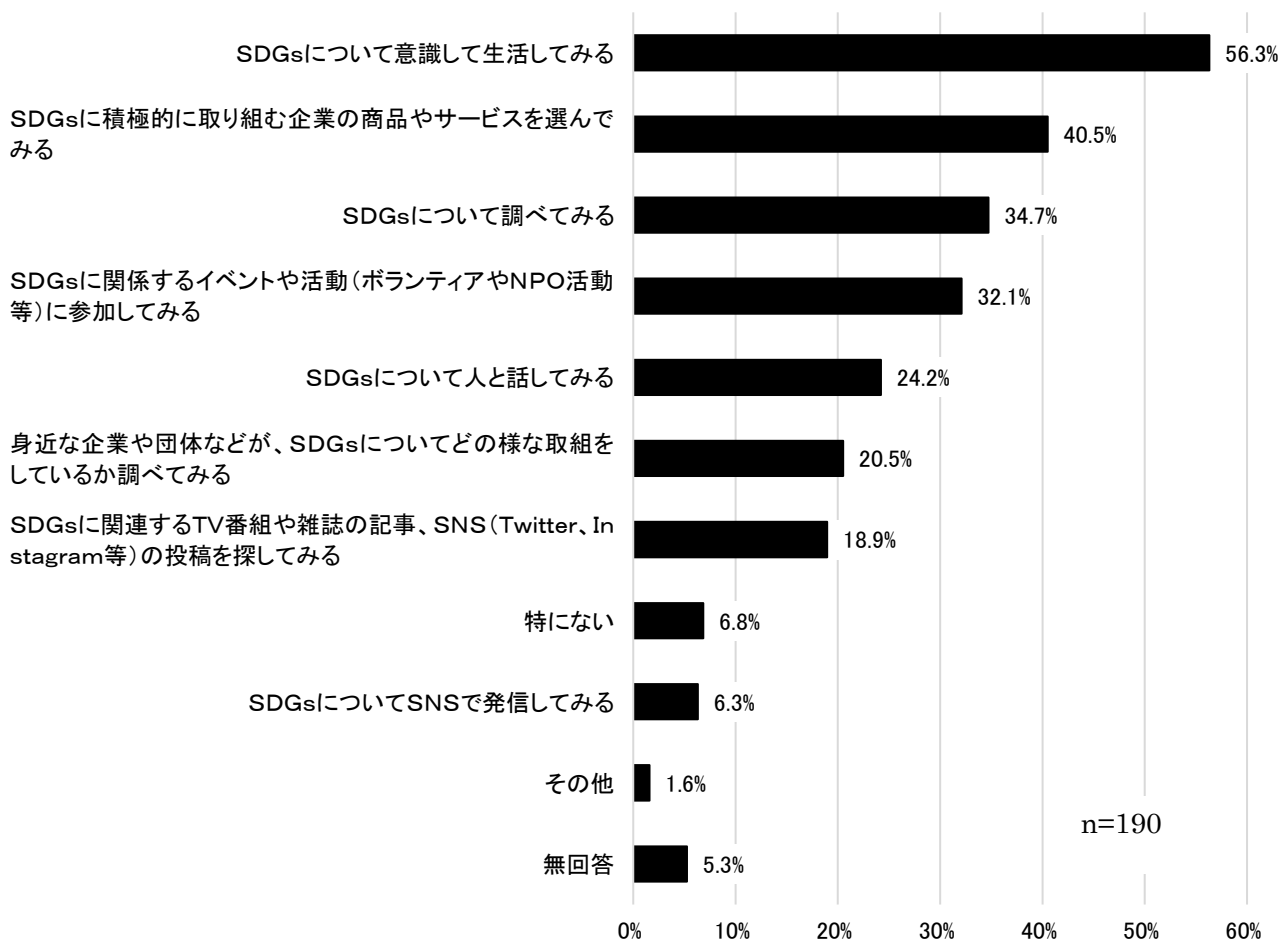


## (7) SDGsの実現に向けて実際に取り組んでみたいこと

問7 SDGsの実現に向けて、あなたが実際に取り組んでみたいことは何ですか？  
(あてはまるものすべてに○)

実際に取り組んでみたいことで最も高くなったのは、「SDGsについて意識して生活してみる」で56.3%であった。次いで「SDGsに積極的に取り組む企業の商品やサービスを選んでみる」が40.5%、「SDGsについて調べてみる」が34.7%で続いている。

「その他」の内容としては、「子どもたちと一緒に考え、行動する」、「町内会の行事に参加する」などがある。



## (8) SDGs実現のために重要なこと

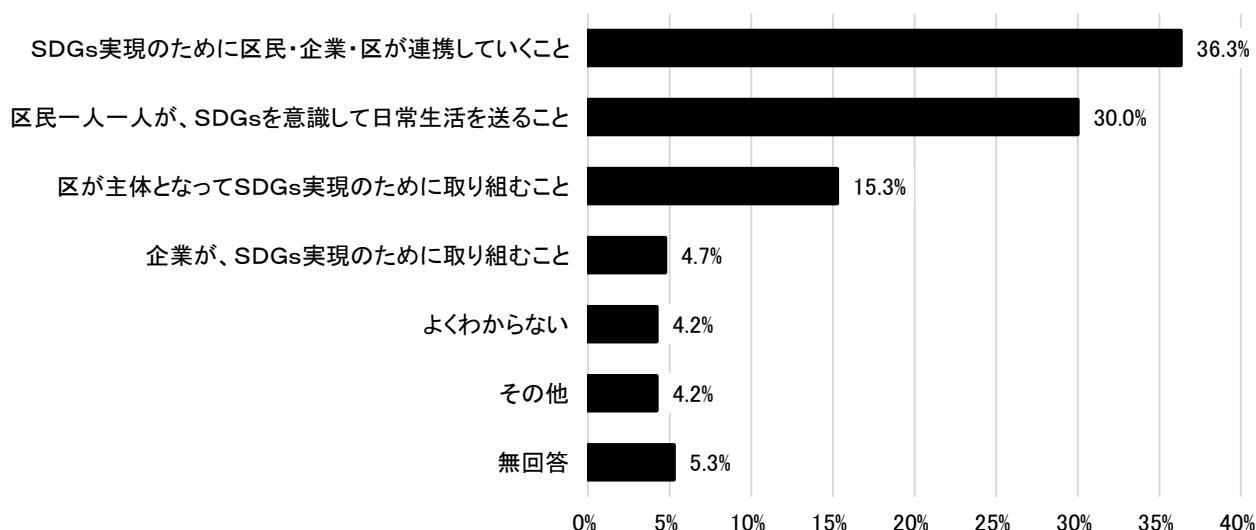
問8 葛飾区でSDGsを実現するため、最も重要だと思うことは何ですか？（〇は1つ）

葛飾区でSDGsを実現するため、重要だと思うことは「SDGs実現のために区民・企業・区が連携していくこと」が36.3%で最も高くなった。

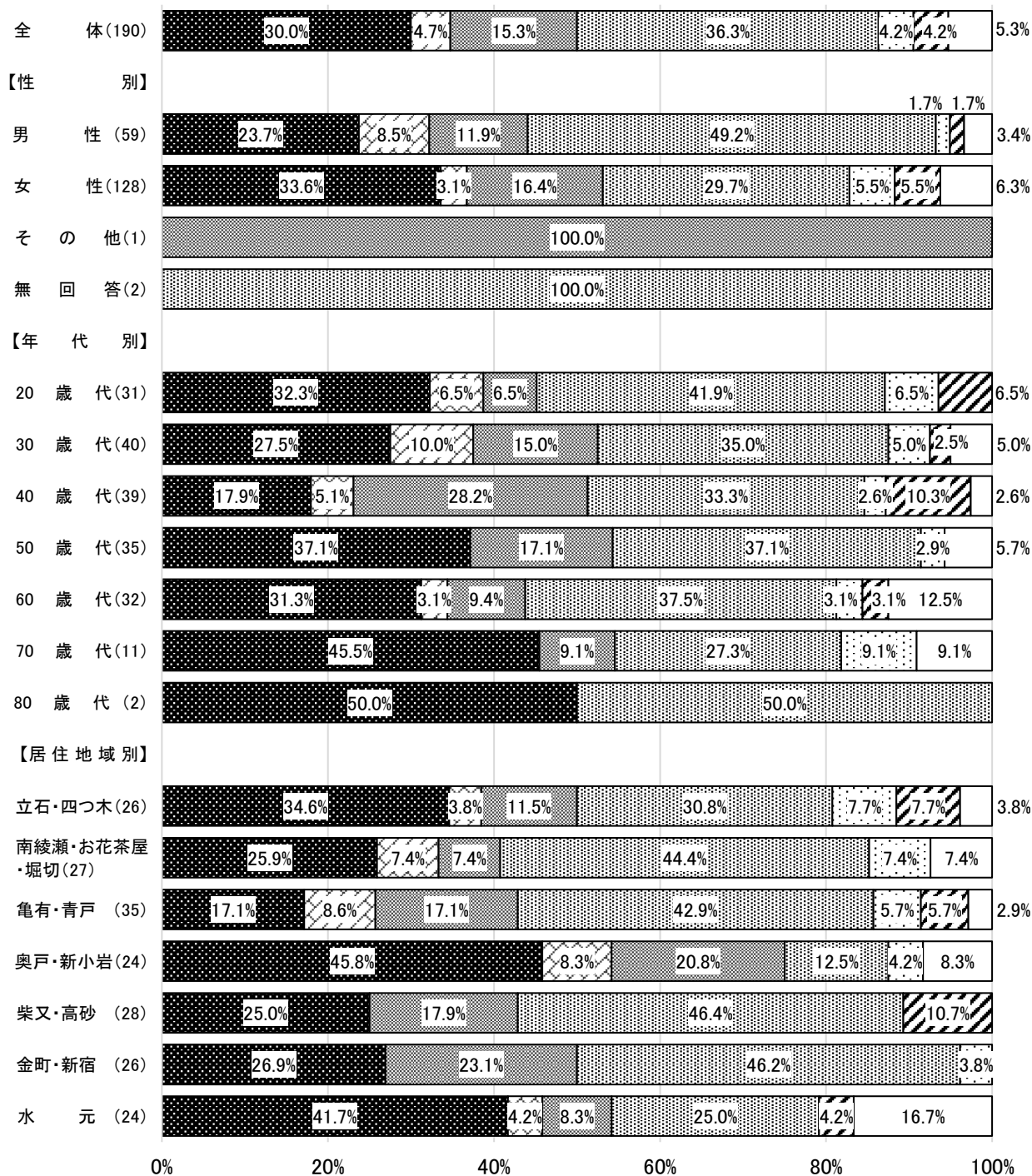
年代別で見ると、「SDGs実現のために区民・企業・区が連携していくこと」が最も高くなったのは、20歳代で41.9%、30歳代で35.0%、40歳代で33.3%、60歳代で37.5%となっており、「区民一人一人が、SDGsを意識して日常生活を送ること」が最も高くなったのは、70歳代で45.5%であった。

「区民一人一人が、SDGsを意識して日常生活を送ること」と「SDGs実現のために区民・企業・区が連携していくこと」がともに最も高くなったのは50歳代で37.1%、80歳代で50%であった。

「その他」の内容としては、「インターネットや新聞も読まない人向けの広報」、「葛飾区におけるSDGsの定義、認知」、「SDGsがなぜ必要なのかの本質的な説明」などがある。



問8 葛飾区でSDGsを実現するため、最も重要だと思うことは何ですか？  
(全体・性別・年齢別・居住地域別)



- 区民一人一人が、SDGsを意識して日常生活を送ること
- 企業が、SDGs実現のために取り組むこと
- 区が主体となってSDGs実現のために取り組むこと
- SDGs実現のために区民・企業・区が連携していくこと
- その他
- よくわからない
- 無回答

(9) 葛飾区におけるSDGsの取組についてのご意見

問9 葛飾区におけるSDGsの取組について、ご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

(主な回答)

<広報活動>

- ・高齢者はSDGsの事も詳しく知らない人が多いため、広報活動を行ってほしい。(70歳代/女性)
- ・何をやっているのか分かりにくい。区報以外でSNSを活用してほしい。(30歳代/女性)
- ・SDGsを知らなくても興味を持てるような楽しい方法での発信をもっとしてほしい。  
(40歳代/女性)
- ・誰にでも分かりやすい形での周知が必要。(70歳代/男性)
- ・葛飾区がSDGsのためにどのような取組を行っているのか全く分からない。(30歳代/女性)
- ・SDGsがどういうものなのか、しっかり発信していく中で理解してもらう必要がある。  
(20歳代/女性)
- ・どんなことをしたらよいのか一覧にする、その行動によって得られる成果などを区民に認知出来るようにするなどの工夫が必要ではないか。(30歳代/女性)

<民間との連携>

- ・区や企業で行っている取組や活動をもっと区民にも意識付けていけたらよいと思う。(30歳代/女性)
- ・専門家や葛飾区企業などのサポートをもらいながら、推進した方がよいと思う。(30歳代/女性)
- ・区の商店や企業と連携し、区民が興味を持つような企画やキャンペーン。(40歳代/男性)

<イベント活動>

- ・全てのステークホルダーが参加できるようなイベントを開催してほしい。(50歳代/男性)
- ・具体的なアクションとつながっていないと思う。イベントで啓発してほしい。(50歳代/女性)
- ・区が主体とした17の目標として何らかの表彰できる方策を実施してほしい。(70歳代/男性)
- ・ごみの量など可視化できるイベントがあると、実際にどのくらいの物を無駄にしているかわかるかもしれない。(20歳代/女性)

<その他>

- ・高齢者も多い区なので、もう少しわかりやすいスローガンを掲げた方が浸透するのではないか。  
(40歳代/女性)
- ・貧困の国へのプレゼントなど、教科書のリサイクルなど可能になるとよい。(50歳代/女性)
- ・イベントで取り扱う事、学校教育で環境学習として授業実践すること。(70歳代/男性)
- ・SDGsを推進するには、子どもへの政策を考えることが最優先だと思う。(20歳代/男性)
- ・SDGs、SDGsと言うものの、あまり意味を理解せず使われている印象がある。SDGsのなかの「〇〇」という形で説明すべきではないかと思う。(30歳代/女性)
- ・取組は有意義だと思うが、良い面ばかりでなく、コストが上がることや、利便性が下がる面もあることをきちんと明示して取組を行ってほしい。(40歳代/男性)

など(全70件)



## 2 資源とごみについて

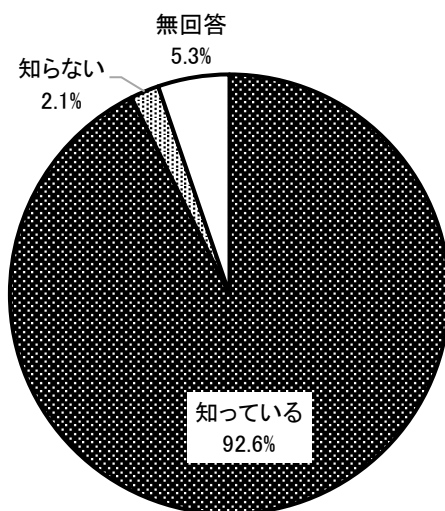
区では、令和4年度でプラスチック製容器包装（以下、「プラマーク」といいます。）を分別収集してから15年目の節目となることや、令和4年4月1日に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されることから、区民の皆さまの資源やごみに関する認知度等を確認し、今後の参考にするためご意見を伺います。

### (10) プラマークの分別収集について

問10 区では、プラマークを他の資源やごみと分けて収集していますが、あなたは知っていますか？  
(〇は1つ)

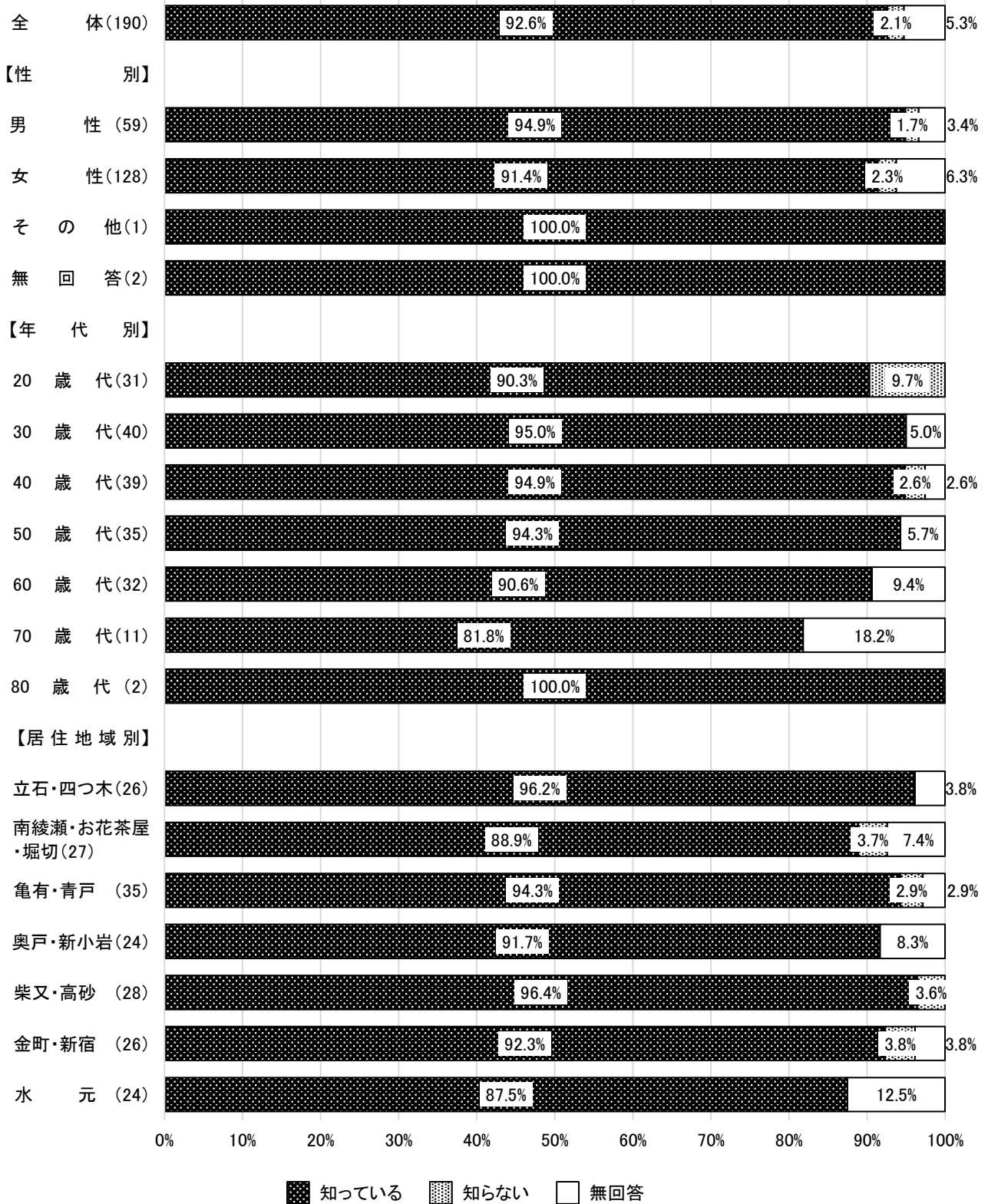
プラマークの分別収集について、「知っている」が92.6%で最も高い結果となった。

年代別で見ると、「知っている」は20歳代では90.3%、30歳代では95.0%、40歳代では94.9%、50歳代では94.3%、60歳代では90.6%、80歳代で100.0%と9割を超えているが、70歳代では81.8%と8割となっている。



n=190

問10 区では、プラマークを他の資源やごみと分けて収集していますが、あなたは知っていますか？  
 (全体・性別・年齢別・居住地域別)



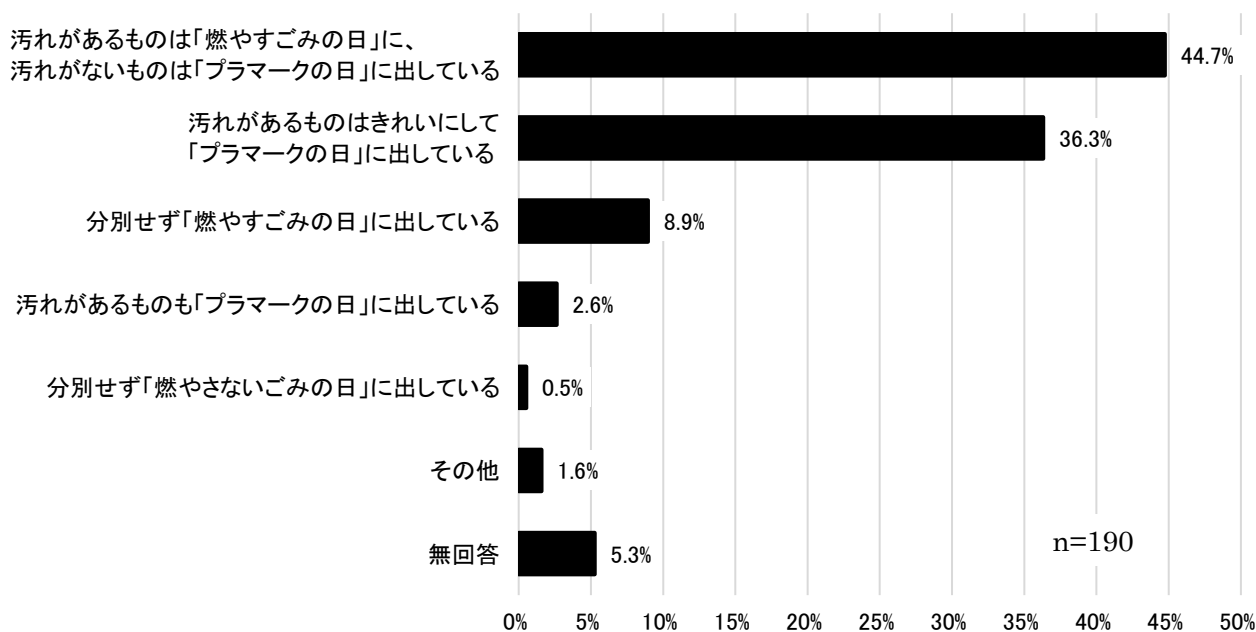
### (11) 普段のプラマークの分別について

問 11 あなたは普段、プラマークの分別はどうされていますか？（○は1つ）

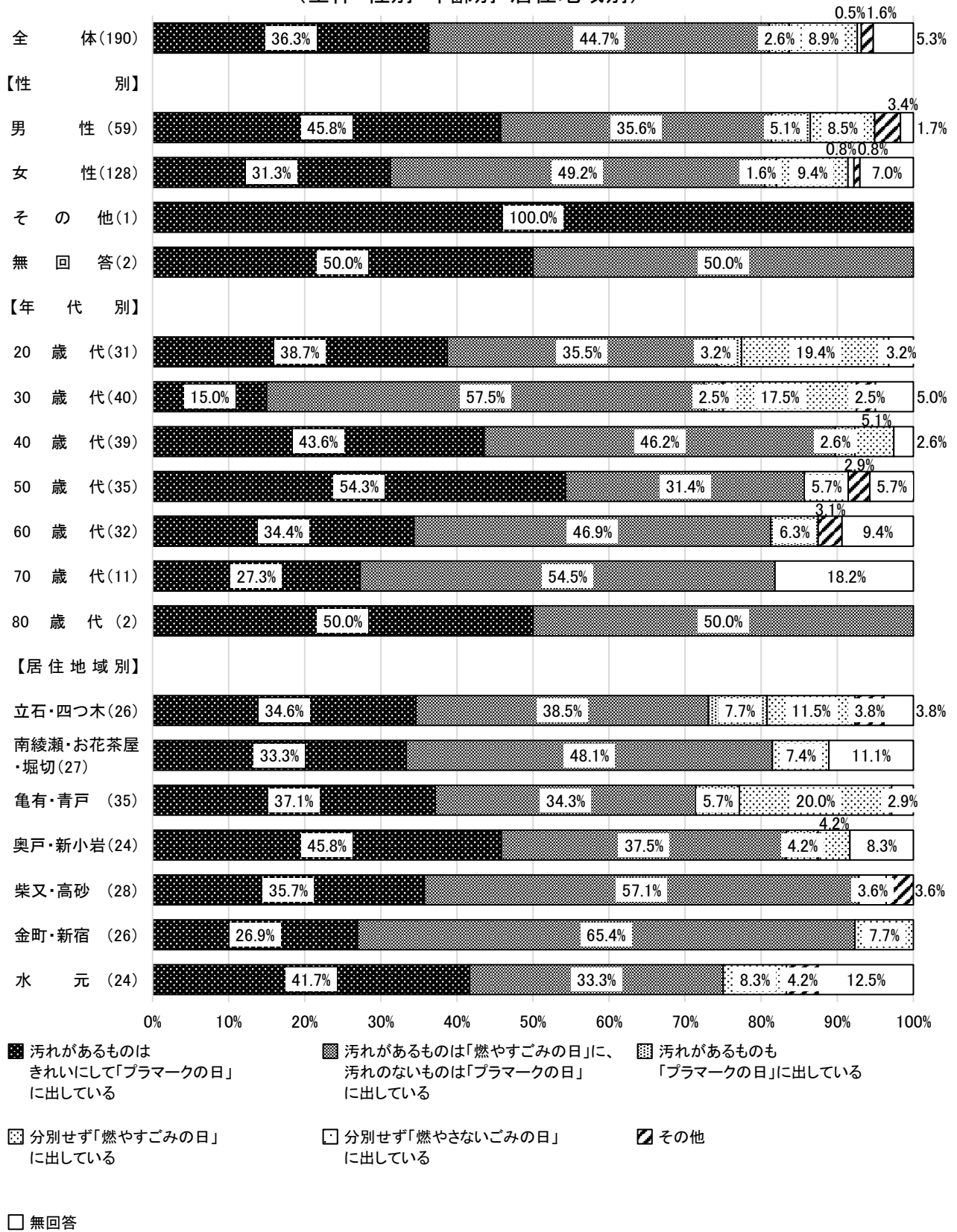
プラマークの普段の分別状況について、「汚れがあるものは「燃やすごみの日」に、汚れがないものは「プラマークの日」に出している」が44.7%で最も高くなった。

年代別で見ると、「汚れがあるものはきれいにして「プラマークの日」に出している」が最も高くなったのは、20歳代で38.7%、50歳代で54.3%となっており、「汚れがあるものは「燃やすごみの日」に、汚れがないものは「プラマークの日」に出している」が最も高くなったのは、30歳代で57.5%、40歳代で46.2%、60歳代で46.9%、70歳代で54.5%となっている。なお、80歳代では「汚れがあるものはきれいにして「プラマークの日」に出している」と「汚れがあるものは「燃やすごみの日」に、汚れがないものは「プラマークの日」に出している」がともに50.0%で最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「マンションのごみ捨て場に分別して出している」、「分別してマンション指定の倉庫に入れている」などがある。



問11 あなたは普段、プラマークの分別はどうされていますか？  
(全体・性別・年齢別・居住地域別)



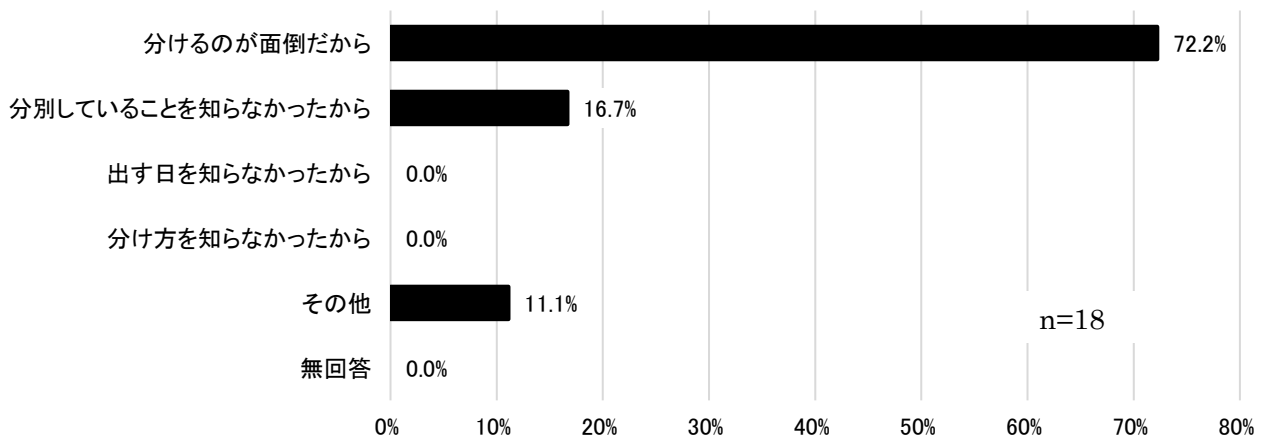
(12) 「燃やすごみの日」「燃やさないごみの日」に出している理由について

問 12 問 11 で選択肢「4分別せず「燃やすごみの日」に出している」・「5分別せず「燃やさないごみの日」に出している」を選択した方にお伺いします。  
プラマークを「燃やすごみの日」「燃やさないごみの日」に出している理由を教えてください。(○は1つ)

プラマークを「燃やすごみの日」「燃やさないごみの日」に出している理由について、「分けるのが面倒だから」が72.2%で最も高くなっている。

年代別でみると、「分けるのが面倒だから」が最も高くなったのは20歳代で71.4%、30歳代で85.7%となっている。また、40歳代では「分別していることを知らなかったから」と「分けるのが面倒だから」が50%でともに最も高くなっており、50歳代では、「分けるのが面倒だから」と「その他」が50%でともに最も高くなっている。

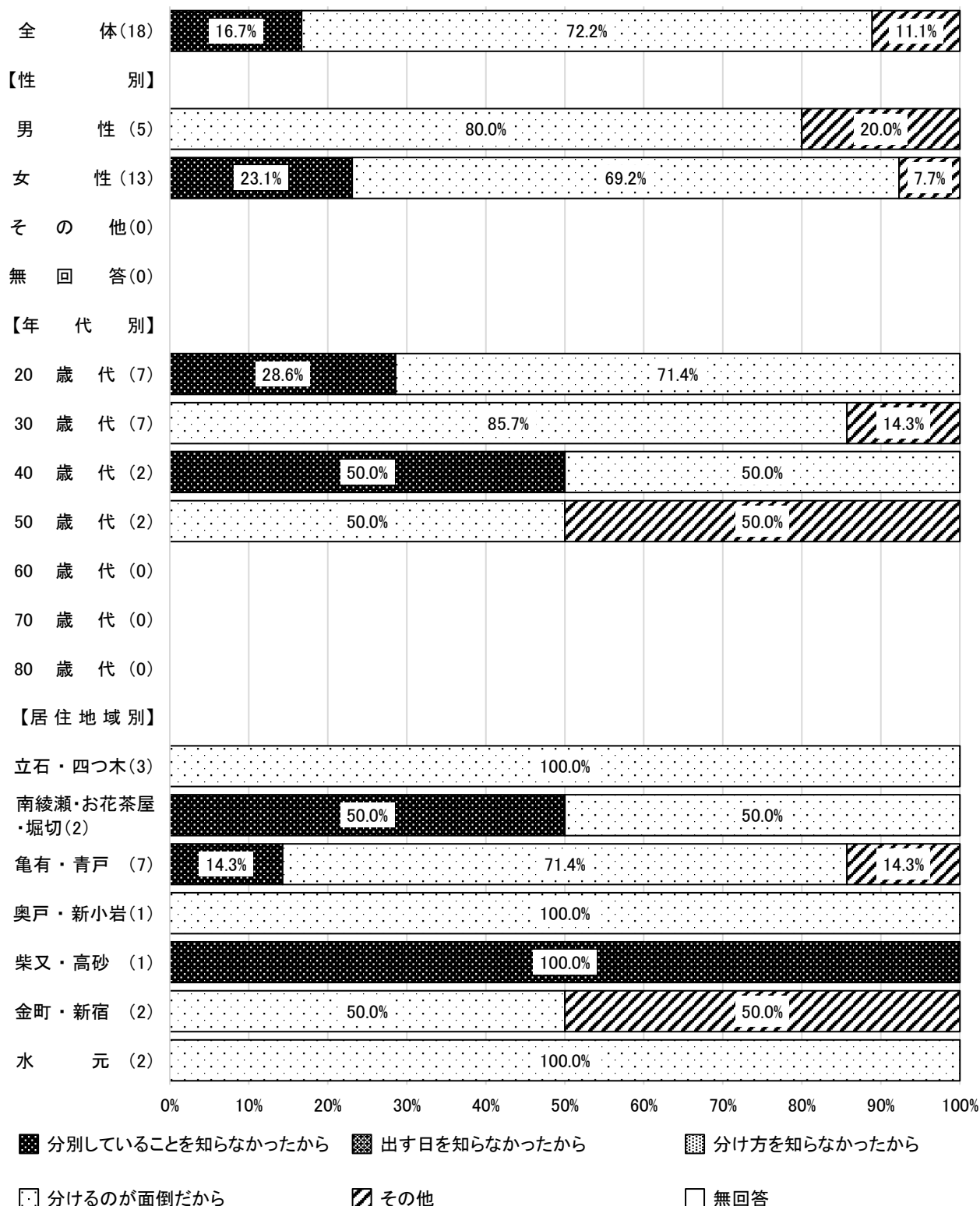
「その他」の内容としては、「以前は分別していたがテレビで最終的に再利用されていないと観たため」、「分別してもほぼ焼却処理していると認識しているため」などがある。



問12 問11で選択肢「4分別せず「燃やすごみの日」に出している」・「5分別せず「燃やさないごみの日」に出している」を選択した方にお伺いします。

プラマークを「燃やすごみの日」「燃やさないごみの日」に出している理由を教えてください。

(全体・性別・年代別・居住地域別)

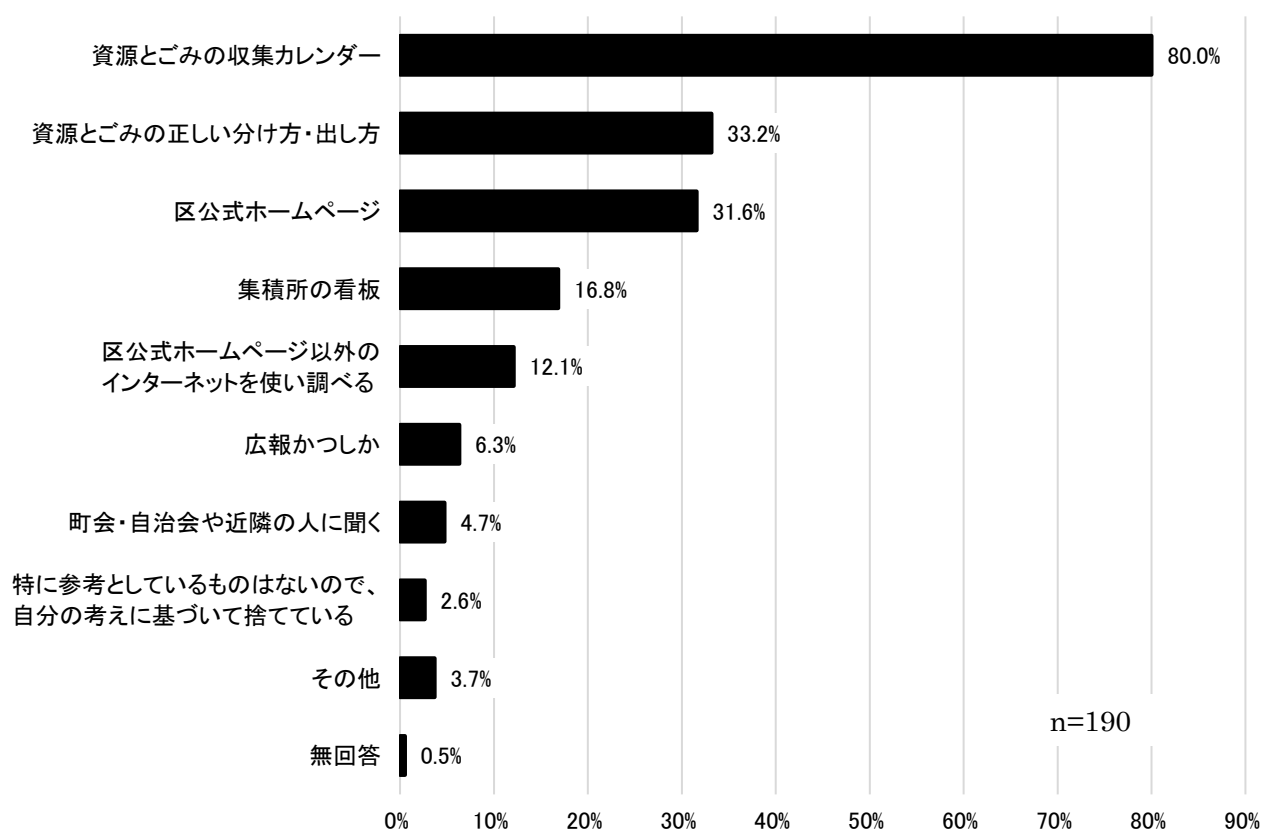


(13) ごみ出しの際に参考にするもの

問 13 あなたが資源・ごみの出し方に迷ったときに何を参考にするか教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

資源・ごみの出し方に迷ったときの参考資料として、「資源とごみの収集カレンダー」が 80.0%で最も高くなった。次いで、「資源とごみの正しい分け方・出し方」が 33.2%、「区公式ホームページ」が 31.6%と続いている。

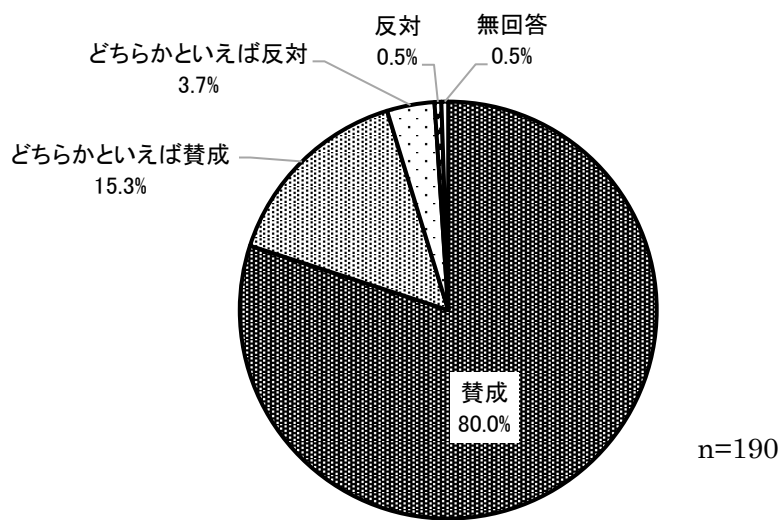
「その他」の内容としては、「清掃事務所へ電話して聞く」、「家族に聞いてみる」などがある。



(14) プラマークの資源化について

問 14 プラマークを分けて収集し、資源化していることについてあなたはどのように思いますか？  
(○は1つ)

プラマークを分けて収集し、資源化していることについて、「賛成」が80.0%で最も高くなった。  
年代別で見ると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」がすべての年代で9割を超えている。

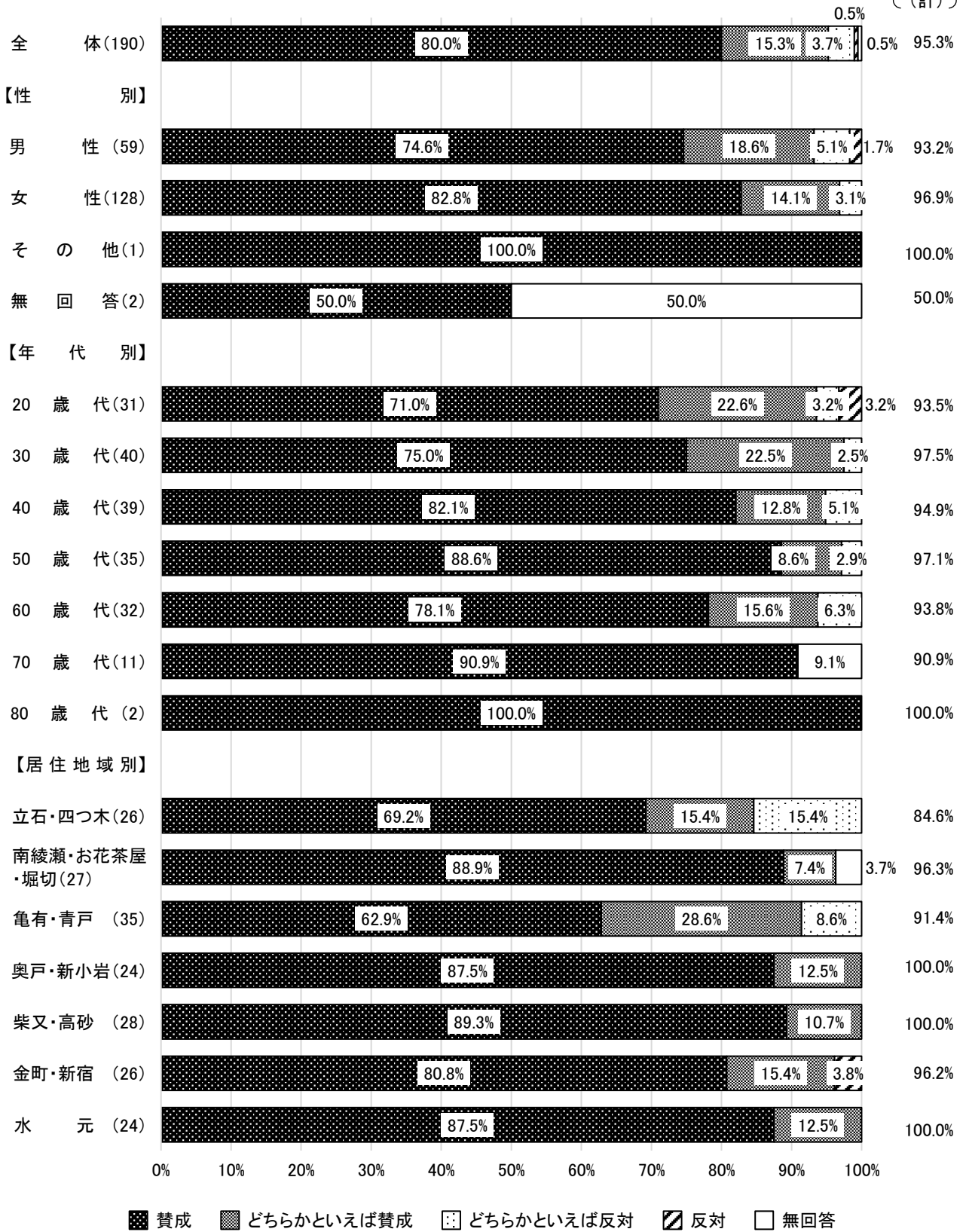




問14 プラマークを分けて収集し、資源化していることについてあなたは  
 思いますか？

(全体・性別・年代別・居住地域別)

(賛成  
計)

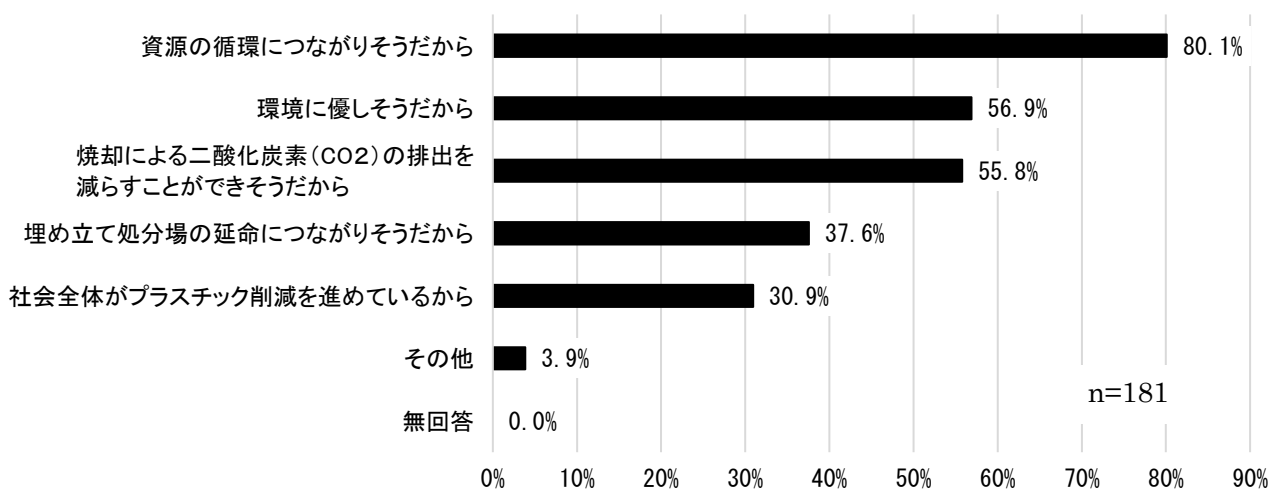


(15) プラマークの資源化に賛成の理由

問 15 問 14 で選択肢「1 賛成」・「2 どちらかといえば賛成」を選択した方にお伺いします。  
 プラマークの分別収集、資源化に賛成の理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

プラマークの分別収集、資源化に賛成の理由は、「資源の循環につながりそうだから」が 80.1%で最も高くなっている。次いで、「環境に優しそうだから」が 56.9%、「焼却による二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出を減らすことができそうだから」が 55.8%で続いている。

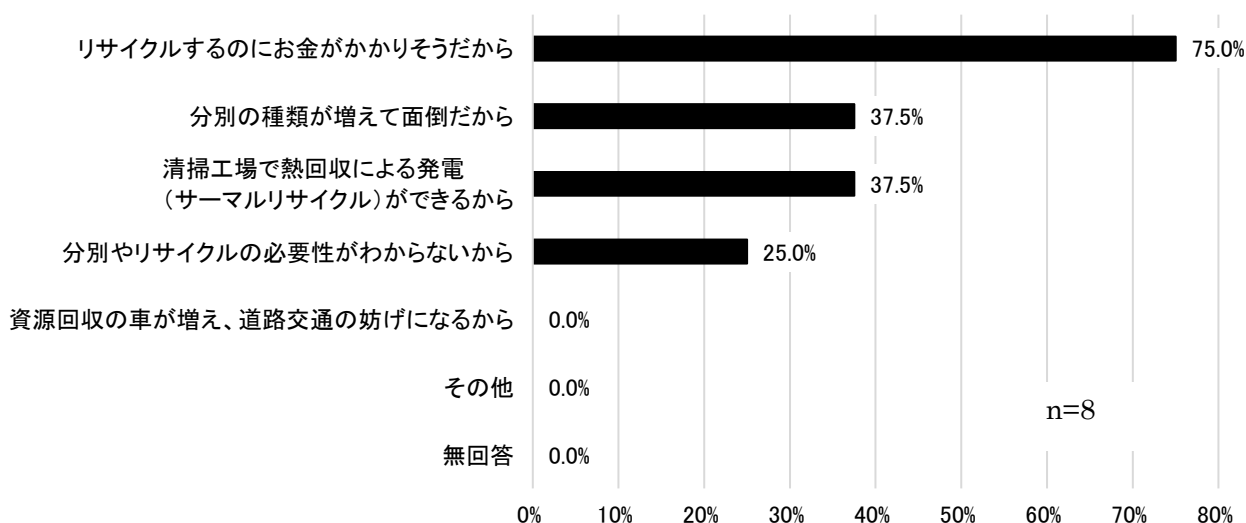
「その他」の内容としては、「海の生き物存続の為」、「再生し次なる形（製品・商品）として世に出ている」、「リサイクルできる資源ごみを増やして、燃やすごみを減らせる」などがある。



(16) プラマークの資源化に反対の理由

問 16 問 14 で選択肢「3 どちらかといえば反対」・「4 反対」を選択した方にお伺いします。  
 プラマークの分別収集、資源化に反対の理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

プラマークの分別収集、資源化に反対の理由は、「リサイクルするのにお金がかかりそうだから」が 75.0%で最も高くなっている。次いで、「分別の種類が増えて面倒だから」と「清掃工場で熱回収による発電（サーマルリサイクル）ができるから」が 37.5%で続いている。



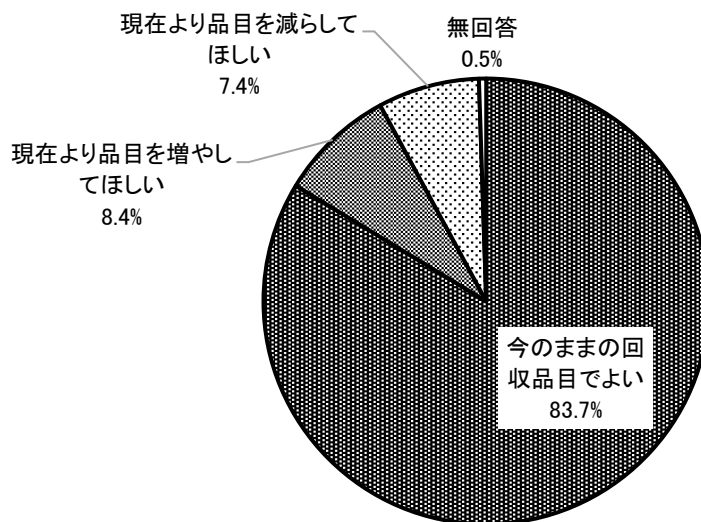
(17) 現在の区の資源・ごみの分別について

問 17 現在の区の資源・ごみの分別についてどう思われますか？回答の理由も教えてください。  
(○は1つ)

現在の区の資源・ごみの分別について、「今のままの回収品目でよい」が 83.7%で最も高くなっている。

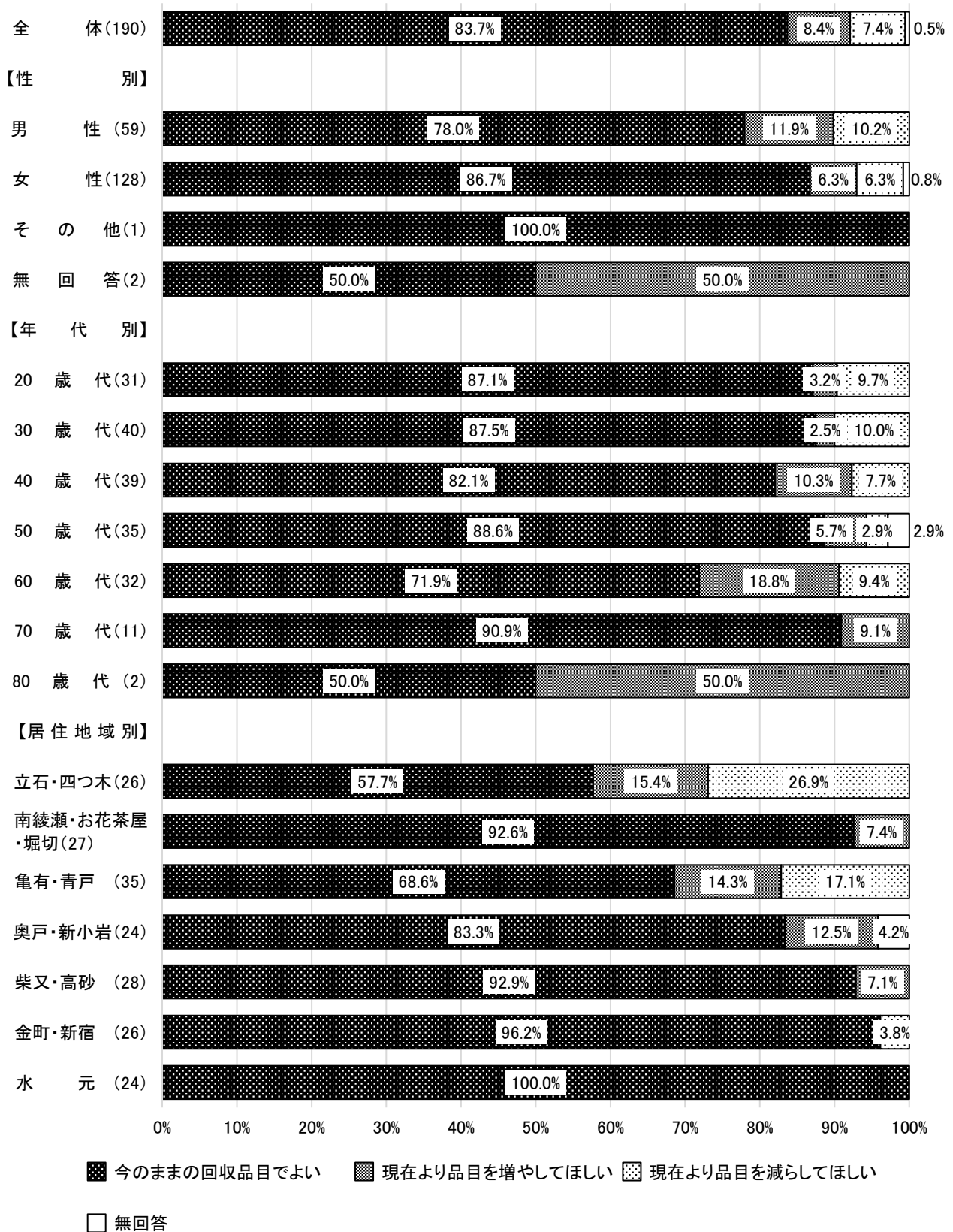
年代別で見ると、「今のままの回収品目でよい」がすべての年代で最も高くなっている。また、「現在より品目を増やしてほしい」が2番目に高くなっているのは40歳代で10.3%、50歳代で5.7%、60歳代で18.8%、70歳代で9.1%、80歳代で50.0%となっており、「現在より品目を減らしてほしい」が2番目に高くなっているのは20歳代で9.7%、30歳代で10.0%となっている。

回答の理由としては、「これ以上だと迷ってしまう」、「特別今の回収で困っていないため」、「品目を増やすと分別をしない人が増えそうだから」などがある。



n=190

問17 現在の区の資源・ごみの分別についてどう思われますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

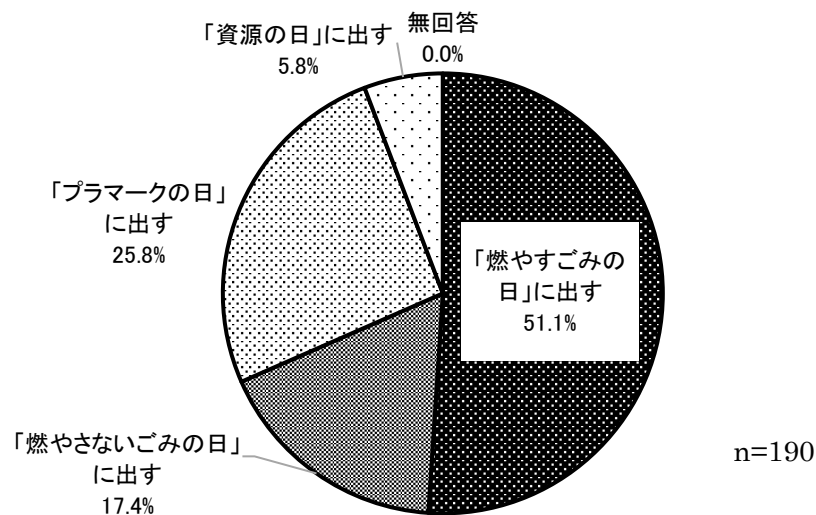


(18) プラスチック製品の分別について

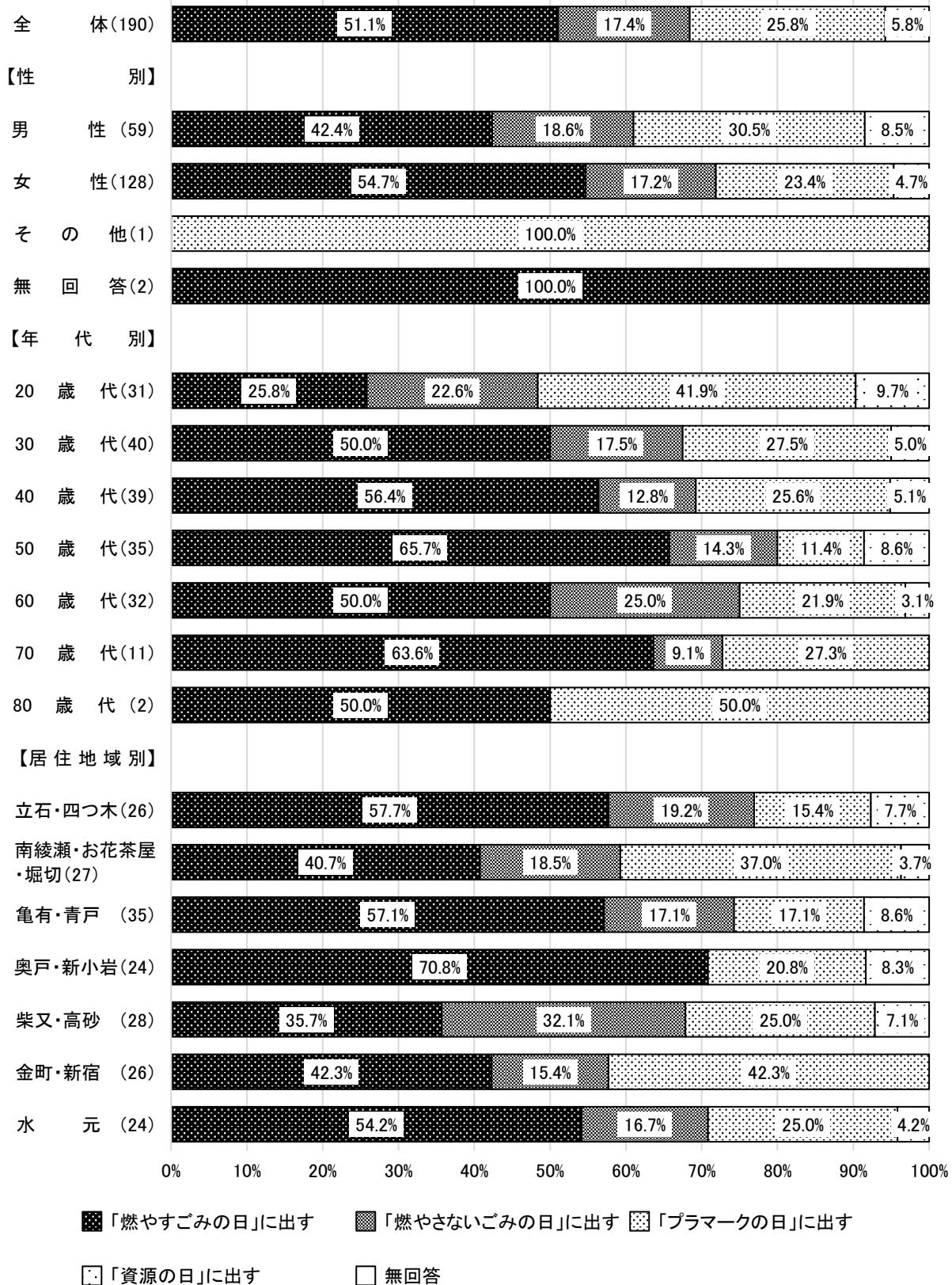
問 18 次のプラスチック製品を分別して出すとしたら、あなたはどのように出しますか？  
(○は1つ)  
(ハンガー、風呂用品、お弁当箱、バケツ、ビデオテープ、おもちゃ、CD/DVD)  
※これらは全てプラスチック製で30cm以下のものです。

例示したプラスチック製品を分別して出す場合、「燃やすごみの日」に出す」が51.1%で最も高くな  
った。

年代別で見ると、「燃やすごみの日」に出す」が最も高くなったのは、30歳代で50.0%、40歳代で  
56.4%、50歳代で65.7%、60歳代で50.0%、70歳代で63.6%となっており、「プラマークの日」に出  
す」が最も高くなったのは20歳代で41.9%であった。また、80歳代では「燃やすごみの日」に出す」  
と「プラマークの日」に出す」がともに50.0%で最も高くなっている。



問18 次のプラスチック製品を分別して出すとしたら、あなたはどのように  
出しますか？  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

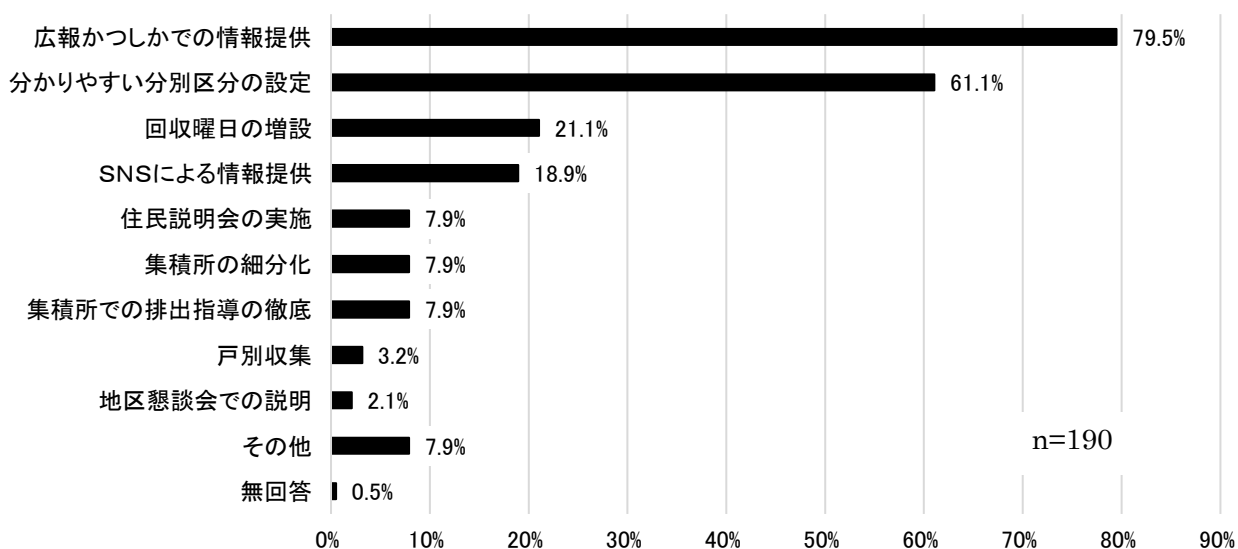


(19) 区への要望

問 19 今後、資源・ごみの出し方が変わるときは区にどんなことを望みますか？（〇は3つまで）

区への要望では、「広報かつしかでの情報提供」が79.5%で最も高くなっている。次いで、「分かりやすい分別区分の設定」が61.1%、「回収曜日の増設」が21.1%が続いている。

「その他」の内容としては、「広報車での放送」、「外国人向けの案内」、「収集カレンダーのような、分別時に確認しやすい書類の配布」などがある。



(20) 資源の分別やごみの出し方などについてのご意見

問 20 資源の分別やごみの出し方などについて、ご意見がありましたらお聞かせください。  
(自由記述)

(主な回答)

<収集に関する対策>

- ・地域によって、カラスに荒らされている場所がある。カラス対策を強化してほしい。(30 歳代/女性)
- ・集積所のごみの量がかなり多く、曜日を守らないで出す人がいるので戸別収集にしてほしい。  
(60 歳代/女性)
- ・全ての収集場所にボックスを配置して、資源ごみの種類別に置けるようにしてほしい。(30 歳代/女性)
- ・近くの自販機のごみ箱が撤去されたため、周囲のポイ捨てが増えた。自販機設置とごみ回収の責任はセットにしてほしい。(30 歳代/女性)
- ・収集日以外にごみを出したり、種類の違うごみを放り投げたりするマナーの悪さの改善。  
(60 歳代/女性)
- ・不法投棄、ポイ捨て、タバコ(路上)ポイ捨てを処罰化すべき。(30 歳代/女性)
- ・いまだに夜にごみを出す、畑前の集積所には不法投棄のようなごみが置いてある時がある。このような対策も必要かと思う。(50 歳代/女性)

<広報活動>

- ・ごみ収集に関する Q & A がホームページ上やリーフレットでほしい。(50 歳代/男性)
- ・全国区のテレビで、いかに分別されたごみが S D G s の効果があるかを、時々放送してほしい。  
(70 歳代/女性)
- ・ごみを出すとき分別に悩むので、葛飾区のごみアプリなどがあれば嬉しい。(30 歳代/女性)
- ・コンポストや生ごみ処理機の助成金があることを、もっと広く伝えてほしい。(40 歳代/男性)
- ・分別しようと思いがけているが、迷う事が多々有る。広報紙等で例示する等、目にする機会を増やしてほしい。(20 歳代/女性)
- ・今のパンフレットでは記載されていないものが多くあり迷ってしまう。追加品目を随時更新してほしい。(70 歳代/女性)
- ・ゴミ回収でのトラブルなどの事例を広報で取り上げてほしい。他の地域ではどのように対処しているのか知りたい。(60 歳代/女性)
- ・ごみの分別に迷った時にチャットで問い合わせできて、すぐに回答してもらえると、正しい知識が得られてよいと思う。(50 歳代/女性)
- ・増加している外国からの人々にもわかりやすい周知が必要で、マンガなどによる目に見える説明も効果があると思う。(70 歳代/男性)
- ・地区の掲示板に目につくように「必ずごみの種類と曜日を正しく出しましょう」とか、曜日ごとのごみの種類を説明書きにして知らせる。(80 歳代/女性)
- ・例えばごみ置き場のステッカーなど小さくても絶対に目にするもので伝えていく必要があるように思う。(20 歳代/女性)



### ＜その他＞

- ・プラスチックごみがどのように再生、循環しているのか大変興味がある。また、誤ったごみの出し方について弊害も知りたい。(50 歳代/女性)
- ・資源ごみを回収してくれる施設が身近にあれば、もっとリサイクルに貢献できそう。(30 歳代/女性)
- ・資源とごみの境目の説明、資源の活用方法資源が増えると区民にどのようなメリットがもたらされるかを教えてほしい。(50 歳代/男性)

など(全 70 件)

### 3 里親（養育家庭）について

親の離婚、疾病、虐待など様々な事情により自分の家庭で暮らすことができない子どもたちを公的に養育する仕組みが社会的養育であり、そのうちのひとつが里親制度です。

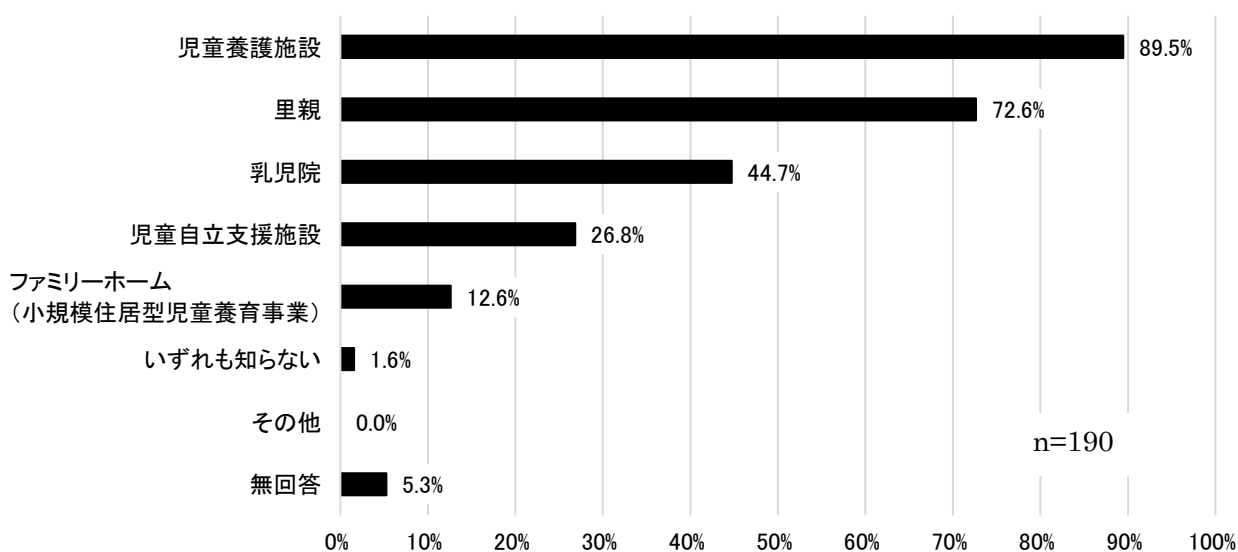
「里親」は、子どもを自らの家庭に迎え入れて、共に生活し、養育する方のことです。里親制度は必ずしも養子縁組を前提としたものだけではありません。

本区での児童相談所開設に向けて、里親制度がどの程度認知されているのか確認し、里親制度を推進するために区民モニターの皆様のご意見を伺います。

#### (21) 自分の家庭で生活できない子どもたちが暮らすことのできる生活の場について

問 21 様々な理由から自分の家庭で生活できない子どもたちが暮らすことのできる生活の場として、次のうち知っているものは何ですか？（あてはまるものすべてに○）

自分の家庭で生活できない子どもたちが暮らすことのできる生活の場のうち、知っているものについて、「児童養護施設」が 89.5%で最も高くなっている。次いで「里親」が 72.6%、「乳児院」が 44.7%で続いている。

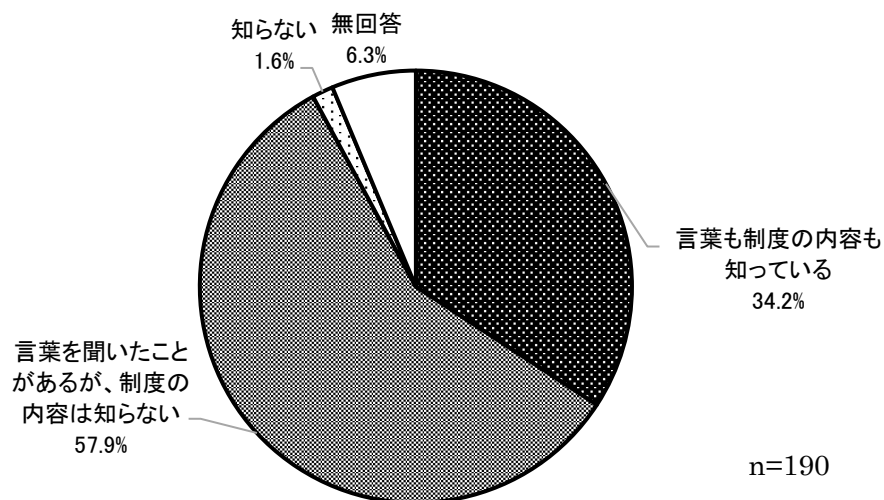


(22) 里親制度の認知度について

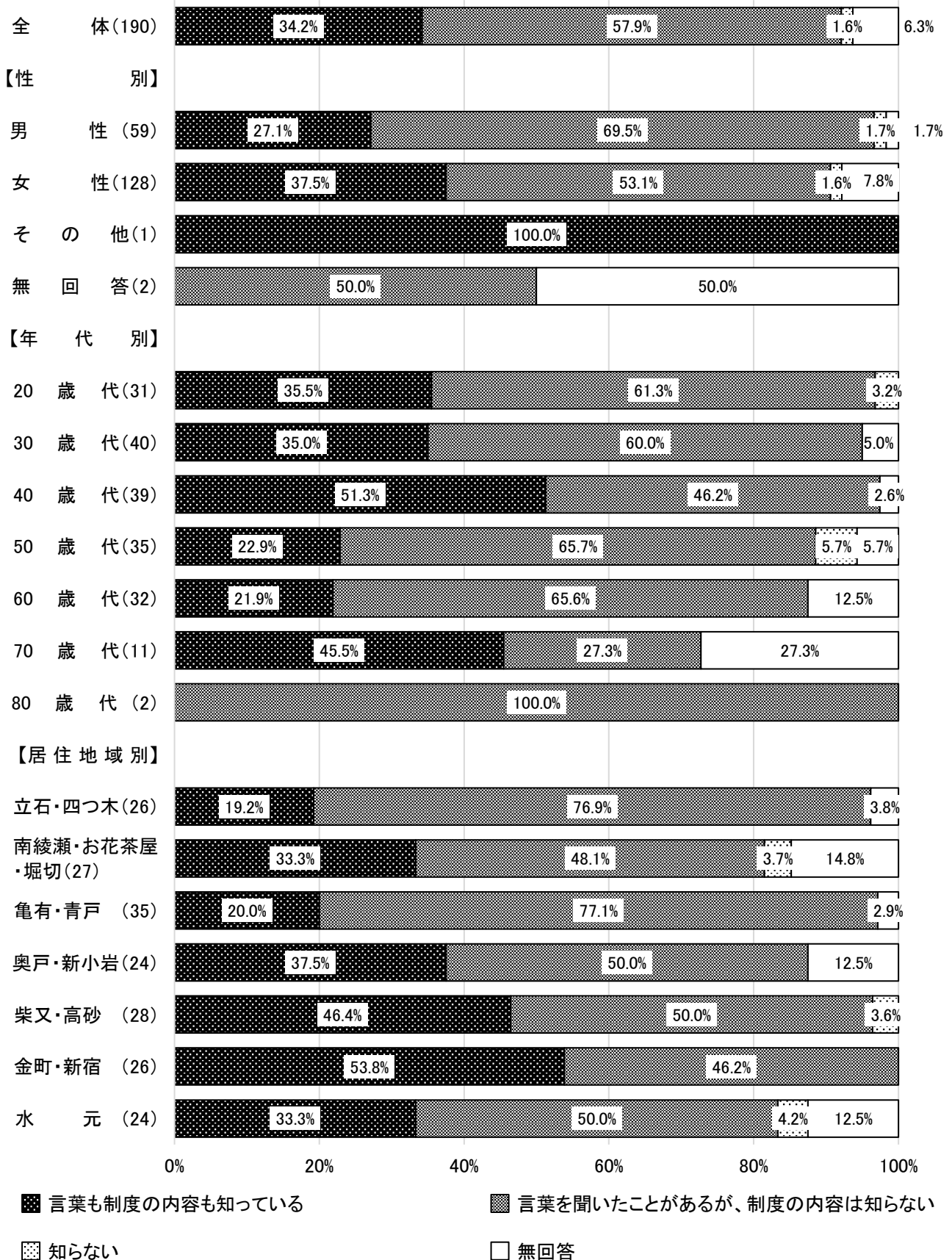
問 22 里親制度を知っていますか？（○は1つ）

里親制度について、「言葉を聞いたことがあるが、制度の内容は知らない」が 57.9%で最も高くなっている。

年代別で見ると、「言葉も制度の内容も知っている」が最も高くなったのは、40 歳代で 51.3%、70 歳代で 45.5%となっており、「言葉を聞いたことがあるが、制度の内容は知らない」が最も高くなったのは、20 歳代で 61.3%、30 歳代で 60.0%、50 歳代で 65.7%、60 歳代で 65.6%、80 歳代で 100.0%となっている。



問22 里親制度を知っていますか？  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

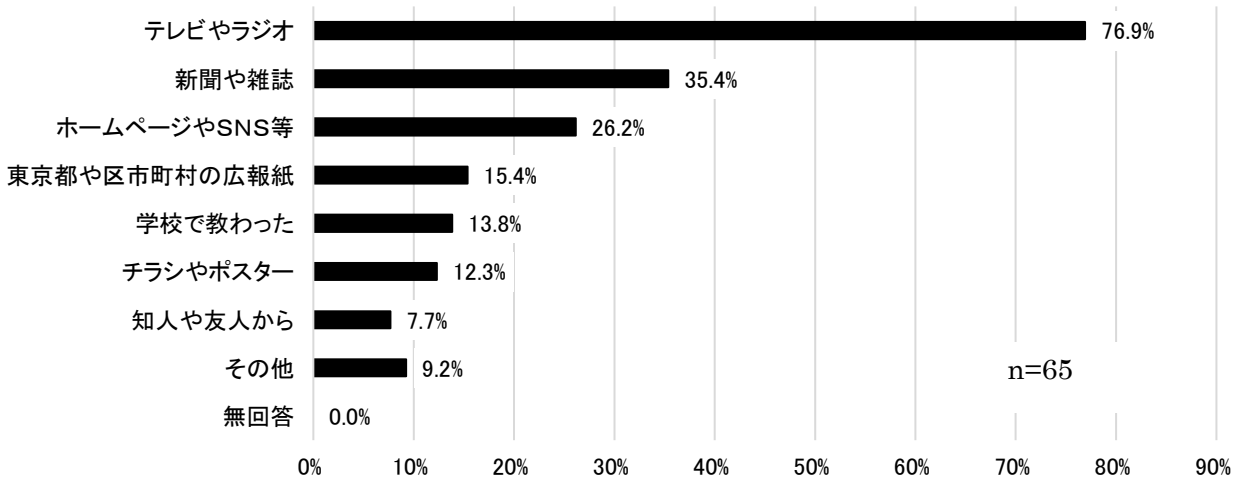


(23) 里親制度をどのように知ったか

問 23 問 22 で選択肢「1 言葉も制度の内容も知っている」を選択した方にお伺いします。里親制度をどのように知りましたか？（あてはまるものすべてに○）

里親制度を知った方法について、「テレビやラジオ」が 76.9%で最も高くなっている。次いで、「新聞や雑誌」が 35.4%、「ホームページやSNS等」が 26.2%で続いている。

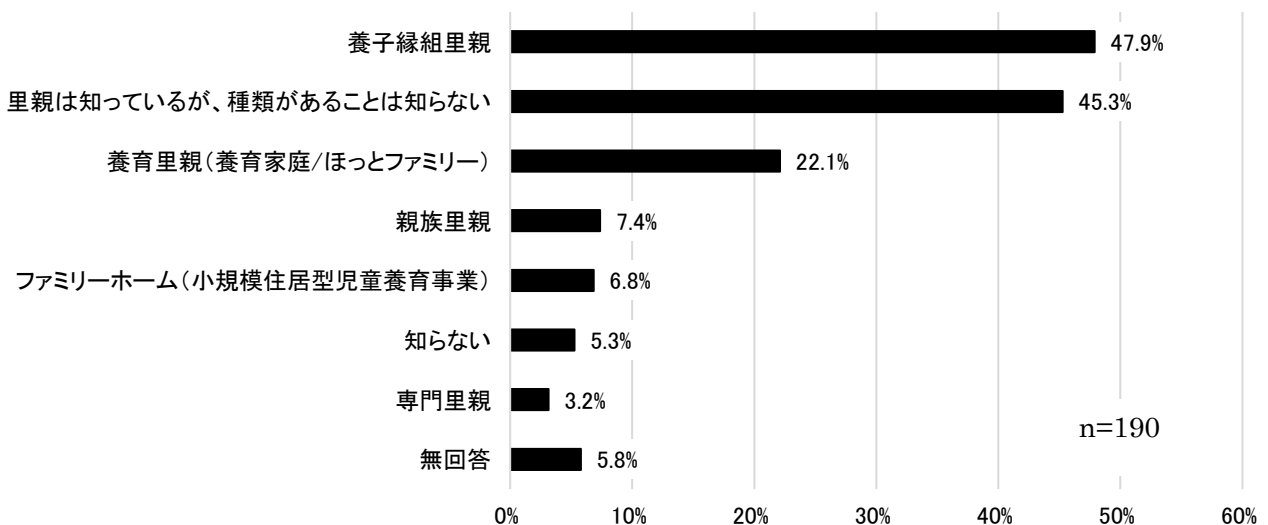
「その他」の内容としては、「自分で調べた」、「インターネットのドキュメントマンガ」、「親戚が里親のため」などがある。



(24) 種類について

問 24 里親にはいろいろな種類があります。知っている種類はありますか？（あてはまるものすべてに○）

知っている里親の種類について、「養子縁組里親」が 47.9%で最も高くなっている。次いで、「里親は知っているが、種類があることは知らない」が 45.3%、「養育里親（養育家庭/ほっとファミリー）」が 22.1%で続いている。

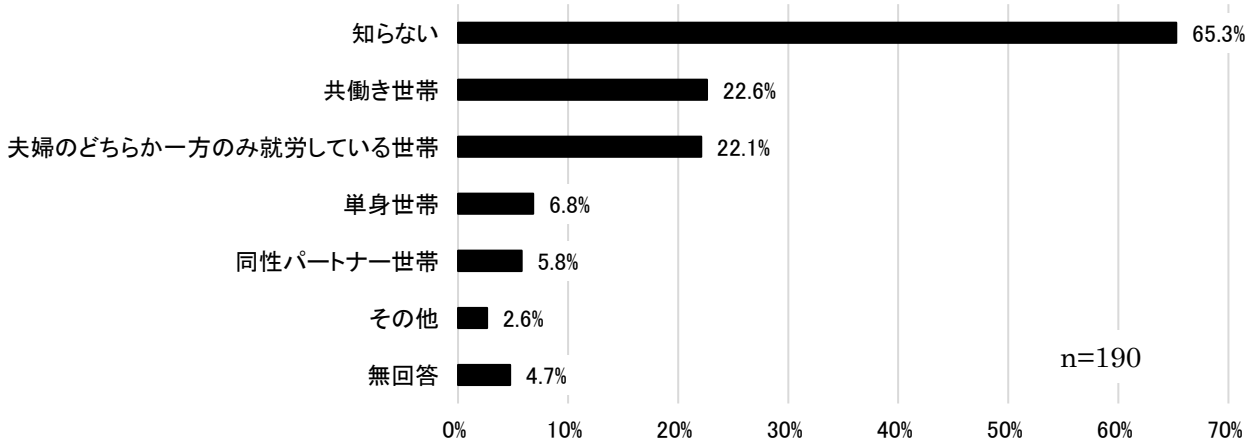


(25) 登録可能な人について

問 25 どのような人が里親登録できるか知っていますか？（あてはまるものすべてに○）

登録可能な人について、「知らない」が 65.3%で最も高くなっている。次いで、「共働き世帯」が 22.6%、「夫婦のどちらか一方のみ就労している世帯」が 22.1%で続いている。

「その他」の内容としては、「子どもの出来ない夫婦」、「成人 2 名以上同居で健康であること、年齢も上限あり」、「収入が一定数の基準を満たしている」などがある。

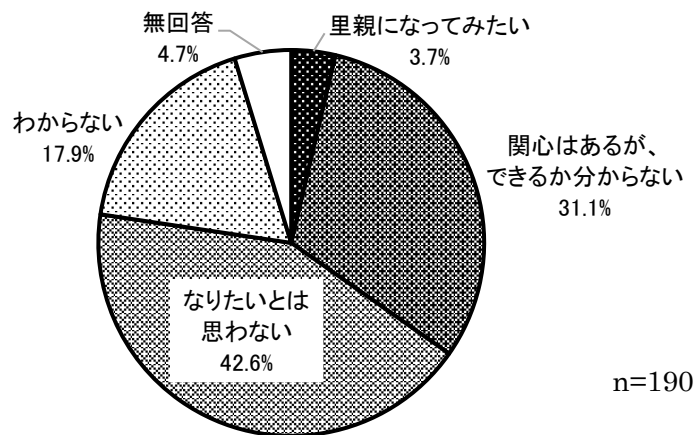


(26) 里親になってみたい気持ちについて

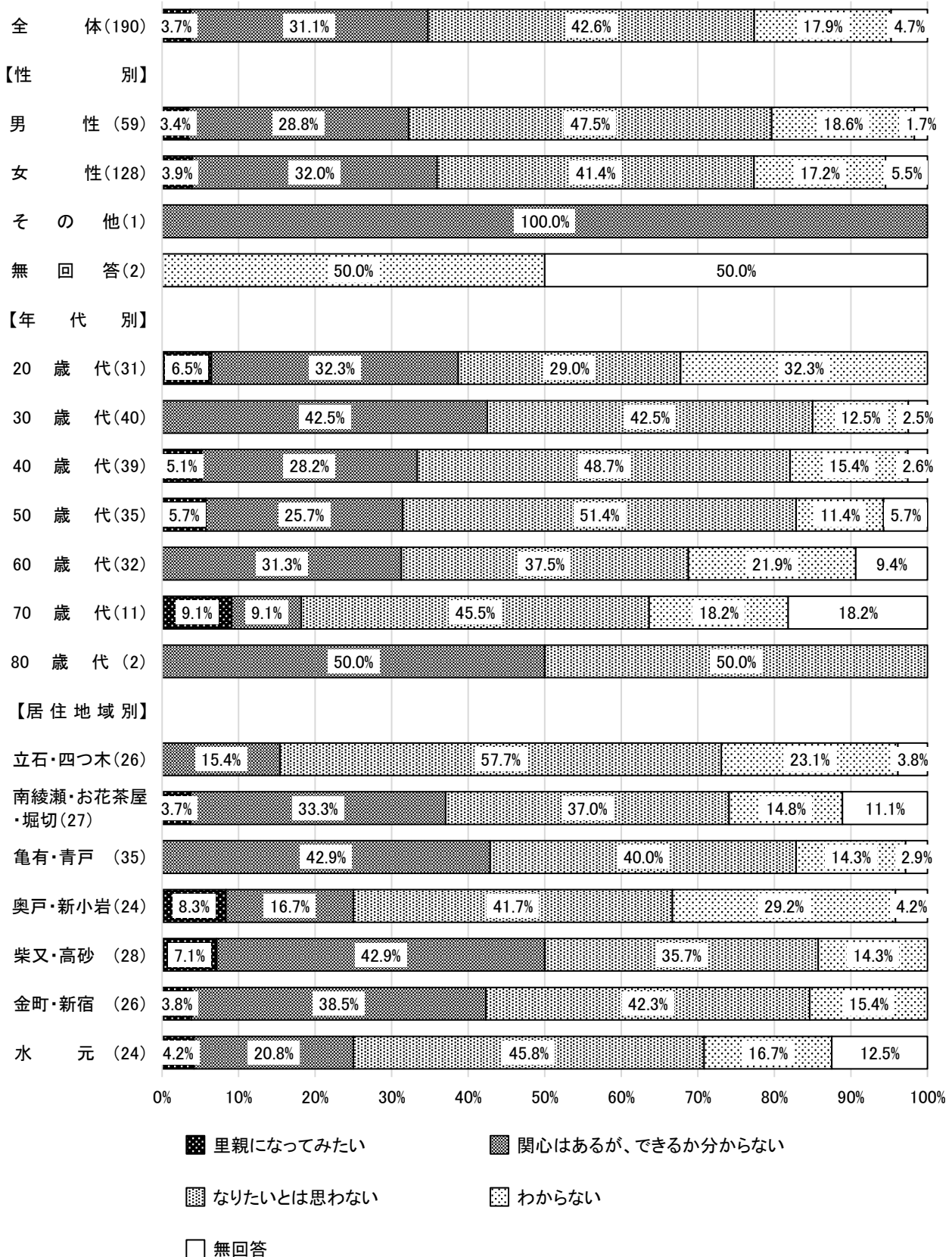
問 26 あなたは里親になってみたい気持ちがありますか？（○は1つ）

里親になってみたい気持ちについて、「なりたいと思わない」が 42.6%で最も高くなっている。

年代別でみると、「なりたいと思わない」が最も高くなったのは、40 歳代で 48.7%、50 歳代で 51.4%、60 歳代で 37.5%、70 歳代で 45.5%となっている。また、「関心はあるが、できるか分からない」と「わからない」が最も高くなったのは 20 歳代で 32.3%となっており、「関心はあるが、できるか分からない」と「なりたいと思わない」がともに最も高くなったのは 30 歳代で 42.5%、80 歳代で 50.0%となっている。



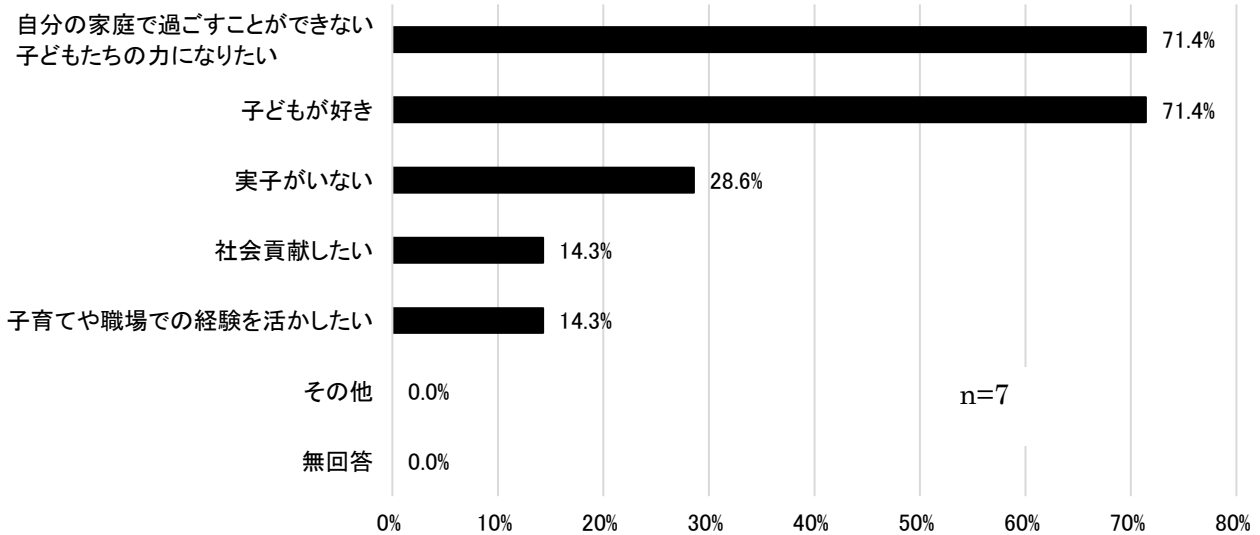
問26 あなたは里親になってみたい気持ちがありますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)



(27) 里親になりたい理由について

問 27 問 26 で選択肢「1 里親になってみたい」を選択した方にお伺いします。あなたが里親になってみたい理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

里親になってみたい理由は、「自分の家庭で過ごすことができない子どもたちの力になりたい」と「子どもが好き」が71.4%でともに最も高くなっている。次いで、「実子がない」が28.6%、「社会貢献したい」、「子育てや職場での経験を活かしたい」が14.3%で続いている。

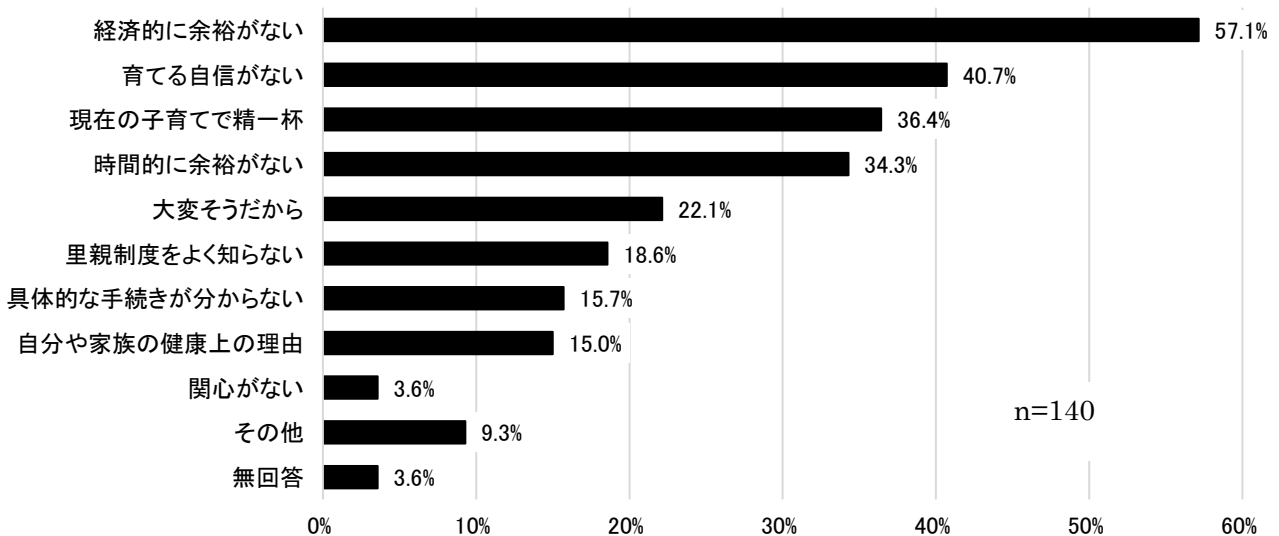


(28) 里親になりたくない理由について

問 28 問 26 で選択肢「2 関心はあるが、できるか分からない」・「3 なりたいとは思わない」を選択した方にお伺いします。なぜそう思われましたか？（あてはまるものすべてに○）

里親になりたくない理由は、「経済的に余裕がない」が57.1%で最も高くなっている。次いで、「育てる自信がない」が40.7%、「現在の子育てで精一杯」が36.4%で続いている。

「その他」の内容としては、「夫婦ともに高齢」、「最後まで責任をとれないだろうから」、「自分に子どもがないので、制度がよくわからない」などがある。



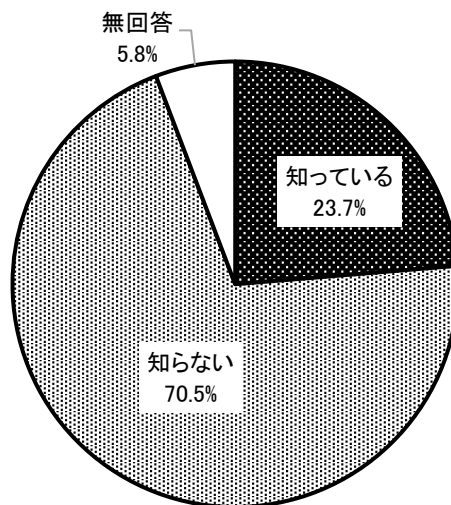


(29) 行政の手当や養育サポートの認知度について

問 29 里親の種類によっては、行政の手当や養育のサポートを受けられることを知っていますか？  
(○は1つ)

行政の手当や養育のサポートについて、「知らない」が70.5%、「知っている」が23.7%となっている。

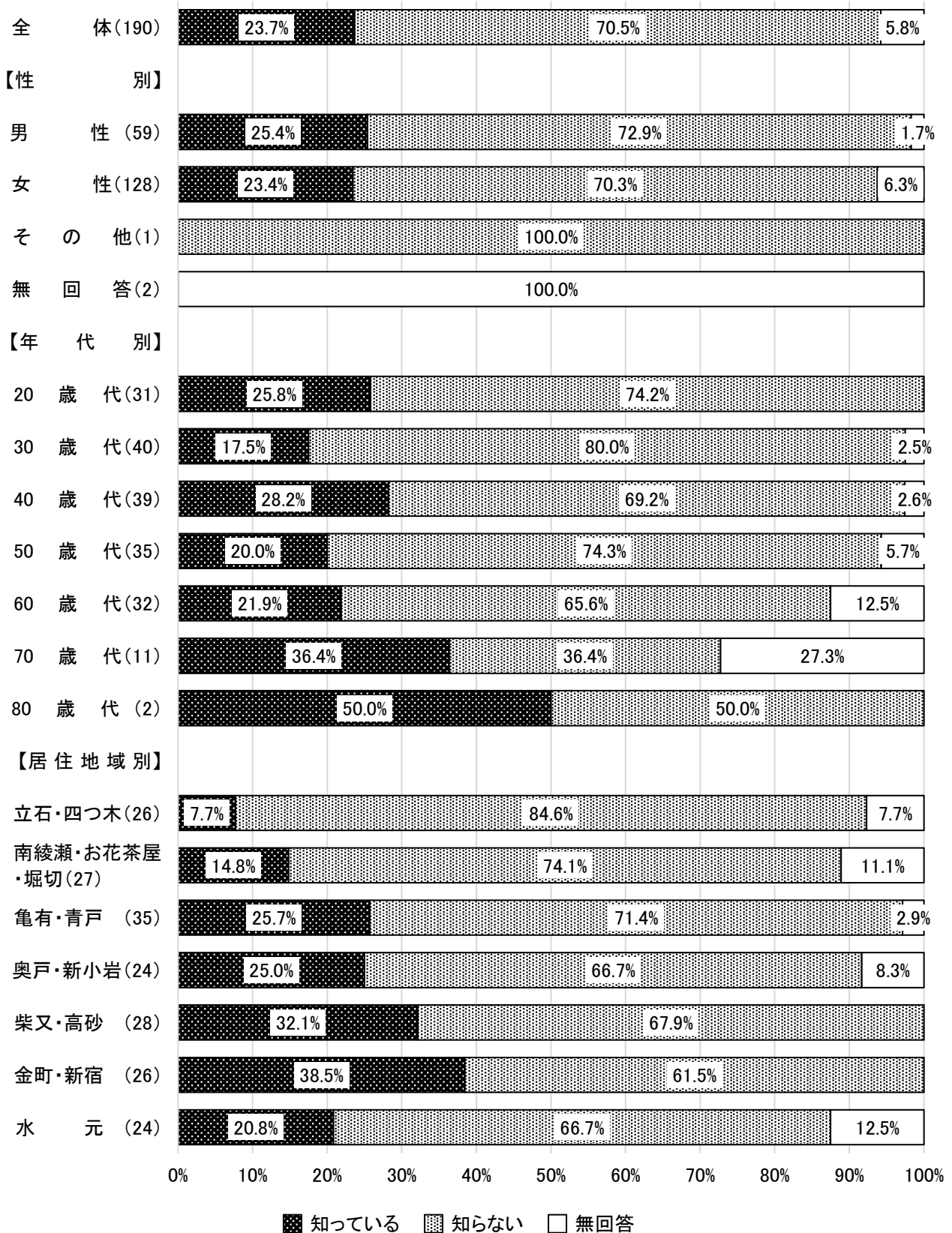
年代別で見ると、「知らない」が最も高くなったのは、20歳代で74.2%、30歳代で80.0%、40歳代で69.2%、50歳代で74.3%、60歳代で65.6%となっている。また、「知っている」と「知らない」がともに最も高くなったのは、70歳代で36.4%、80歳代で50.0%となっている。



n=190

問29 里親の種類によっては、行政の手当や養育のサポートを受けられることを知っていますか？

(全体・性別・年代別・居住地域別)

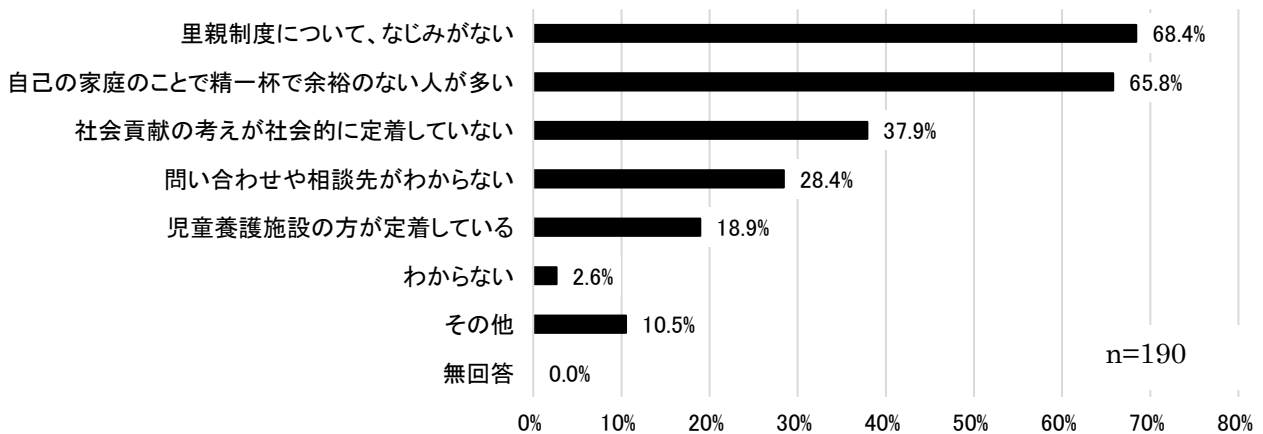


(30) 普及していない理由について

問 30 里親制度が広く普及していない理由はなぜだと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

普及していない理由は、「里親制度について、なじみがない」が 68.4%で最も高くなっている。次いで、「自己の家庭のことで精一杯で余裕のない人が多い」が 65.8%、「社会貢献の考えが社会的に定着していない」が 37.9%となっている。

「その他」の内容としては、「手続きが大変で時間がとてもかかる」、「子育ての責任が果たせるか自信がない」、「研修を受けたりハードルが高い」などがある。

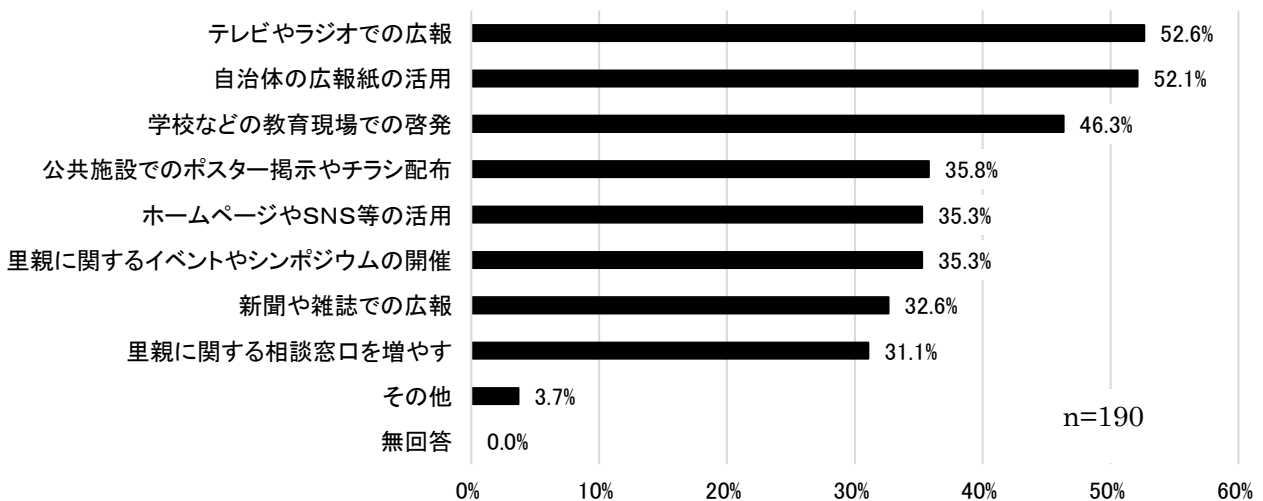


(31) 効果的な広報活動について

問 31 今後、里親制度についての理解を深めていくために、どのような広報が効果的だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

効果的な広報活動は、「テレビやラジオでの広報」が 52.6%で最も高くなっている。次いで、「自治体の広報紙の活用」が 52.1%、「学校などの教育現場での啓発」が 46.3%で続いている。

「その他」の内容としては、「産婦人科や病院での広報や相談窓口案内」、「児童養護施設に気軽に遊びに行ける状況」、「定期的な催し」などがある。



(32) 里親制度についてのご意見

問 32 里親制度について、ご意見がありましたらご記入ください。

(主な回答)

<広報活動>

- ・ 制度化されていること自体無知識。成功事例、社会の理解など周知が必要。(50 歳代/男性)
- ・ もっとテレビやラジオで里親の申請方法など放送してほしい。(70 歳代/女性)
- ・ 里親制度を広く普及したいなら、今より多く広告や宣伝が必要かと思う。(20 歳代/女性)
- ・ 実際里親をしている人の声などを広報かつしかなどに載せると、目を通す人も居て理解が深まると思う。(30 歳代/女性)
- ・ 実際の流れや、国や行政がどのくらいバックアップしてくれるのかなどをもっと積極的に発信して頂けたらと思う。(30 歳代/女性)
- ・ 広報かつしかなどで、里親の種類や、葛飾区で里親になる場合の手続き方法などについて、わかりやすく説明をしてほしいと思う。(40 歳代/男性)
- ・ 人間を育てる重さに自信が持てない不安、バックアップのフォローがしっかりあるということを案内・周知が必要。(70 歳代/女性)
- ・ 制度について広く積極的に公開し、段階的に興味のある世帯向けに法制度などの知識を深めてもらう。(40 歳代/男性)
- ・ 身近なものとして捉えられるだけの認知度があるとよい。(40 歳代/女性)
- ・ 利用したい人が手間なく、情報収集できる仕組みが存在すればよいと思う。(20 歳代/男性)
- ・ まずは知ってもらうことが大切だと思う。また産婦人科や若者への広報は必須であると思う。  
(30 歳代/女性)
- ・ 里親制度の情報が少ないので、アピールしていったほうがよいと思う。(40 歳代/女性)

<イベント等>

- ・ 交流イベントや体験イベントで知ることができる事を増やしてほしい。(60 歳代/女性)
- ・ 「どのような里親の種類があるのか」、「どのような人が里親になれるのか」等が、日常生活している中で耳にする機会があれば少しでも関心を持ってくれる人が増えるのではないかと思う。  
(50 歳代/女性)
- ・ 色々と話を聞ける場が身近にあるとよいと思う。(40 歳代/女性)
- ・ 里親になった後のシンポジウムなど「里親の会」などフォローも必要だと思う。(60 歳代/女性)
- ・ イベントやシンポジウムは関心のある人が増えてきたら開催するのが望ましいが、認知を広める手段はメディアを通した方がよい。(30 歳代/男性)
- ・ 幼少の頃から、里親家庭が世の中にあることが分かるような物語を、ドラマや本や映画他いろいろな媒体を通して提供し続けていくと、里親について考える人が増えるかもしれない。(70 歳代/女性)
- ・ 子どもに恵まれなかった夫婦向けのシンポジウムや講演活動。(40 歳代/男性)
- ・ 受け入れる側と、受け止めてもらう側、両方の方の体験を知りたい。(50 歳代/女性)
- ・ 里親制度を利用した方のお話が聞けたり、その方に相談できる場があれば、里親になりたい方の不安を解消できるかもしれない。(50 歳代/女性)

### <その他>

- ・地域社会で子育てに取り組む仕組みがあるとよいと思う。(40 歳代/男性)
- ・立派だなと思うが、助成金目当てで里親になっているケースもあるようで、課題は多い制度だと思う。  
(40 歳代/女性)
- ・里親になりたい人が増えればよいと思うが、子ども側のケアをする施設についてもっと知りたい。  
(30 歳代/女性)
- ・虐待等で実の親と離れた方がよいケースには、制度を有効に使ったらどうか。(60 歳代/女性)
- ・大変そうであるというイメージが強い。(40 歳代/女性)
- ・知ってもらうのも大切だが、広めることに重視せず、適切な情報提供が求められていると思う。  
(30 歳代/女性)
- ・里親になった場合の戸籍の記載を考えるべき。(30 歳代/女性)
- ・血縁関係がないため、両親の性格や本人の遺伝的特徴などの情報が得られない場合、責任を持って親として子どもを育て上げる自信がない。(50 歳代/男性)
- ・里親と養子縁組の違いなど複雑すぎてわからない。聞こうにも、知らないことに対して役所の方々は冷たく当たってきそうなイメージがあり、聞きに行く気持ちもあまり湧かない。(20 歳代/女性)
- ・まず世間の里子に対する偏見をなくしないと、引き取ろうと思う人は少ないのではないかと。  
(40 歳代/女性)
- ・里親になりたい気持ちはあっても経済が不安定な情勢であったり、いざという時実子でないと、やはり自分勝手な行動に出てしまうと思う。(50 歳代/女性)

など (全 68 件)

## 4 子どもの権利擁護について

国連で子どもの権利条約が採択されて以降、令和4年5月時点で全国61自治体が子どもの権利条例を制定するなど、自治体として子どもの保障される権利等について定めています。

葛飾区においても、令和5年度に児童相談所を開設するとともに、子どもの権利擁護に関する取組を行ってまいります。

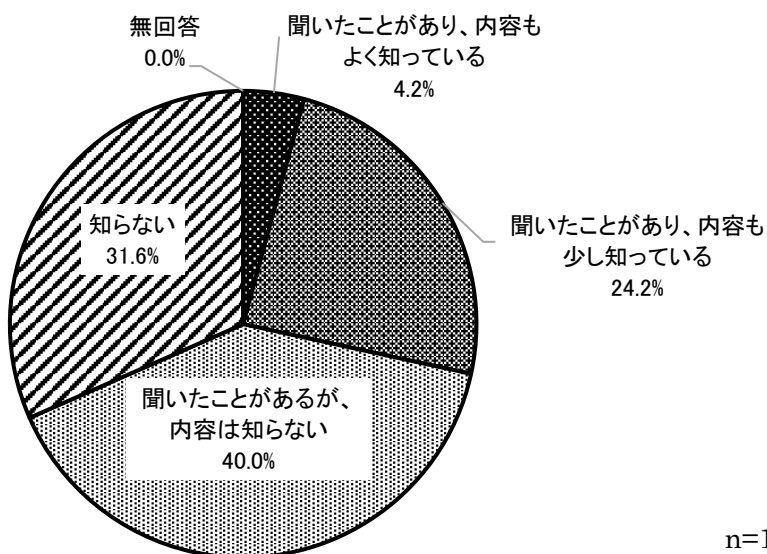
そこで、子どもの権利に関する認知度を把握し、今後の啓発方法など参考としたいため、区民モニターの皆様のご意見をお聞きします。

### (33) 子どもの権利条約の認知度について

問 33 子どもの権利条約を知っていますか？（○は1つ）

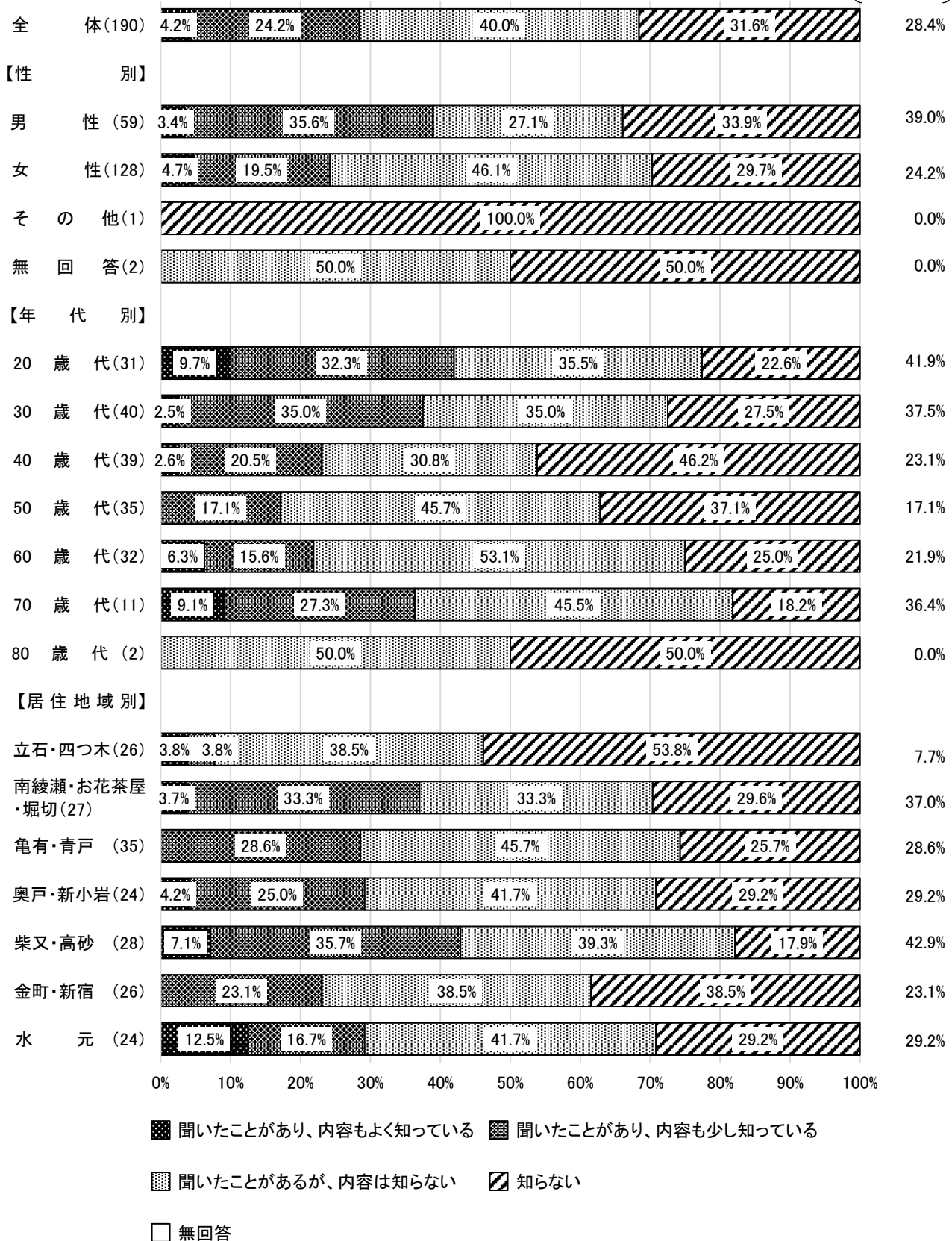
子どもの権利条約について、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が40.0%で最も高くなっている。

年代別で見ると、「聞いたことがあるが、内容は知らない」と「知らない」を合わせた「知らない」がすべての年代で最も高くなっている。



問33 子どもの権利条約を知っていますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

知っている  
 (計)



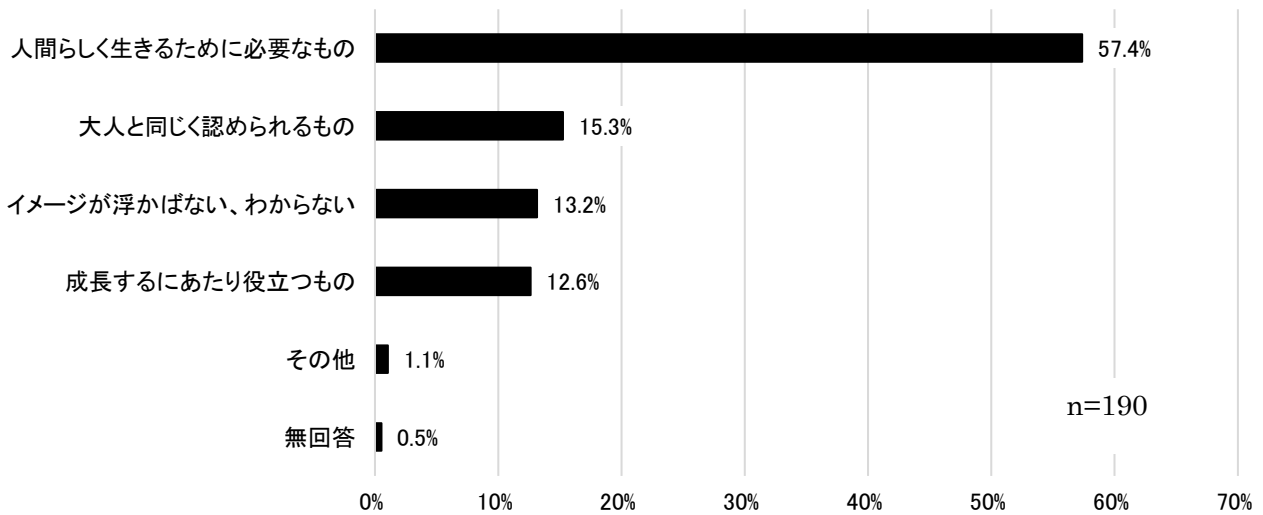
(34) 子どもの権利条約のイメージについて

問 34 子どもの権利条約と聞いて、思い浮かべるイメージを教えてください。(○は1つ)

子どもの権利条約と聞いて、思い浮かべるイメージについて、「人間らしく生きるために必要なもの」が57.4%で最も高くなっている。

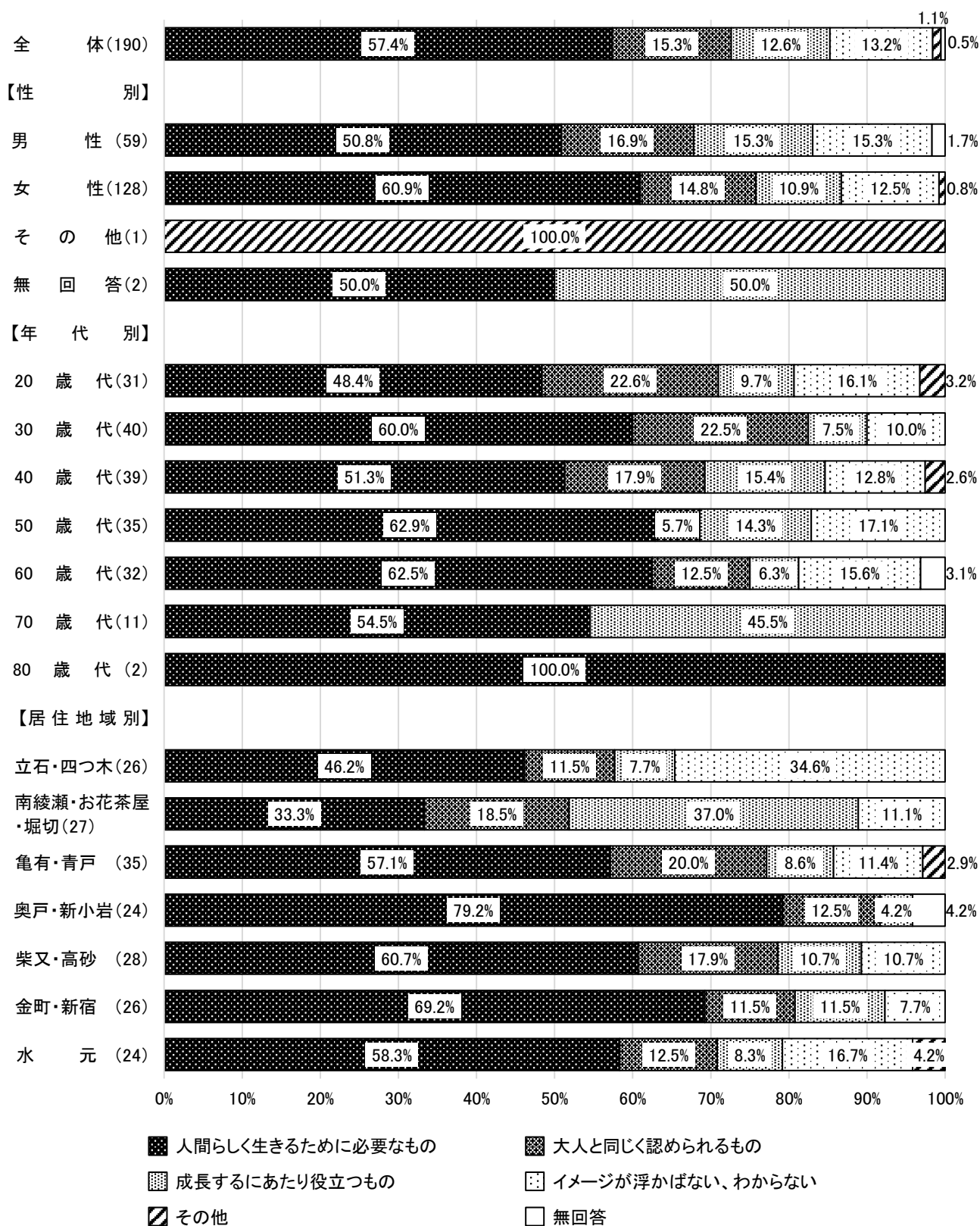
年代別で見ると、すべての年代で「人間らしく生きるために必要なもの」が最も高くなっている。また、「大人と同じく認められるもの」が2番目に高くなっているのは20歳代で22.6%、30歳代で22.5%、40歳代で17.9%となっており、「成長するにあたり役立つもの」が2番目に高くなっているのは70歳代で45.5%、「イメージが浮かばない、わからない」が2番目に高くなっているのは50歳代で17.1%、60歳代で15.6%となっている。

「その他」の内容としては、「衣・食・住、教育を全ての子どもに」、「保証されるべきもの」がある。





問34 子どもの権利条約と聞いて、思い浮かべるイメージを教えてください。  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)



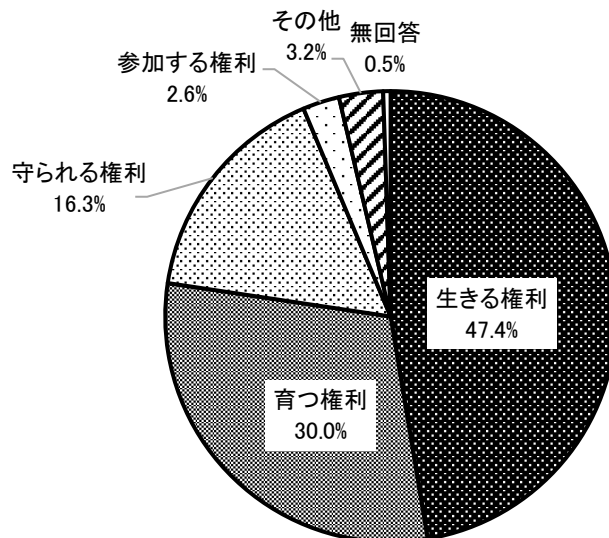
(35) 区が特に力を入れて守っていくべき権利について

問 35 子どもの権利条約では、子どもの権利を大きく分けて4つ挙げていますが、区が特に力を入れて守っていくべき子どもの権利はどれだと思いますか？（○は1つ）

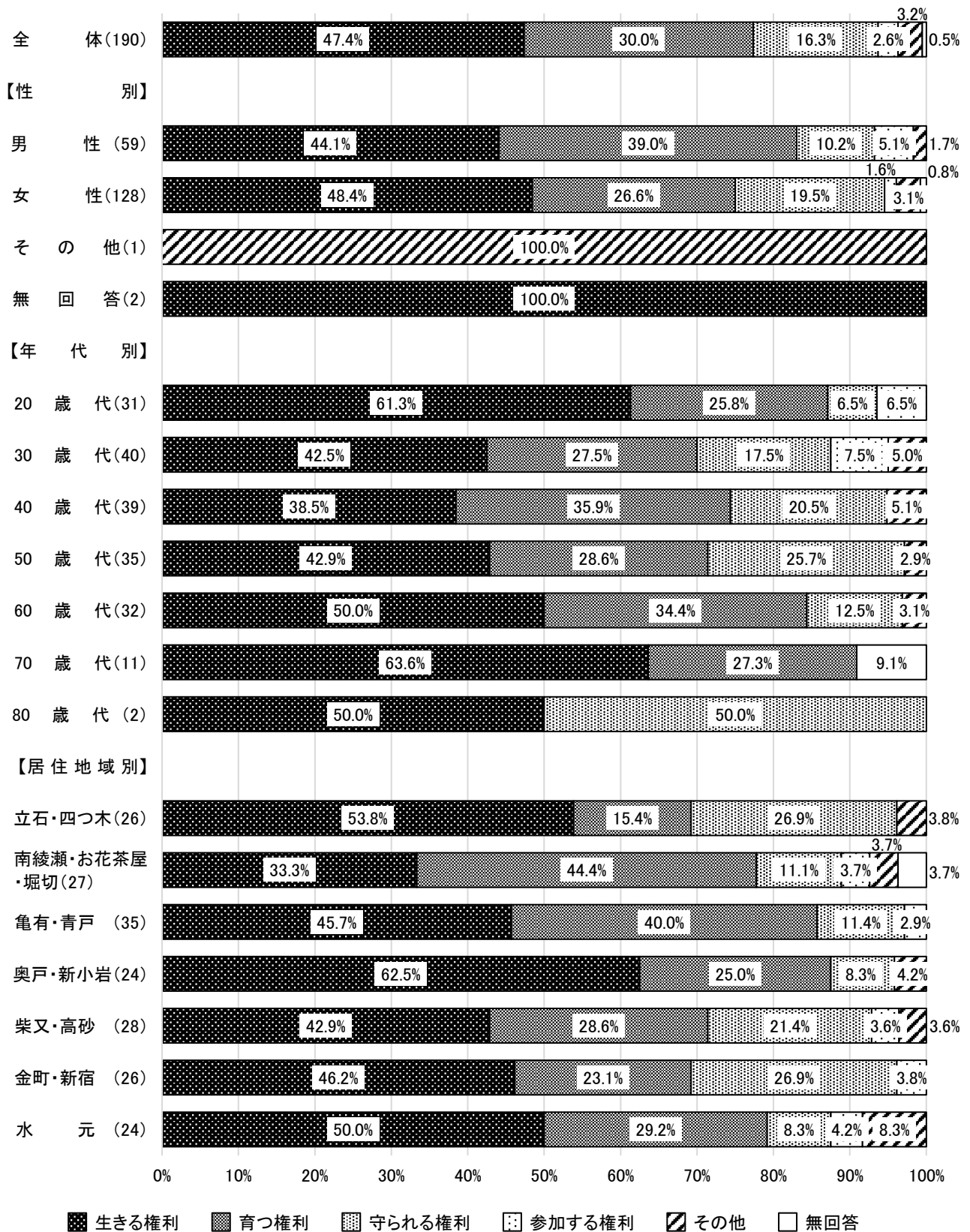
区が特に力を入れて守っていくべき子どもの権利について、「生きる権利」が47.4%で最も高くなった。

年代別で見ると、「生きる権利」が最も高くなったのは、20歳代で61.3%、30歳代で42.5%、40歳代で38.5%、50歳代で42.9%、60歳代で50.0%、70歳代で63.6%であった。また、「生きる権利」と「守られる権利」がともに最も高くなったのは80歳代で50.0%であった。

「その他」の内容としては、「1つを選ぶのはむずかしい」、「人間として成長して、又、自分の家族を持つ権利」、「学校に来なくなる子、生活リズムを保てない子、ひとり親家族での子の生活維持、これらを守る権利」などがある。



問35 子どもの権利条約では、子どもの権利を大きく分けて4つ挙げていますが、  
 区が特に力を入れて守っていくべき子どもの権利はどれだと思いますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

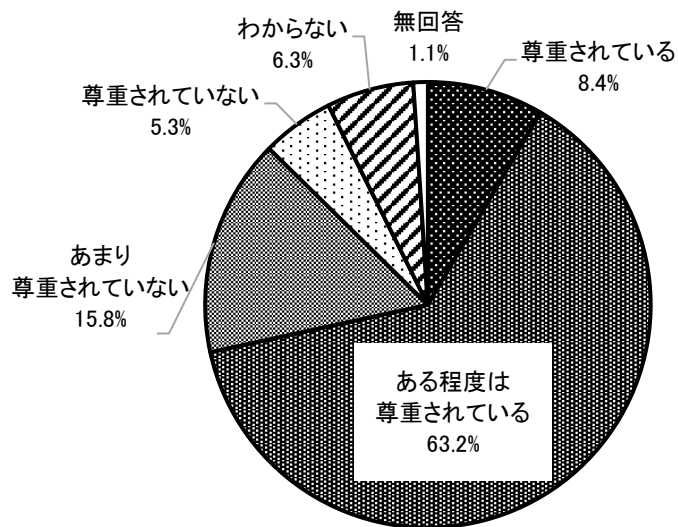


(36) 権利の尊重について

問 36 普段、子どもの権利は尊重されていると思いますか？（○は1つ）

普段、子どもの権利は尊重されているかについて、「ある程度は尊重されている」が 63.2%で最も高くなった。

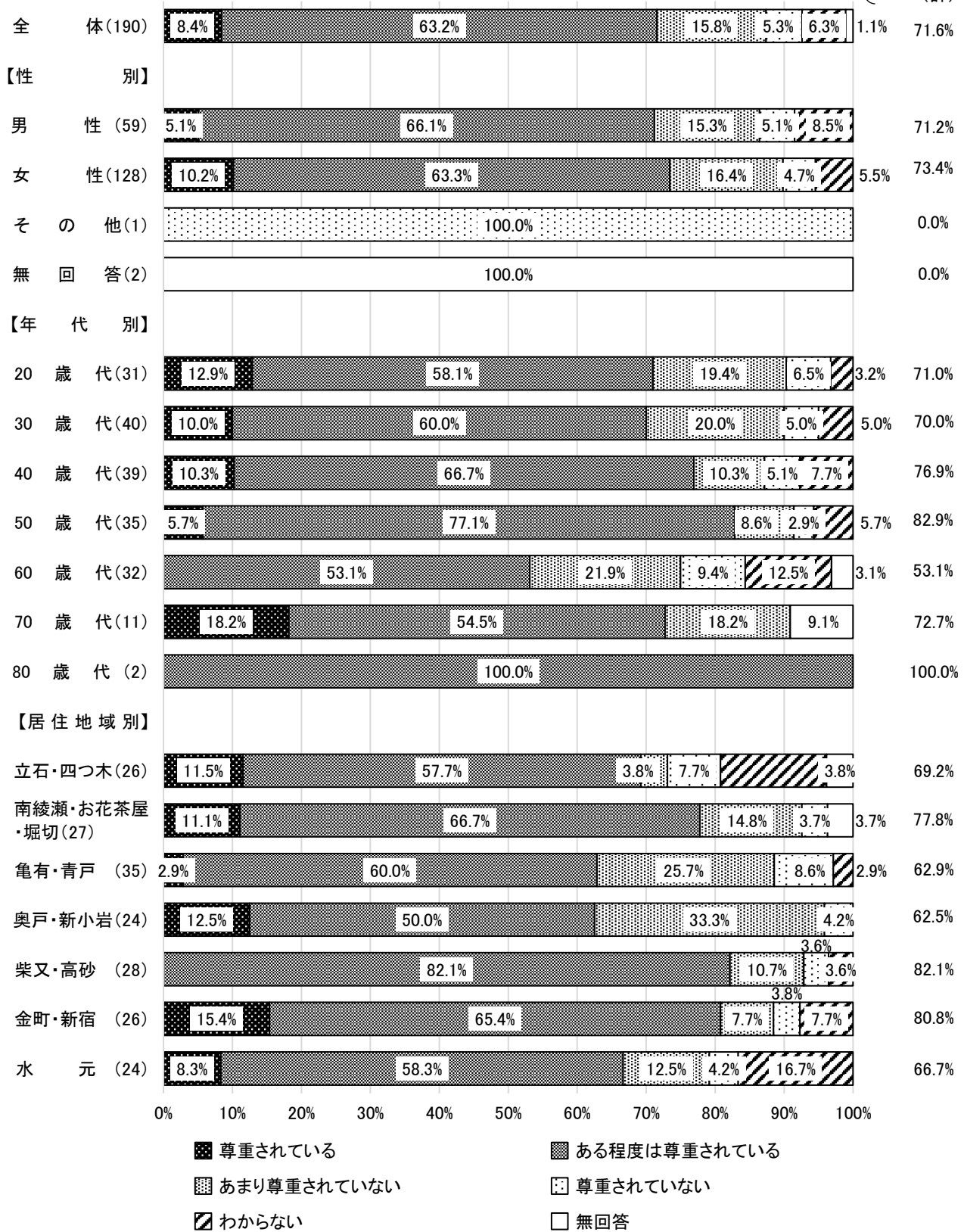
年齢別で見ると、すべての年代で「尊重されている」と「ある程度は尊重されている」を合わせた「尊重されている」が最も高くなっている。



n=190

問36 普段、子どもの権利は尊重されていると思いますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地別)

尊重されている  
 (計)



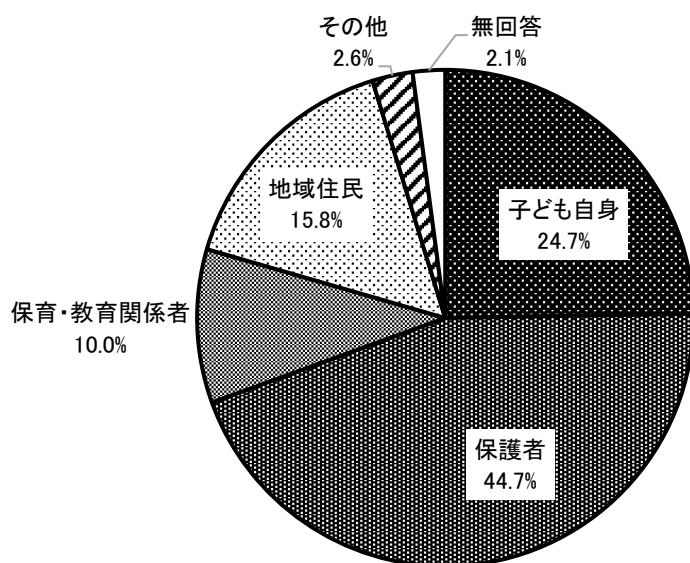
(37) 子どもの権利条約を知っておいてほしい人について

問 37 子どもの権利について、特に知っておいてほしい人はだれですか？（〇は1つ）

子どもの権利条約を知っておいてほしい人について、「保護者」が44.7%で最も高くなっている。

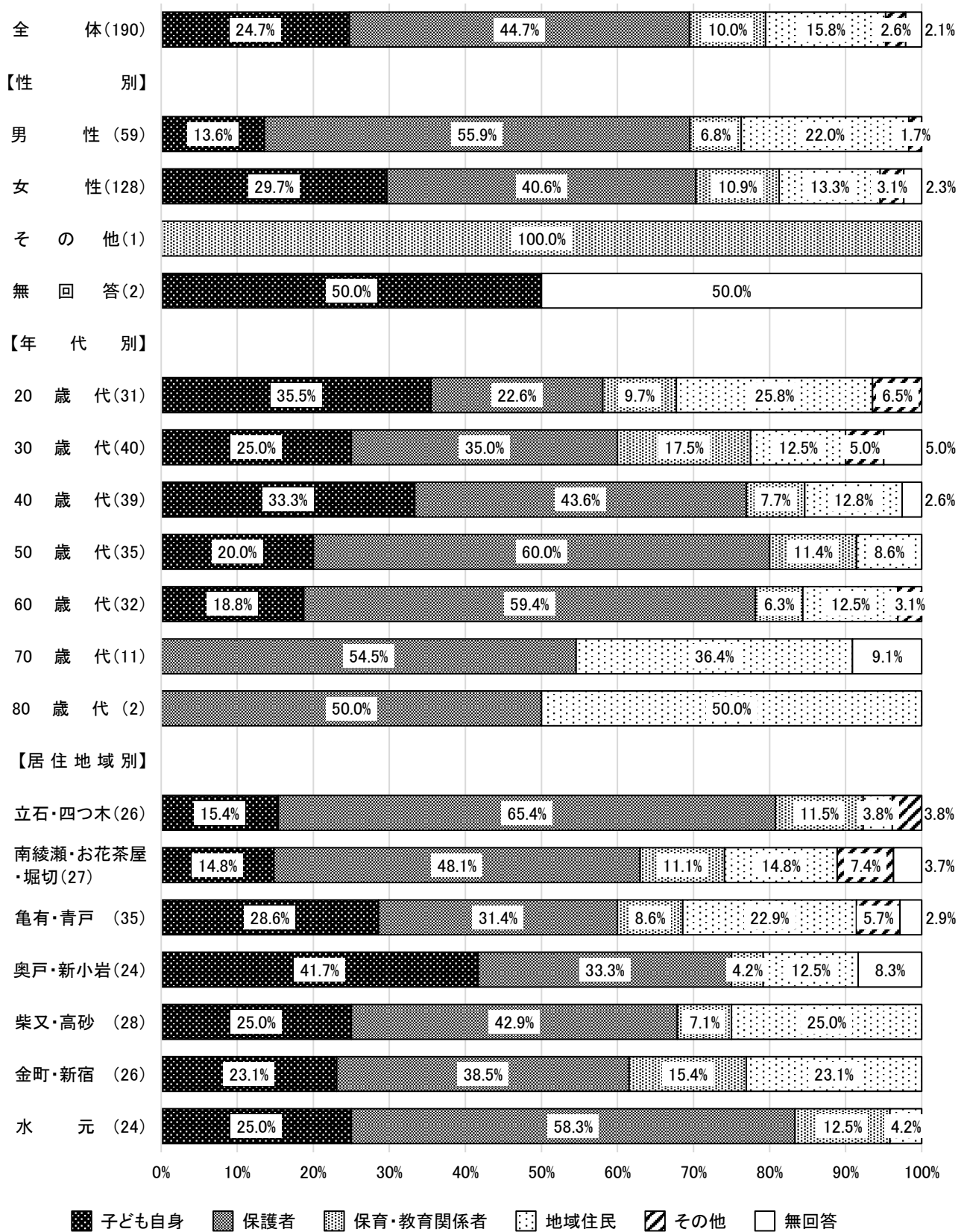
年代別で見ると、「子ども自身」が最も高くなったのは20歳代で35.5%となっており、「保護者」が最も高くなったのは30歳代で35.0%、40歳代で43.6%、50歳代で60.0%、60歳代で59.4%、70歳代で54.5%となっている。また、「保護者」と「地域住民」が最も高くなったのは80歳代で50.0%だった。

「その他」の内容としては、「政治家」、「子どもに関わる人」、「全員」などがある。



n=190

問37 子どもの権利について、特に知っておいてほしい人はだれですか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)



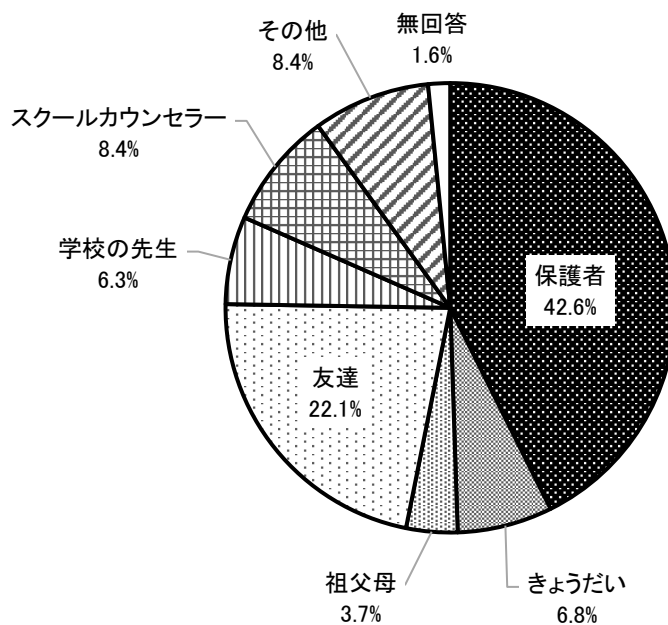
(38) 子どもが相談しやすい人について

問 38 子どもが特に相談しやすいと思うのは、次のうちどれですか？（○は1つ）

子どもが相談しやすい人について、「保護者」が42.6%で最も高くなっている。

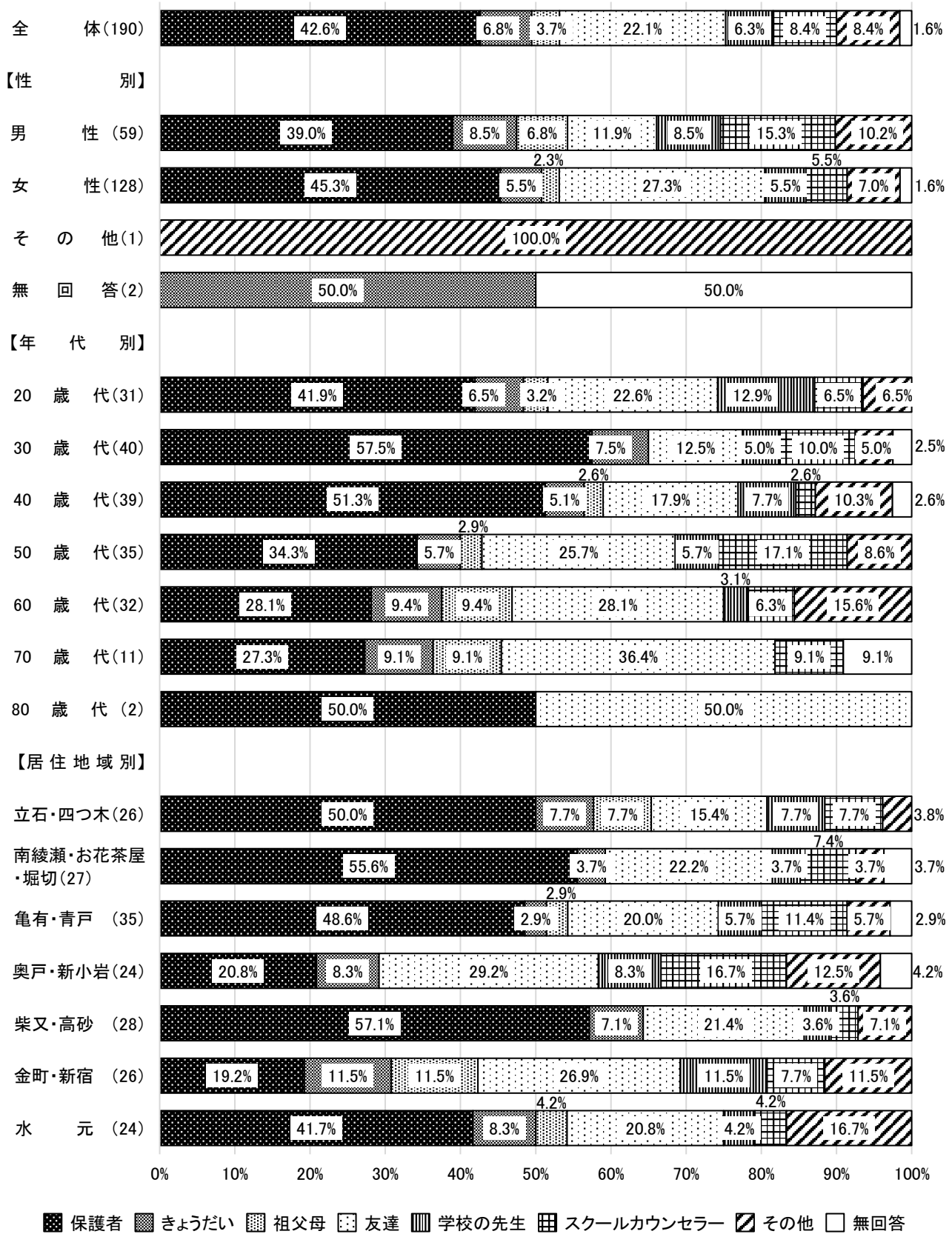
年代別で見ると、「保護者」が最も高くなったのは20歳代で41.9%、30歳代で57.5%、40歳代で51.3%、50歳代で34.3%となっており、「友達」が最も高くなったのは70歳代で36.4%となっている。また、「保護者」と「友達」がともに最も高くなったのは60歳代で28.1%、80歳代で50.0%となっている。

「その他」の内容としては、「対面、WEB、電話などの相談窓口」、「匿名のインターネット掲示板など」、「学校とは別のカウンセラー」などがある。





問38 子どもが特に相談しやすいと思うのは、次のうちどれですか？  
 (全体・性別・年代別・居住地別)



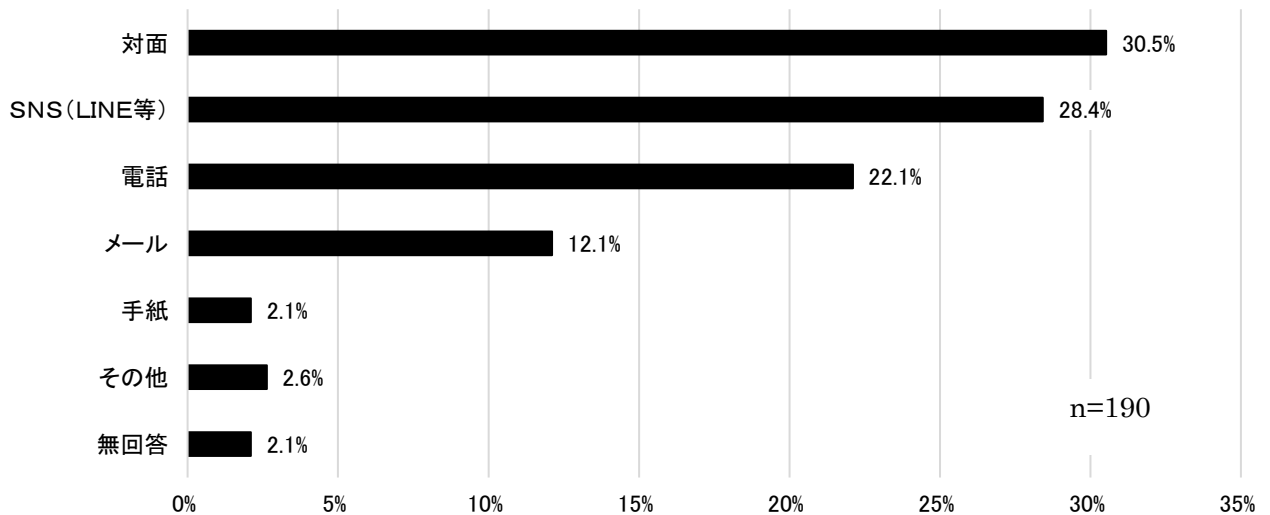
(39) 相談方法について

問 39 自分の子ども、他人の子どもにかかわらず、子どもに関する事で相談ごとがある時、どの手段が特に相談しやすいと思いますか？（○は1つ）

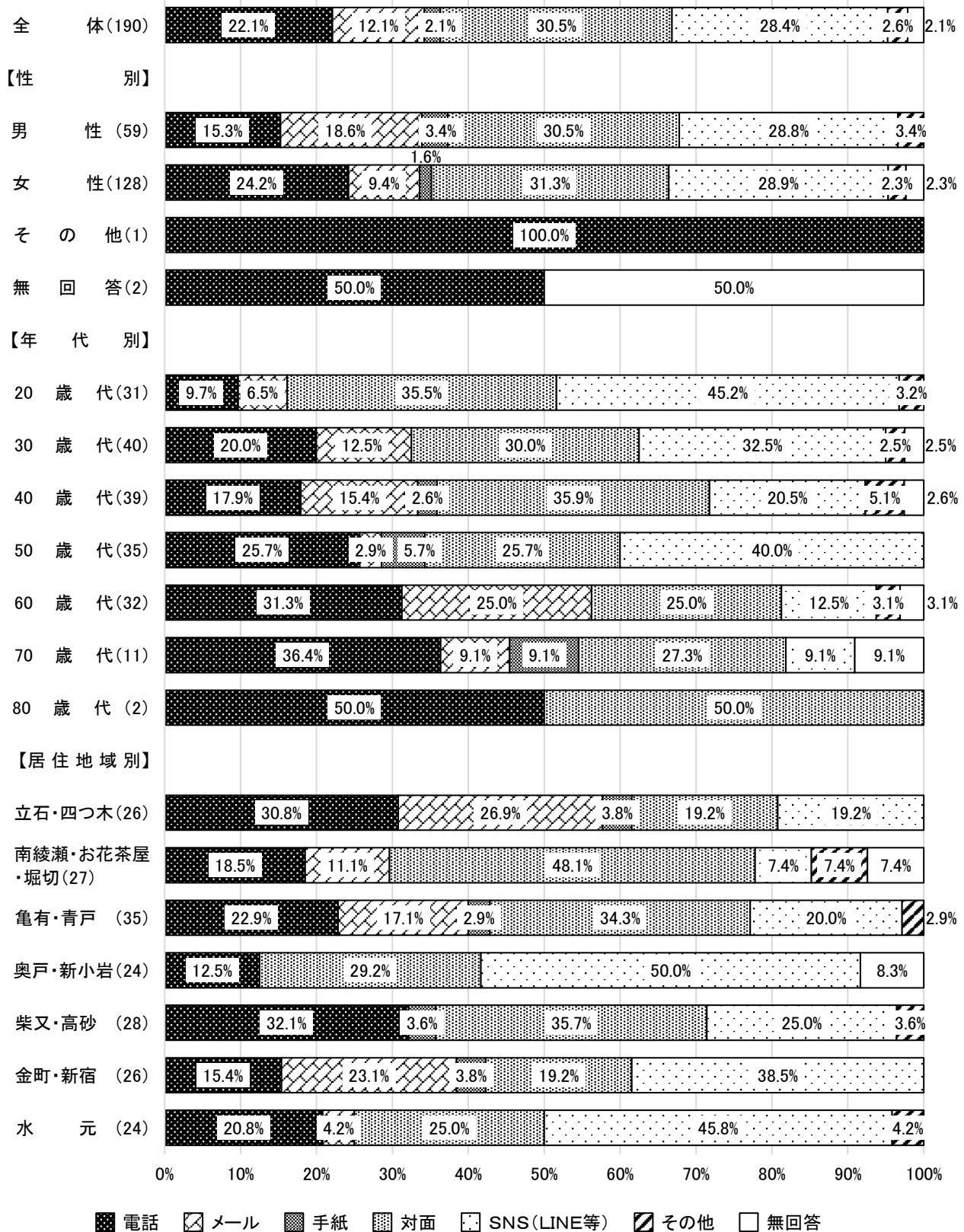
相談方法について、「対面」が30.5%で最も高くなっている。

年代別で見ると、「電話」が最も高くなったのは60歳代で31.3%、70歳代で36.4%となっており、「対面」が最も高くなったのは40歳代で35.9%、「SNS（LINE等）」が最も高くなったのは20歳代で45.2%、30歳代で32.5%、50歳代で40.0%となっている。また、「電話」と「対面」がともに最も高くなったのは80歳代で50.0%であった。

「その他」の内容としては、「警察か行政施設」、「メールで概要説明、その後電話等で対応」、「年齢による」などがある。



問39 自分の子ども、他人の子どもにかかわらず、子どもに関する事で相談ごとがある時、どの手段が特に相談しやすいと思いますか？  
(全体・性別・年代別・居住地域別)

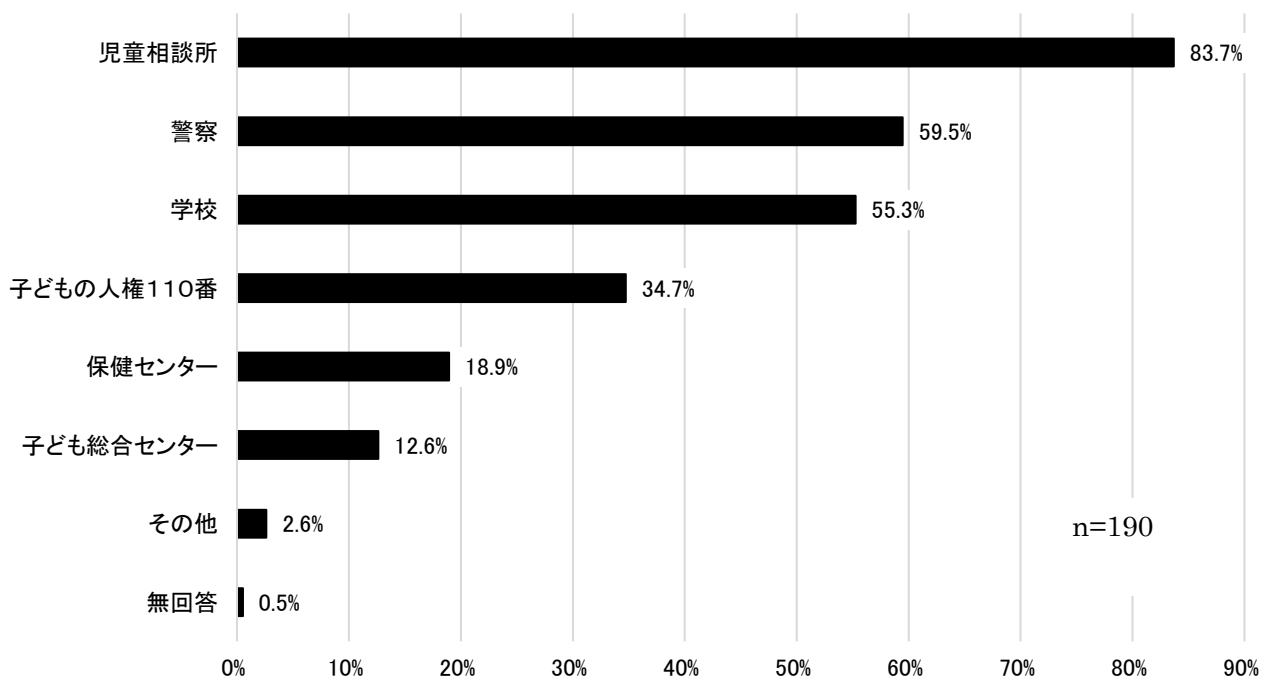


(40) 知っている相談先について

問 40 「いじめ」「体罰」「虐待」など、子どもの権利を侵害するものから子どもを守る（擁護する）際の主な相談先のうち、知っている相談先はありますか？（あてはまるものすべてに○）

子どもの権利を侵害するものから子どもを守る際の主な相談先のうち、知っている相談先について、「児童相談所」が83.7%で最も高くなっている。次いで、「警察」が59.5%、学校が55.3%が続いている。

「その他」の内容としては、「弁護士」、「民生委員」などがある。

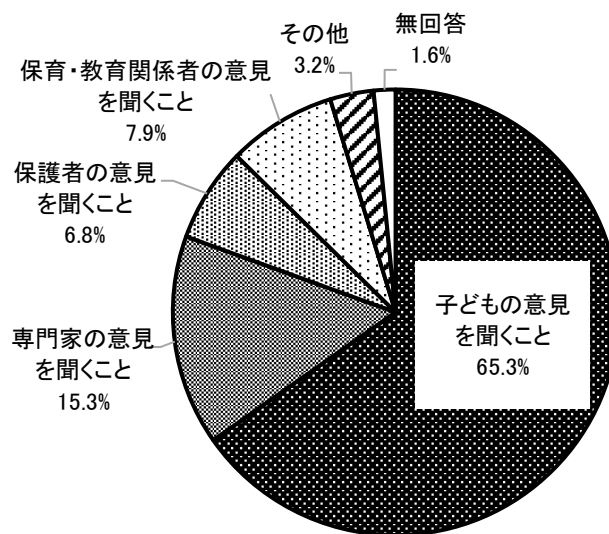


(41) 取組推進のために重要なこと

問 41 今後、区が子どもの権利を守るための取組を進めていくにあたり、特に重要と思うものはどれですか？（〇は1つ）

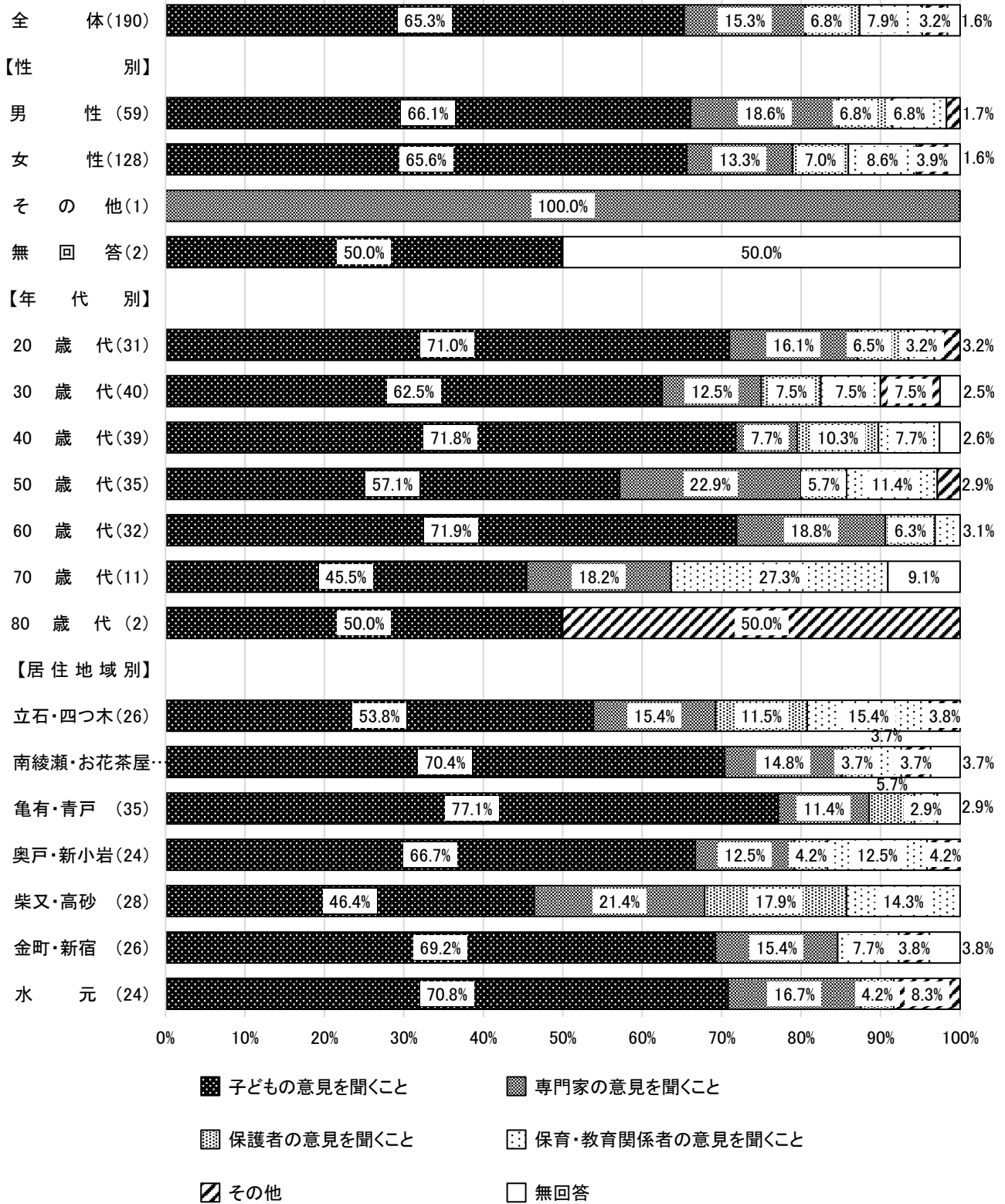
取組推進のために重要なことについて、「子どもの意見を聞くこと」が 65.3%で最も高くなっている。年代別で見ると、すべての年代で「子どもの意見を聞くこと」が最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「全て重要。そうでないとバランスが悪くなると思うから」、「保護者の経済と住宅環境」、「子ども時代に権利を守ってもらえた/守ってもらえなかった経験のある大人の声を聞くこと」などがある。



n=190

問41 今後、区が子どもの権利を守るための取組を進めていくにあたり、特に重要と思うものはどれですか？  
(全体・性別・年代別・居住地域別)



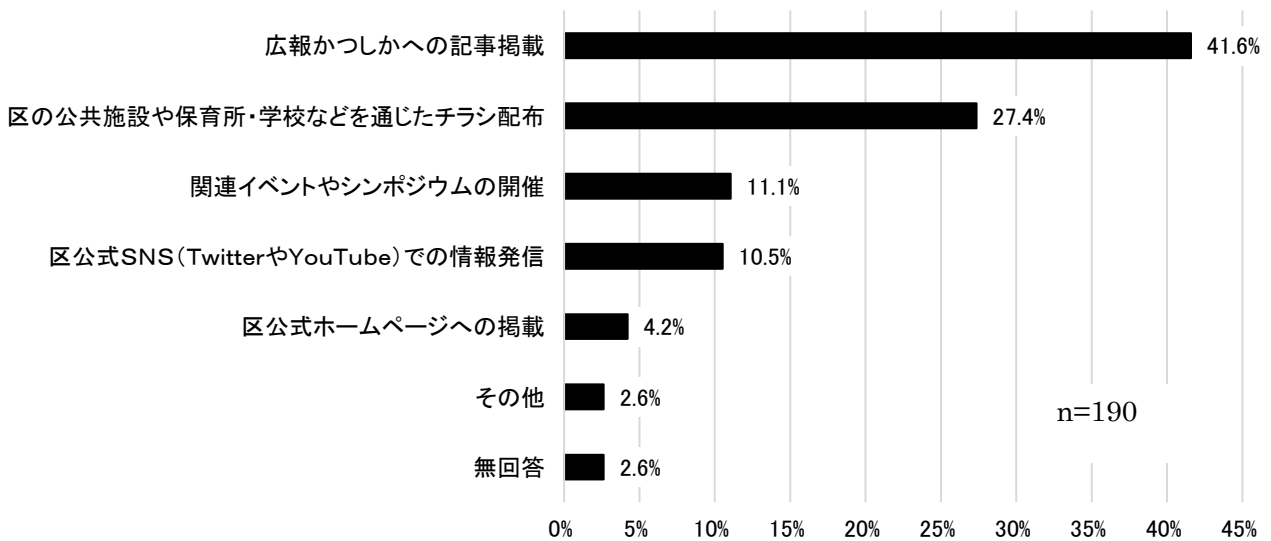
(42) 区民向けの効果的な周知方法について

問 42 今後、区が子どもの権利を守るための取組を進めていくにあたり、区民に向けてどのような周知をしていくことが効果的だと思いますか？（○は1つ）

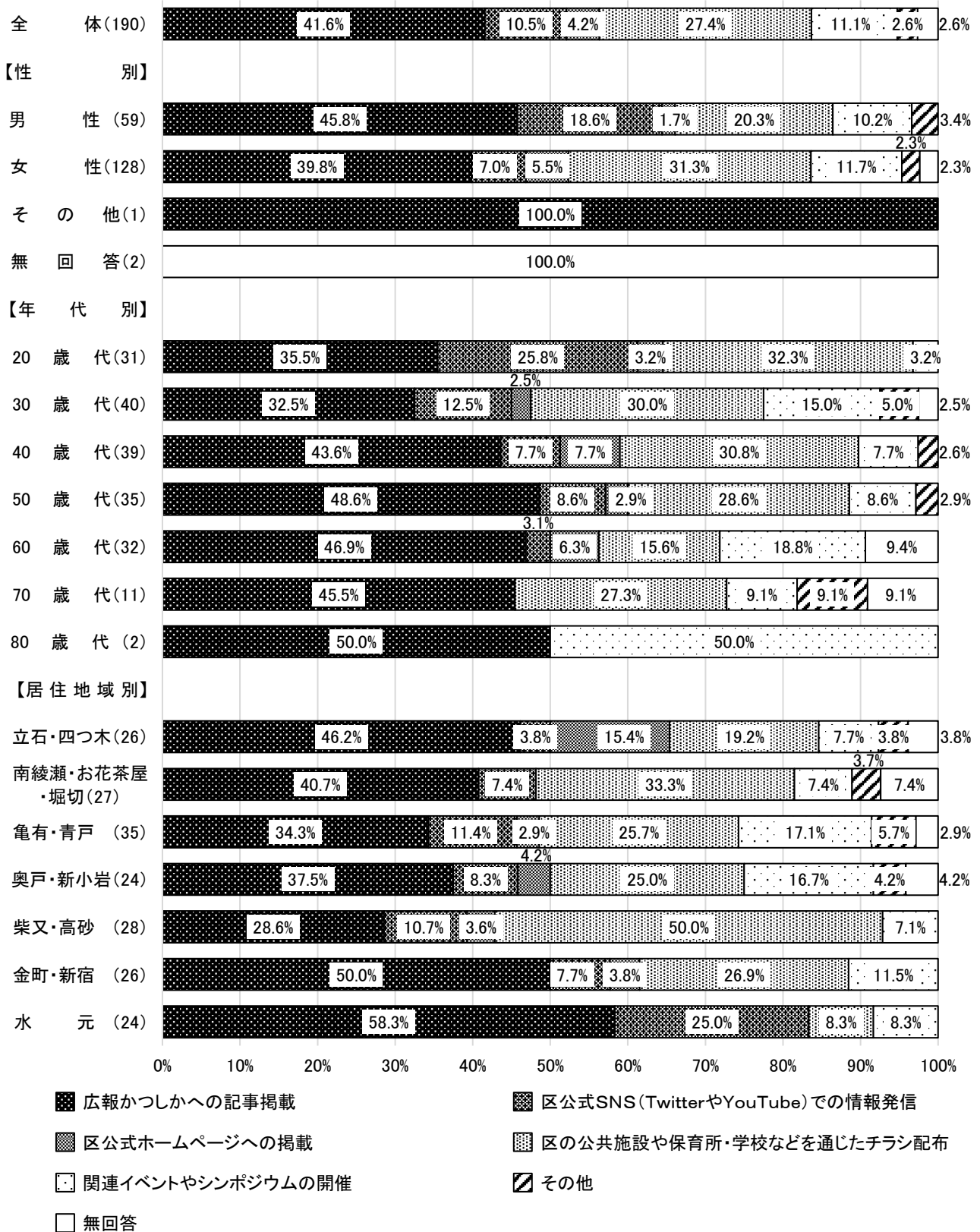
区民向けの効果的な周知方法について、「広報かつしかへの記事掲載」が 41.6%で最も高くなっている。

年代別で見ると、すべての年代で「広報かつしかへの記事掲載」が最も高くなっている。

「その他」の内容としては、「駅や街角の掲示板」、「専門家が直接学校等に行って子ども達に権利がある事を知らせるべき」、「広報車で月2回の区内放送」などがある。



問42 今後、区が子どもの権利を守るための取組を進めていくにあたり、区民  
 に向けてどのような周知をしていくことが効果的だと思いますか？  
 (全体・性別・年代別・居住地域別)





(43) 子どもの権利を守ることについてのご意見

問 43 子どもの権利を守ることについて、ご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

(主な回答)

<広報活動>

- ・子ども自身が1人の人間として権利があることを知ってほしい。(40歳代/女性)
- ・擁護する際の相談所など、全く知らなかった。見かけた時に連絡できるように、もっと発信していくべきだと思う。(30歳代/女性)
- ・子どものいる家庭の保護者に権利を守る大切さを知らせること。(30歳代/女性)
- ・子どもの権利の内容を、子どもが目につけやすい場所に表示していく事が大事。(60歳代/女性)
- ・子どもの権利について知らないことが多いので啓発活動が必要。(50歳代/女性)
- ・「子どもの権利」というと漠然としていて難しい印象があるが、「生きる」「学ぶ」「守られる」など生きるために基本的な事だということを広く老若男女に伝えられるようにSNSやポスター、イベント、学校や幼稚園でも伝えていくことが大切だと思う。(30歳代/女性)
- ・大人に対しては広報かつしかやホームページなど、子どもに対しては学校などを通じて、さまざまな手段で子どもの権利についての情報を発信することが必要だと思う。(40歳代/男性)
- ・子どもの権利条約について、浸透させるべきだと思う。(30歳代/女性)
- ・世界の子どもへの権利紹介などの特集を広報記事にして意見を求めるのもいいと思う。(30歳代/女性)

<地域連携>

- ・子どもの権利を守ることにつながるか分からないが、地域での人々のつながりを大切にすることが大切だと思う。(50歳代/男性)
- ・元精神科の看護師とか、シルバー人材で子育てをしてきた人々が子どもの話を聞いてあげられる環境を作り、近所の人達が子どもの変化を気にかけてあげられる様に子どもが立ち寄れる場を作ってあげたい。(60歳代/女性)
- ・子ども達と保護者はもちろんだが、学校や地域の方などの見守りなども大切。(40歳代/女性)
- ・ヤングケアラーなど本人が言えない子ども達に目をむけるには隣り近所の力が必要。防災訓練や行事で近隣の方と顔を合わす機会を作る。(70歳代/女性)
- ・以前、新聞で医師(小児科医)が虐待に気づいたという記事をみた。小児科医とも連携できる形にしてはどうか。(30歳代/女性)
- ・地域社会の連携を強化してほしい。(40歳代/男性)

### <教育・サポート>

- ・ 誰にも知られずに頼れる場所があるとよい。トイレ個室の中のポスターはいい案だと感じた。  
(40 歳代/女性)
- ・ 虐待等を発見したとき、匿名で通報できるような窓口があればいいと思う。(40 歳代/女性)
- ・ 退職教員など再雇用してスクールカウンセラーを増やしてほしい。(60 歳代/男性)
- ・ 学校や地域の中で、子どもを見守るのが第一で、子どもには「これはおかしいんだよ」等わかるきっかけを作れたらよいと思う。(30 歳代/女性)
- ・ いじめ・体罰・虐待を行った人に対して教育プログラムを受けてもらって、再発させないようにするのはどうか。(50 歳代/女性)
- ・ 子どもに教育機関で「こういう権利がある」ということを伝えることが大事だと思う。(30 歳代/女性)
- ・ 小学校での訪問学習。(20 歳代/女性)
- ・ 子どもが、親や教育者が絶対的存在ではない事を知る事が大切だと思う。(20 歳代/女性)
- ・ 親になるとはどういうことかを教えるセミナーのようなことを区として実施してもよいと思う。  
(20 歳代/男性)
- ・ 子どもに余裕を持って接することができるように親のサポートも必要なのではと感じる。  
(30 歳代/女性)
- ・ 親は勿論ですが、教育者も理解が必要。(60 歳代/男性)
- ・ 親も訴えられることを子どもに教育してほしい。(40 歳代/男性)
- ・ 1 番身近に居る母親が 1 番子どもの理解を深め、守り尊重し、愛情を与え、意見に耳を傾けてあげることが大切。(50 歳代/女性)
- ・ 子どもを授かった親の教育。(60 歳代/男性)

### <その他>

- ・ いじめ問題は親の教育、格差社会等にあり、根本的な差別観がありそう。(70 歳代/男性)
- ・ いじめ問題に対して教育委員会の隠蔽や事なかれ主義の人が多いため、もっと児童相談所や調査する人に権限を与えてほしい。(30 歳代/男性)
- ・ 分かりにくい、とっつきにくい題材なので、分かりやすく、とっつきやすくすることが大切だと思う。  
(30 歳代/女性)
- ・ 自分自身今まで子どもの権利について不自由や問題を感じたことが無いので、ピンとこないのが実情。  
(60 歳代/女性)
- ・ 虐待などを通報しやすくした方がよいと考える。(40 歳代/女性)
- ・ 子どもの貧困が問題となっているが、実際に生活していく中で具体的な現場を見ることがないため現実感がない。一般市民ができることは何かも合わせて知りたい。(30 歳代/女性)
- ・ 地域住民が他人の子どもを守ろうとして行動しても、不審者と疑われてしまう昨今の日本の状況では難しい局面があると思う。(60 歳代/女性)
- ・ 必ずしも話したいことを話せない時があるので一人一人に合わせて『どのような方式での相談を望むか』『誰と』といったファーストコンタクトは大事だと思った。(30 歳代/男性)

- ・助けを必要とする子ども達の声なき声を彼らの不利にならない形で引き出すことが重要だと思う。  
(70 歳代/男性)
- ・子どもと接する機会の多い保育士や教師、保護者の方たちが精神的、時間的、経済的に余裕を持つことが重要。(30 歳代/男性)
- ・専門のカウンセラー（保健室先生含む）の常駐で現状把握するしかないと思う。(70 歳代/男性)
- ・あくまでも守られる子ども側が主体なので、守る側の意見や趣向のようなものが先行して啓発されないようにしたい。(30 歳代/女性)
- ・子ども達に逃げ道をたくさん作ってあげること、相談できる人を増やすこと、誰に相談していいか教えてあげることがまず大事だと思う。(30 歳代/女性)

(など 75 件)

令和4年度 第1回  
葛飾区区民モニターアンケート調査報告書

令和4年（2022年）9月発行

葛飾区総務部すぐやる課すぐやる係  
東京都葛飾区立石5-13-1  
電話 03-3695-1111（代表）

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。